

「泉佐野市男女共同参画市民意識調査」
結果報告書

平成 23 年 3 月
泉佐野市

目次

第1章	2
1. 調査の概要	3
2. 結果の分析	4
第2章	9
1. 男女平等の意識について.....	10
2. ワーク・ライフ・バランスについて.....	11
3. 地域活動について.....	11
4. 男女の地位に関する意識について.....	12
5. 教育について	12
6. 心と体の健康について.....	13
7. 男女共同参画の認知状況について.....	14
8. 人権の尊重について.....	15
9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について.....	17
第3章	19
1. 男女平等の意識について.....	20
2. ワーク・ライフ・バランスについて.....	30
3. 地域活動について.....	36
4. 男女の地位に関する意識について.....	42
5. 教育について	45
6. 心と体の健康について.....	49
7. 男女共同参画の認知状況について.....	61
8. 人権の尊重について.....	64
9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について.....	84
第4章	89
1. 自由意見（抜粋・要約）	90
2. 調査結果からみた課題.....	96
資料（調査票）	104

第1章

1. 調査の概要

調査の目的：平成14年度策定の「泉佐野市男女共同参画すいしん計画・実施計画」の見直し時期を踏まえ、次期計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内に居住する満20歳以上の男女2,000人

調査方法：郵送による調査票の配布および回収

調査期間：平成23年2月28日～3月14日

調査内容

1. 男女平等の意識について
2. ワーク・ライフ・バランスについて
3. 地域活動について
4. 男女の地位に関する意識について
5. 教育について
6. 心と体の健康について
7. 男女共同参画の認知状況について
8. 人権の尊重について
9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

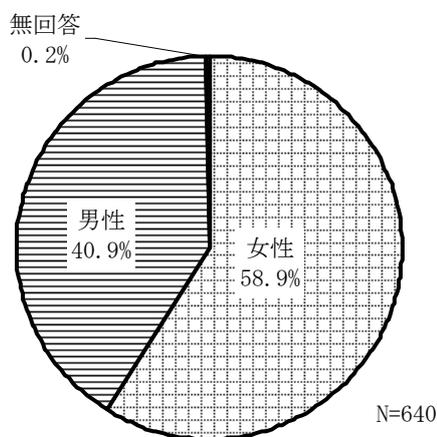
有効回収数：640人（有効回収率 32.0%）

配付数	回収数	有効回収数			有効回収率
2,000票	640票	640票			32.0%
		女性	男性	不明	
		377票 58.9%	262票 40.9%	1票 0.2%	

2. 結果の分析

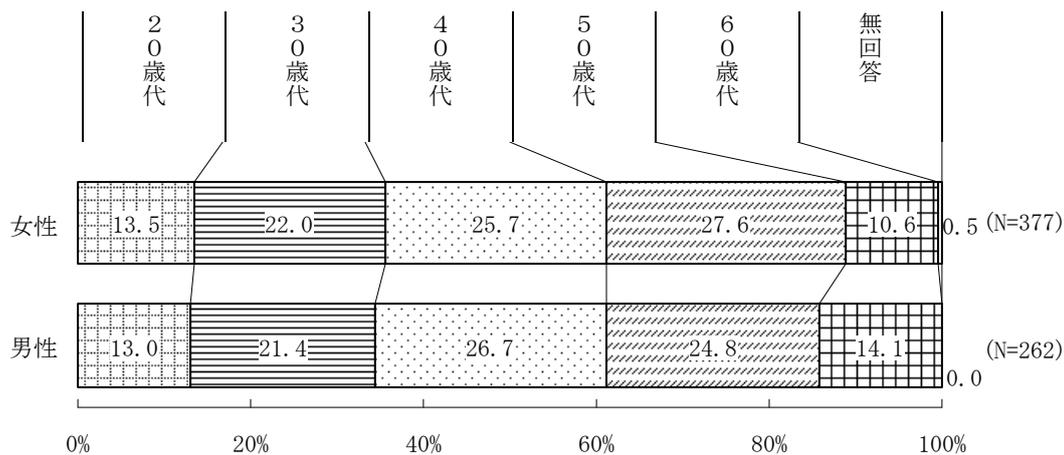
(1) 回答者の属性

性別



「女性」は58.9%、「男性」は40.9%で女性の方が18.0ポイント高い。

年代



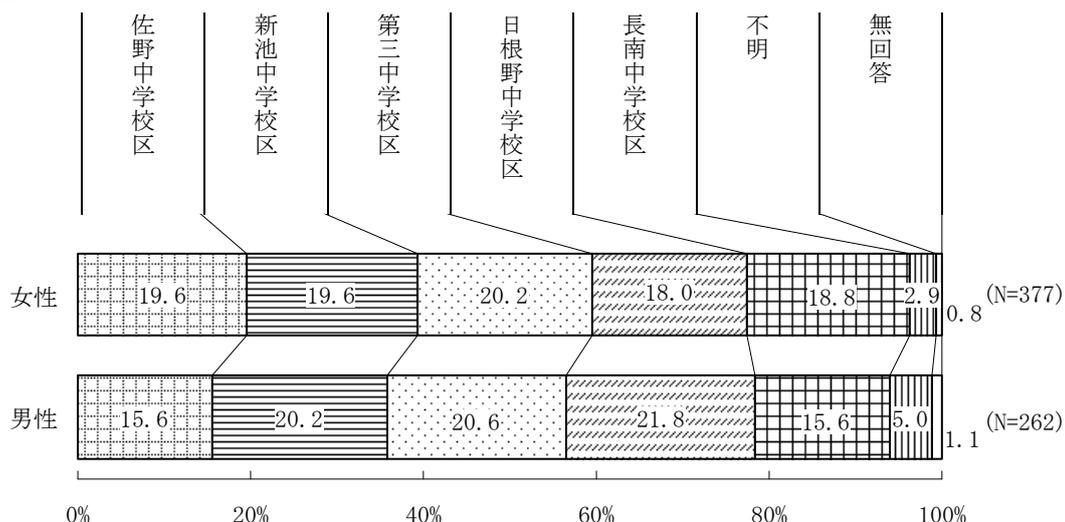
女性は「50歳代」が最も高く27.6%、男性は「40歳代」が最も高く26.7%である。他の年代と比べて「20歳代」と「60歳代」の割合が低い。

母集団の人口構成比と比較しても、男女ともに「50歳代」は母集団より高く、「60歳代」では母集団より低くなっている。

母集団の性・年齢層別人口構成比（平成21年1月末現在）

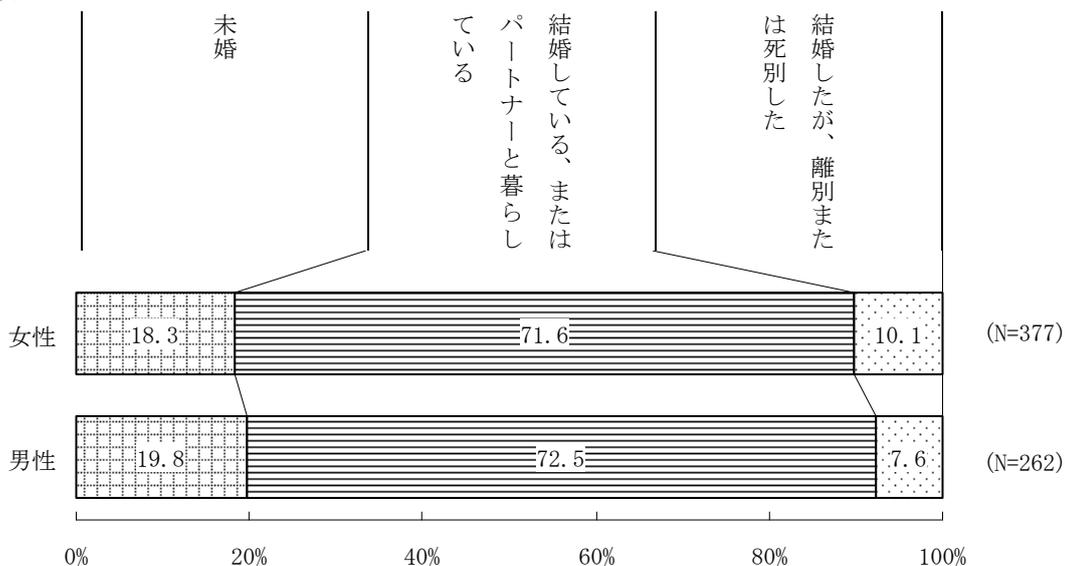
	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
女性	33,836	17.1	22.2	21.6	17.3	21.7
男性	33,071	17.3	23.1	22.1	17.6	19.9

中学校区



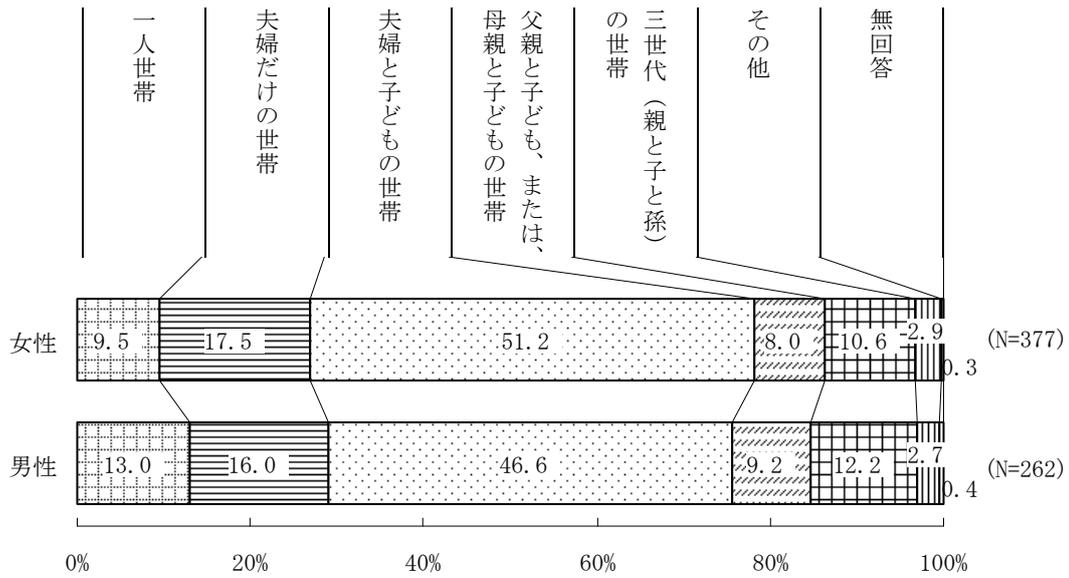
各中学校区で均等に(各校区 20%ずつ)調査票を配布した結果、女性は「第三中学校区」が 20.2%、男性は「日根野中学校区」が 21.8%でわずかに割合が高い。

婚姻状況



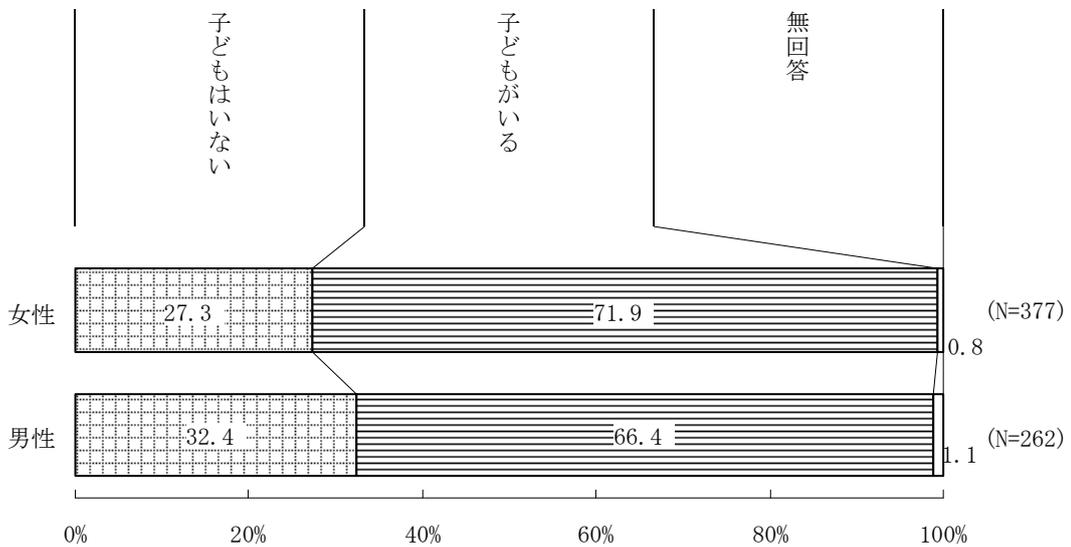
男女ともに「結婚している、またはパートナーと暮らしている」が最も高く、女性 71.6%、男性 72.5%である。「未婚」の割合は男性の方が 1.5 ポイント、「結婚したが、離婚または死別した」の割合は女性の方が 2.5 ポイント高い。

家族構成



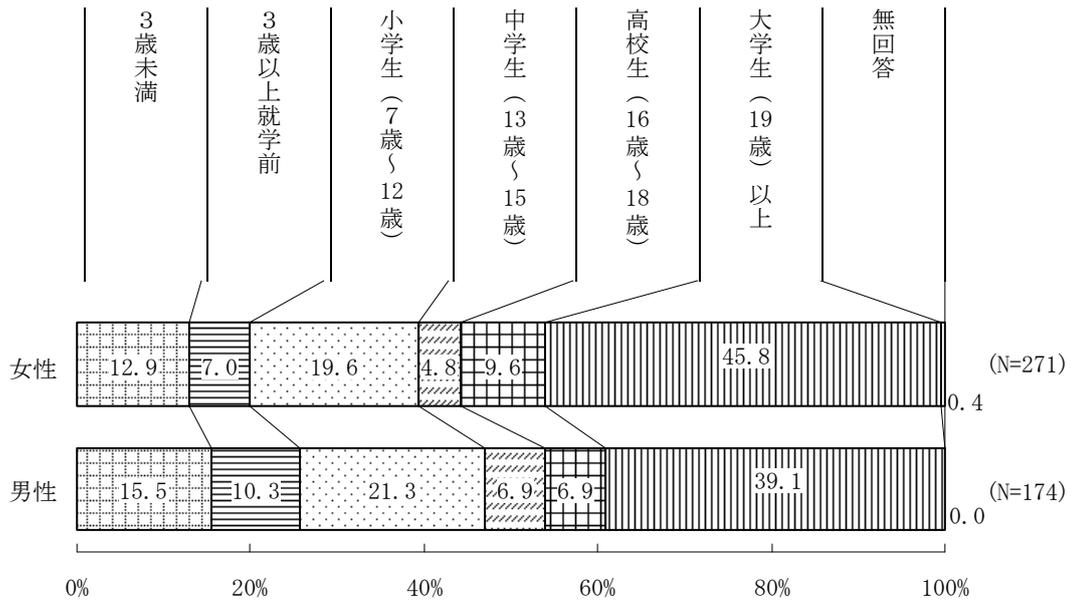
男女とも「夫婦と子どもの世帯」が最も高く、女性 51.2%、男性 46.6%である。次いで「夫婦だけの世帯」が女性 17.5%、男性 16.0%と続いている。「父親と子ども、または、母親と子どもの世帯」は女性 8.0%、男性 9.2%でひとり親家庭が 1 割弱となっている。

子どもの有無



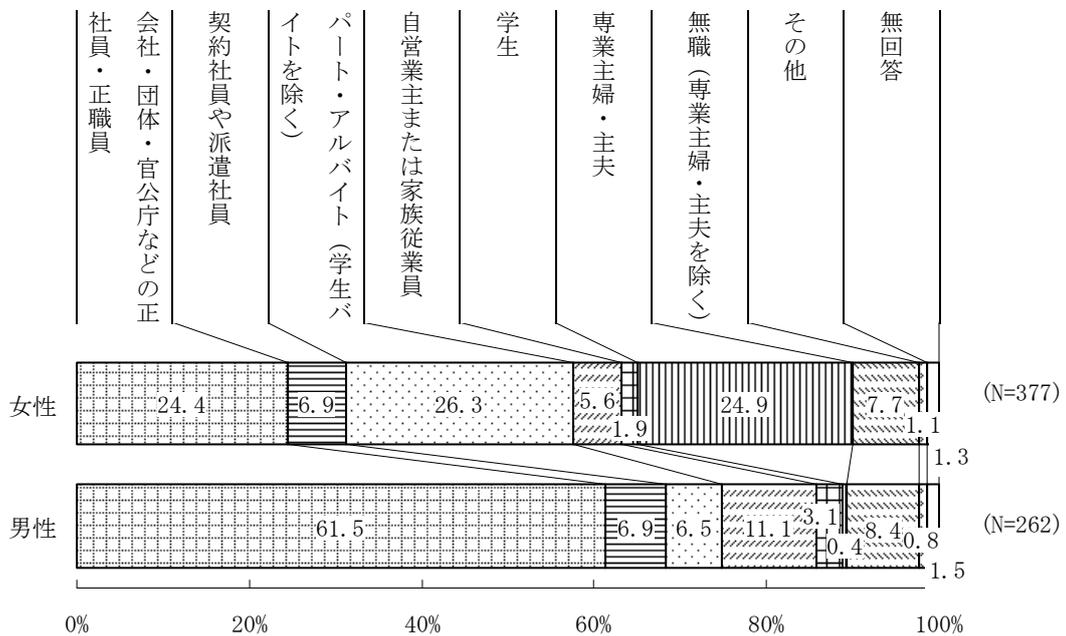
「子どもはいない」割合は女性 27.3%、男性 32.4%、「子どもがいる」割合は女性 71.9%、男性 66.4%である。

末子の年代



末子年齢は男女とも「大学生（19歳）以上」が女性45.8%、男性39.1%で最も高い。次いで「小学生（7歳～12歳）」「3歳未満」の順となっている。

就労状況



女性は、「パート・アルバイト（学生バイトを除く）」が26.3%で最も高い割合である。次いで、「専業主婦」が24.9%、「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」が24.4%と続く。働いている割合は63.2%である。

男性は、「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」が61.5%で最も高い割合である。次いで、「自営業主または家族従業員」が11.1%であり、働いている割合は、86.0%である。

年代別にみると、女性の場合は40歳代と50歳代で「パート・アルバイト（学生バイトを除く）」が3割強で最も高い。男性の場合は60歳代で「無職（専業主婦・主夫を除く）」が27.0%である。

【性・年代別】

		全体	会社・団体・官公庁などの正社員・正職員	契約社員や派遣社員	パート・アルバイト(学生バイトを除く)	自営業主または家族従業員	学生	専業主婦・主夫	無職(専業主婦・主夫を除く)	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	253 39.5	44 6.9	116 18.1	50 7.8	15 2.3	95 14.8	51 8.0	7 1.1	9 1.4
女性	20歳代	51 100.0	21 41.2	5 9.8	8 15.7	- -	7 13.7	5 9.8	3 5.9	- -	2 3.9
	30歳代	83 100.0	23 27.7	9 10.8	16 19.3	4 4.8	- -	25 30.1	4 4.8	1 1.2	1 1.2
	40歳代	97 100.0	23 23.7	9 9.3	32 33.0	5 5.2	- -	18 18.6	8 8.2	2 2.1	- -
	50歳代	104 100.0	20 19.2	3 2.9	34 32.7	7 6.7	- -	29 27.9	8 7.7	1 1.0	2 1.9
	60歳代	40 100.0	5 12.5	- -	8 20.0	5 12.5	- -	17 42.5	5 12.5	- -	- -
男性	20歳代	34 100.0	19 55.9	2 5.9	3 8.8	- -	8 23.5	- -	1 2.9	1 2.9	- -
	30歳代	56 100.0	39 69.6	4 7.1	2 3.6	6 10.7	- -	- -	1 1.8	- -	4 7.1
	40歳代	70 100.0	58 82.9	4 5.7	- -	4 5.7	- -	- -	4 5.7	- -	- -
	50歳代	65 100.0	39 60.0	1 1.5	7 10.8	12 18.5	- -	- -	6 9.2	- -	- -
	60歳代	37 100.0	6 16.2	7 18.9	5 13.5	7 18.9	- -	1 2.7	10 27.0	1 2.7	- -

第2章

1. 男女平等の意識について

1-1. 固定的な性役割分担意識（問8）〈図1-1〉

■男性では「男は仕事、女は家庭」という考え方に「そう思う」割合が高い

「男は外で働き、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねた。

女性の場合は、〈同感グループ〉（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が34.8%、〈同感しないグループ〉（「そうは思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が62.9%である。

男性の場合は、〈同感グループ〉が45.4%、〈同感しないグループ〉が52.3%である。男女で比較すると男性の方が〈同感グループ〉の割合が10.6ポイント高い。

1-2. 結婚、家庭生活に関する考え方（問9）〈図1-2〉

■半数の女性が「結婚は個人の選択」と考えている

結婚や家庭生活に関する考え方についてたずねた。

「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい」にたいしての「賛成」は、女性50.9%・男性38.5%、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」にたいしての「賛成」は、女性37.4%・男性27.5%、「結婚してもうまくいかないときは離婚することもやむを得ない」にたいしての「賛成」は、女性42.7%・男性33.6%、いずれの項目でも女性の方が「賛成」の割合が10ポイント前後高い。

1-3. 家庭における役割分担についての考え方（問10）〈図1-3〉

■男女ともに「生活費をかせぐ」では男性の役割、「日常の家計の管理」「日常の家事」では女性の役割であるとの割合が高い

家庭における役割についての考え方をたずねた。

「生活費をかせぐ」では「主に夫・パートナー（男性）」の割合が女性63.1%・男性65.3%で男女共に最も高い。「日常の家計の管理」「日常の家事」では「主に妻・パートナー」の割合が男女ともに50%前後で最も高い。「家族の介護や看護」「育児や子どもの教育としつけ」「町内会や自治会などの地域活動」では「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が男女共に最も高い。

1-4. 現実の家庭における役割（問10）〈図1-4〉

■現実の家庭では、「考え方」よりも「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が低い

現実の家庭における役割についてたずねた。

「生活費をかせぐ」では、男女ともに「主に夫・パートナー（男性）」の割合が高く女性74.1%・男性77.4%である。一方、「妻・パートナー（女性）」の割合が高いのは「日常の家計の管理」（女性79.3%・男性77.4%）、「日常の家事」（女性82.2%・男性77.9%）である。

「役割についての考え方」と比較すると、いずれの項目でも男女ともに「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が低い。「考え方」と「現実」で、「夫婦・カップルで同じくらい分担」の差が最も大きいものは、「家族の介護や看護」においてで、女性は考え方67.4%・現実21.1%で46.3

ポイント差、男性は考え方 58.4%・現実 27.9%で 30.5 ポイント差である。

2. ワーク・ライフ・バランスについて

2-1. 暮らし方の希望と現実（問 1 1）〈図 2-1、図 2-2〉

■「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」の割合は「希望」としては高いが、「現実」では低い

「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度についてたずねた。

男性の場合、希望の暮らし方では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」が最も割合が高く 37.4%、「『仕事』を優先」の割合は 3.8%である。しかし現実の暮らし方を見ると、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」の割合は 6.5%にとどまり、「『仕事』を優先」が最も高い割合の 38.9%となっている。

女性の場合、希望する暮らし方では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」が最も割合が高く 36.1%である。実際の暮らし方では「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」が最も高く 23.1%、次いで「『仕事』を優先」が 20.7%と高い。

2-2. 男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策（問 1 2） 〈図 2-3〉

■女性では家庭や学校で体験が必要との割合が高く、男性では話し合い・意識改革の必要との割合が高い

男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策についてたずねた。

女性の場合、最も割合が高かったのは「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」（55.7%）で、「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」（53.1%）、「男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること」（44.3%）が続く。

男性の場合、「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が 43.9%でもっとも高い。女性では最も割合が高い「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」は、男性では 21.3 ポイント低い 34.4%にとどまる。男性の方が女性より割合が高い項目としては「男性自身が仕事中心の生き方、考え方を改めること」（女性 32.4%・男性 36.6%）がある。

3. 地域活動について

3-1. 女性リーダーを増やすための方策（問 1 3）〈図 3-1〉

■女性では「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供」の割合が多い

地域や職場で女性リーダーを増やすためにはどうすればよいかをたずねた。

女性では「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」の割合が最も高く 64.5%である。男性では「女性リーダーに対する男性の意識を変える」の割合が最も高く 45.8%である。

「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」、「女性が活動できるように、家族で家事を分担する」ではそれぞれ 19.8 ポイント・13.8 ポイント女性の方が高くなっている。一方、「女性自身が意識を変える」は 8.9 ポイント男性の方が高くなっている。

3-2. 現在参加している活動と今後参加したい活動（問14）〈図3-2、図3-3〉

■ 2人に1人の割合で何らかの活動に参加している

現在参加している活動と今後参加したい活動についてたずねた。

現在、「どれにも参加していない」の割合が男女ともに最も高く女性 47.7%・男性 50.0%である。「どれにも参加していない」の割合を年代別にみると、20歳代女性では 60.8%、20歳代男性では 70.6%で、20歳代は男女ともに年代中最も高くなっている。参加している活動では「自治会活動」が女性 14.6%・男性 18.7%で男女ともに最も割合が高い。

今後参加したい活動については、女性の場合、「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」の割合が最も高く 30.2%である。男性の場合、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」の割合が 20.2%で最も高い活動内容である。

「参加したくない」とする割合は女性 16.7%・男性 23.3%となっている。

4. 男女の地位に関する意識について

4-1. 男女の地位の平等感（問15）〈図4-1〉

■ 「社会通念・慣習・しきたり」では『男性優遇』と考える男女は7割を超える

社会のさまざまな分野における男女の地位の平等感についてたずねた。

「平等である」の割合が男女ともに最も高かったのは「学校教育の場で」で女性 42.4%・男性 51.1%である。「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合を合計した『男性優遇』の割合が最も高かったのは男女ともに「社会通念・慣習・しきたり」で女性 75.3%・男性 72.9%である。次いで「政治の場」が女性 73.2%・男性 66.4%の割合で高くなっている。

『男性優遇』の割合が男女差で大きいのは、「家庭生活」と「法律や制度の上で」で、それぞれ 16.0 ポイント、16.1 ポイント女性のほうの割合が高い。

5. 教育について

5-1. 子どもに望む生き方（問16）〈図5-1〉

■9割の男女が「個性や才能を生かした生活」を望んでいる

子どもがいると仮定して、将来「どのような生き方」をして欲しいかをたずねた。

「本人の個性や才能を生かした生活をする」では、「女子・男子の両方に」の割合が女性 91.5%・男性 89.3%と最も高い。また、「社会的な地位を得る」を除いた全ての項目で「女子・男子の両方に」を望む割合が男女ともに7割から9割に達する。

「社会的な地位を得る」に関しては他項目と比べて、「女子・男子の両方に」の割合は女性 48.8%・男性 46.6%と低く、「女子・男子の両方に望まない」の割合が女性 22.5%・男性 26.3%と高い。

「特に女子に」の割合が高い項目は「炊事、掃除、洗濯など家事が出来る」（女性 12.7%・男性 19.8%）、「特に男子に」の割合が高い項目は「社会的な地位を得る」（女性 18.8%・男性 22.5%）、「経済的に自立した生活をする」（女性 13.0%・男性 18.7%）である。

5-2. 小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組み（問17）〈図5-2〉

■男女ともに子どもの個性や能力を生かせる教育を望む割合が高い

小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組みについてたずねた。

「男女にかかわらずなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」（女性 75.6%・男性 71.0%）、「男女にかかわらずなく、働くことの意義を教える」（女性 70.3%・男性 62.6%）の割合が男女ともに高い。男女で比較すると「こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う」は女性 51.5%・男性 38.2%で女性の方が男性よりも 13.3 ポイント割合が高い。

6. 心と体の健康について

6-1. 「男はつらい」と感じる事（問18、問18-1）〈図6-1、図6-2〉

■50歳代男性では7割が「男はつらい」と感じている

男性に「男はつらい」と感じる事があるかたずねた。

「ある」の割合は 57.3%で、「ない」の 40.8%を 16.5 ポイント上回っている。

年代別にみると、20歳代では「ある」が 38.2%、「ない」が 52.9%で、「ない」が 14.7 ポイントほど上回っている。30歳代では「ある」と「ない」は 48.2%で同率である。40歳代では「ある」が 61.4%、「ない」が 38.6%、50歳代では「ある」が 72.3%、「ない」が 27.7%と、それぞれ 22.8 ポイント・44.6 ポイントほど「ある」が上回っている。

「男はつらい」と感じる理由をみると、「家族を養うのは男の責任だと言われる」（45.3%）、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる」（41.3%）の割合が高い。次いで、「男だから頑張れと言われる」（29.3%）、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」（27.3%）、「常にリードすることが求められる」（26.7%）と続いている。

6-2. 女性の心身の健康を保つために泉佐野市が取組む必要があること（問19）〈図6-3〉

■検診や健康づくりに関する情報提供や安心して出産できる医療体制の充実が6割を超える男女が望んでいる

女性の心身の健康を保つために泉佐野市が取り組む必要があることについてたずねた。

女性の場合、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」(69.0%)、「安心して出産できるよう医療体制を充実する」(65.5%)、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(64.7%)の割合が高い。

男性の場合、「安心して出産できるよう医療体制を充実する」(61.1%)、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」(56.1%)、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(47.7%)の順に割合が高くなっている。

年代別に見ると、20代女性では「安心して出産できるよう医療体制を充実する」の割合が84.3%と高い。

6-3. 日ごろ、困り事や悩み事などを話す相手(問20) <図6-4>

■主な相談相手は「家族」や「友人」

日ごろ、困り事や悩み事などを話す相手についてたずねた。

男女ともに「家族」(女性78.2%・男性69.8%)が最も高く、次いで、「友人」(女性62.9%・男性42.4%)と続く。「家族」・「友人」については、女性がそれぞれ8.4ポイント・20.5ポイントほど男性よりも高い。

相談相手が「誰もいない」の割合は女性5.3%・男性9.5%で男性の方が割合が高く、男性30歳代では17.9%が「誰もいない」を選択している。

6-4. 公的な相談機関・窓口の認知度と利用状況(問21) <図6-5>

■「発達相談、育児相談」、「家庭児童相談、母子家庭相談」、「無料法律相談」の認知度は高い

泉佐野市や大阪府の主な相談機関や相談窓口の認知状況についてたずねた。

『知っている』の割合が高い項目は「家庭児童相談、母子家庭相談」(女性68.5%・男性55.4%)、「発達相談、育児相談」(女性70.6%・男性51.2%)、「無料法律相談」(女性63.7%・男性59.1%)である。「利用したことがある」の割合は「発達相談、育児相談」が女性13.3%・男性11.1%で男女ともに最も高く、「無料法律相談」が女性8.0%・男性8.0%と続く。

「知らない」の割合が高いのは、女性では「性犯罪者被害者相談(ウーマンライン)」(67.4%)、「大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談」(61.0%)である。男性では、「大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談」(73.3%)、「大阪府女性相談センター」(72.9%)が高い。

年代別に見ると20歳代女性は全ての項目で「知らない」の割合が年代中最も高い。

7. 男女共同参画の認知状況について

7-1. 男女共同参画に関する言葉の認知度(問22) <図7-1>

■「ドメスティック・バイオレンス」の認知度は約9割

男女共同参画に関する言葉の認知度についてたずねた。

男女ともに最も認知度が高かったのは「ドメスティック・バイオレンス(DV)」で女性91.5%・

男性 89.7%である。次いで「男女雇用機会均等法」(女性 76.7%・男性 82.1%)、「育児・介護休業法」(女性 63.9%・男性 64.1%)となっている。認知度が低かったのは「人ひとプラン(泉佐野市男女共同参画すいしん計画)」(女性 6.4%・男性 6.9%)、「いずみさの男女共同参画つうしん F i n e」(女性 11.9%、男性 7.6%)である。

7-2. いずみさの女性センターの利用状況(問 23) <図 7-2>

■最も多いのは「講座やセミナー」の利用者

「いずみさの女性センター」の名前を聞いたことがある人に、利用状況をたずねた。

男女ともに、「講座やセミナー」が女性 25.0%・男性 18.2%で最も高くなっている。次いで、女性では「情報収集や図書の利用」(15.4%)、「仲間づくりや団体とのネットワーク活動」(10.6%)が続いている。

8. 人権の尊重について

8-1. 女性の人権が尊重されていないと感じること(問 24) <図 8-1>

■「性犯罪」・「DV」・「痴漢行為」が男女ともに割合が高い

女性の人権が尊重されていないと感じることについてたずねた。

男女とも「性犯罪」(女性 63.7%・男性 61.1%)、「DV・デートDVに女性の被害者が多いこと」(女性 61.0%・男性 50.8%)、「痴漢行為」(女性 56.8%・男性 50.0%)の割合が高い。

すべての項目で男性の回答割合は女性を下回り、「DV・デートDVに女性の被害者が多いこと」(10.2ポイント差)、「職場での男女の待遇の違い」(13.3ポイント差)、『女のくせに』『女だから』などという言葉(10.2ポイント差)で男女差が大きい。さらに性・年齢別で見ると、「痴漢行為」では女性の 20 歳代では 76.5%が人権が尊重されていないと感じているのに対して、男性 40 歳代では 40.0%と、36.5ポイントの開きがある。

8-2. セクシュアル・ハラスメントにあたると思うこと(問 25) <図 8-2>

■「キスなどの性的な行為を強要される」では男女ともに 8 割がセクシュアル・ハラスメントにあたると思っている

セクシュアル・ハラスメントにあたると思うことについてたずねた。

「キスなどの性的な行為を強要される」が女性 80.4%・男性 84.7%でともに最も高く、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」(女性 74.3%・男性 81.7%)、「わざと身体に触れられる」(女性 75.6%・男性 75.6%)が続いている。

男女で比較すると、「からだをじろじろ見られる」は女性 50.1%・男性 40.1%と女性が男性よりも 10.0ポイント高い。一方、「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」では男性が女性よりも 7.4ポイント高い。

8-3. セクシュアル・ハラスメントの経験（職場、学校、地域）（問25）＜図8-3、4、5＞

■職場では「力仕事やお茶くみ」、学校では「容姿」、地域では「おばさん・おじさん」

職場、学校、地域におけるセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねた。

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、女性では「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」と「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が同率の16.4%で最も高い。男性では「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」が13.7%で最も高い。

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が、女性6.6%・男性6.5%で最も高い。年代別にみると、20歳代は「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が女性21.6%・男性14.7%と他の年代よりも高くなっている。

地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験は、男女ともに「『女の子、おばさん』『男の子、おじさん』など名前とは異なる呼ばれ方をする」が最も高く女性4.2%・男性3.1%である。

8-4. 「暴力」にあたると思う行為（問26）＜図8-6＞

■身体的な暴力については男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が約8割

配偶者やパートナーからの行為で「暴力」にあたると思う行為についてたずねた。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い項目は「身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」（女性85.4%・男性84.4%）、「平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる」（女性83.3%・男性78.6%）、「望まない性行為を強要される」（女性70.8%・男性59.9%）である。

男女で比較すると、すべての項目において「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が女性は男性を上回っており、「あなたのお金を取り上げたり預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない」、「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」では、それぞれ14.2ポイントと13.1ポイント、女性が男性よりも高い。

8-5. 配偶者やパートナーから暴力を受けた経験（問26）＜図8-7＞

■女性で「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」の経験は30.2%

配偶者やパートナーから暴力を受けた経験をたずねた。

「たびたびあった（ある）」と「たまにあった（ある）」を合計した『経験がある』は、男女ともに「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」が最も高く女性30.2%・男性24.8%である。次いで高いのは、男女ともに「何をやっても、何を言っても長期間無視される」で、女性16.7%・男性19.8%である。

「何をやっても、何を言っても長期間無視される」と「あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする」「身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」を除く項目において、女性の方が男性よりも『経験がある』の割合が高い。「たびたびあった（ある）」に限れば、全ての項目において女性の方が男性よりも割合が高い。

8-6. 暴力を受けた後の相談状況(問27) <図8-8>

■「相談しようと思わなかった」の割合は女性では36.2%、男性では56.0%

暴力を受けた後の相談状況についてたずねた。

最も割合が高い相談相手は、男女ともに「友人・知人」で女性28.3%・男性14.3%、次いで、「家族や親族」の女性22.4%・男性8.8%である。

「相談しようと思わなかった」の割合では女性36.2%・男性56.0%、「相談したかったが、しなかった」の割合は女性12.5%・男性13.2%である。「相談しようと思わなかった」では男性の方が19.8ポイントほど女性よりも割合が高い。

8-7. 相談しなかった、しようと思わなかった理由(問28) <図8-9>

■「相談するほどのことではないと思ったから」が男女ともに50%を超える

暴力について相談しなかった、しようと思わなかった理由についてたずねた。

「相談するほどのことではないと思ったから」の割合は、女性55.8%・男性63.1%で男女ともに最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性32.5%・男性44.6%)、「自分さえがまんすればすむと思ったから」(女性26.0%・男性18.5%)が男女ともに続いている。

9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

9-1. 男女があらゆる分野で平等になるために重要と思うこと(問29) <図9-1>

■女性では「仕事と育児・介護等の両立を支援」、男性では「意識改革」

男女があらゆる分野で平等になるために重要と思うことについてたずねた。

女性の場合は、「仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること」が57.0%で最も高くなっている。次いで、「女性自身が経済力を得たり、知識・技術を習得するなど、積極的に生活力や地位の向上を図ること」(54.4%)、「男性の意識改革」(52.3%)の割合が高い。

男性の場合は、「男性の意識改革」が62.2%で最も高い。次いで「女性の意識改革」(51.9%)、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(46.2%)の割合が高い。

「女性自身が経済力を得たり、知識・技術を習得するなど、積極的に生活力や地位の向上を図ること」、「仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること」では、それぞれ16.2ポイント・13.9ポイント女性の方が割合が高くなっている。

9-2. 泉佐野市で男女共同参画を推進するために力を入れて取り組むべきこと(問30) <図9-2>

■「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」が男女ともに50%を超える

泉佐野市で男女共同参画を推進するために力を入れて取り組むべきことについてたずねた。

男女ともに最も割合が高かったのは、「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」で女性 69.5%・男性 52.7%である。

女性では「女性の就職や再就職、起業、資格取得に対する支援を充実する」(50.1%)、「職場において男女が公平な待遇をされるよう企業等に働きかける」(38.7%)が続く。

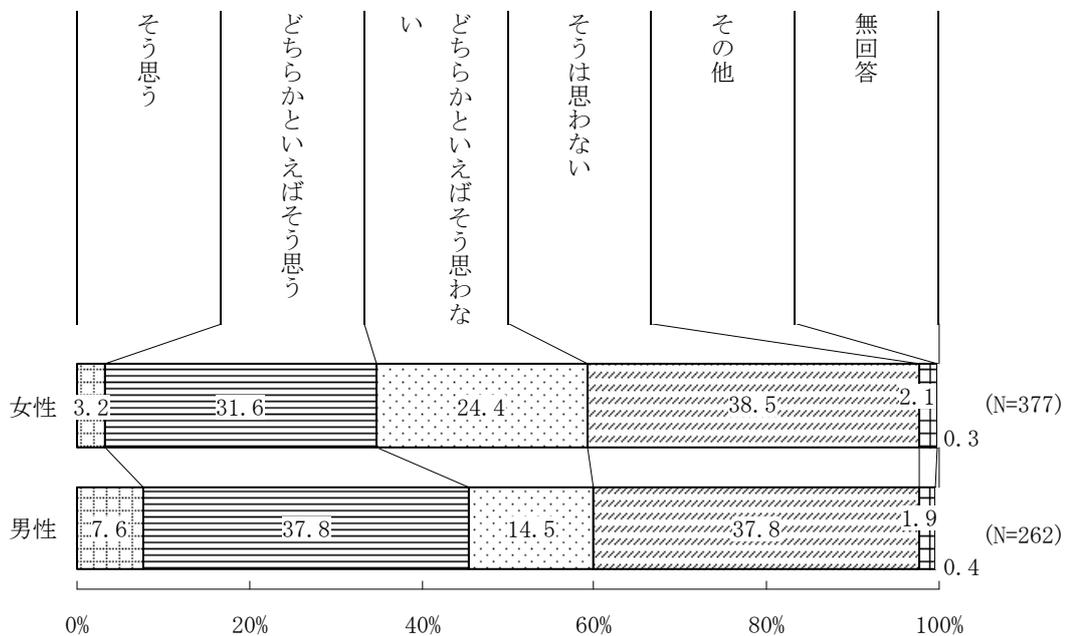
男性では「女性に対する暴力(セクシュアル・ハラスメントや配偶者・パートナーからの暴力)の防止や被害者への支援を充実する」(33.2%)、「お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする」(32.1%)、「市の男女共同参画に関する政策・事業について市民の声を聞く場や制度を充実させる」(32.1%)が続く。

第3章

1. 男女平等の意識について

問8 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(○は1つ)

図1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方



■女性では固定的な性別役割分担意識に反対の意見が6割強

「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識について、女性では「そうは思わない」の割合が最も高く 38.5%、次いで、「どちらかといえばそう思う」が 31.6%である。

男性の場合は、「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思う」の割合が各 37.8%である。

「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（以下『反対派という』）は、女性の場合は 62.9%であるのに対して、男性は 52.3%で、10.6ポイントほど女性が高くなっている。

表1-1 性・年代別 「男は仕事、女は家庭」という考え方

		全体	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そうは思わない	その他	無回答
全体	上段/実数	640	32	218	130	245	13	2
	下段/%	100.0	5.0	34.1	20.3	38.3	2.0	0.3
女性	20歳代	51	2	14	12	22	1	-
		100.0	3.9	27.5	23.5	43.1	2.0	-
	30歳代	83	1	33	20	28	1	-
		100.0	1.2	39.8	24.1	33.7	1.2	-
	40歳代	97	1	33	22	40	-	1
	100.0	1.0	34.0	22.7	41.2	-	1.0	
	50歳代	104	4	26	28	42	4	-
	100.0	3.8	25.0	26.9	40.4	3.8	-	
	60歳代	40	4	12	9	13	2	-
	100.0	10.0	30.0	22.5	32.5	5.0	-	
男性	20歳代	34	1	14	-	18	1	-
		100.0	2.9	41.2	-	52.9	2.9	-
	30歳代	56	9	18	2	26	1	-
		100.0	16.1	32.1	3.6	46.4	1.8	-
	40歳代	70	1	30	12	24	3	-
	100.0	1.4	42.9	17.1	34.3	4.3	-	
	50歳代	65	5	22	15	23	-	-
	100.0	7.7	33.8	23.1	35.4	-	-	
	60歳代	37	4	15	9	8	-	1
	100.0	10.8	40.5	24.3	21.6	-	2.7	

女性の場合は、すべての年代で『反対派』が半数を超えており、特に、20歳代（66.6%）、40歳代（63.9%）、50歳代（67.3%）と高くなっている。

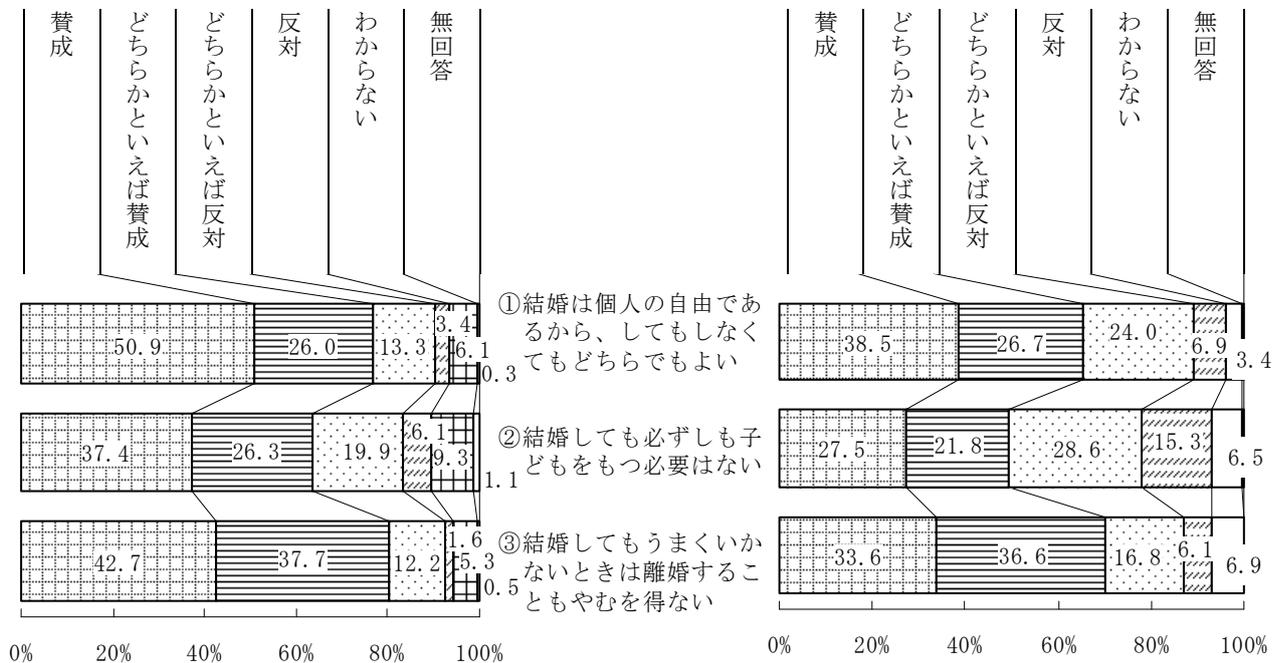
男性では、20歳代（52.9%）、40歳代（51.4%）、50歳代（58.5%）で『反対派』が半数を超えている。

問9 結婚、家庭生活について、あなたのご意見をおうかがいします。あなたのお考えに近いものはどれですか。(〇はそれぞれ1つ)

図1-2 結婚や家庭生活についての考え方

【女性】(N=377)

【男性】(N=262)



■半数の女性が「結婚は個人の選択」と考えている

結婚や家庭生活に関する考え方についてたずねたところ、「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい」については、女性の場合、「賛成」の割合が50.9%で最も高く、「どちらかといえば賛成」を合わせると76.9%にのぼる。男性の場合も、「賛成」の割合が38.5%で最も高く、「どちらかといえば賛成」を合わせると65.2%である。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」については、女性では「賛成」の割合が37.4%で最も高く、「どちらかといえば賛成」を合わせると63.7%である。男性の場合、「どちらかといえば反対」の割合が最も高く28.6%で、「賛成」が27.5%。『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）より5.4ポイント高くなっている。

「結婚してもうまくいかないときは離婚することもやむを得ない」については、女性では「賛成」の割合が42.7%で最も高く、『賛成』は80.4%にのぼる。男性の場合、「どちらかといえば賛成」の割合が最も高く36.6%で、『賛成』は70.2%である。

表1-2 性・年代別 結婚や家庭生活についての考え方

	全体	①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい			②結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない			③結婚してもうまくいかないときは離婚することもやむを得ない			
		『賛成』	『反対』	わからない	『賛成』	『反対』	わからない	『賛成』	『反対』	わからない	
全体	640	462	144	32	370	213	52	488	112	38	
上段/実数											
下段/%	100.0	72.2	22.5	5.0	57.8	33.2	8.1	76.3	17.5	5.9	
女性	20歳代	51	44	4	3	34	7	10	38	8	5
		100.0	86.2	7.9	5.9	66.6	13.7	19.6	74.5	15.7	9.8
	30歳代	83	73	6	4	63	12	7	71	6	5
		100.0	87.9	7.2	4.8	75.9	14.5	8.4	85.6	7.2	6.0
	40歳代	97	80	11	6	67	24	6	83	12	2
	100.0	82.5	11.3	6.2	69.1	24.7	6.2	85.5	12.3	2.1	
50歳代	104	70	28	5	59	35	9	85	16	3	
	100.0	67.3	26.9	4.8	56.7	33.7	8.7	81.7	15.4	2.9	
60歳代	40	23	13	4	17	19	2	25	9	5	
	100.0	57.5	32.5	10.0	42.5	47.5	5.0	62.5	22.5	12.5	
男性	20歳代	34	24	5	5	21	6	7	19	10	5
		100.0	70.6	14.7	14.7	61.8	17.7	20.6	55.9	29.4	14.7
	30歳代	56	44	11	1	32	21	3	34	19	3
		100.0	78.6	19.7	1.8	57.1	37.5	5.4	60.8	33.9	5.4
	40歳代	70	45	24	1	31	35	4	50	15	5
	100.0	64.3	34.3	1.4	44.3	50.0	5.7	71.4	21.4	7.1	
50歳代	65	44	19	1	33	28	3	55	6	4	
	100.0	67.7	29.3	1.5	50.7	43.0	4.6	84.7	9.2	6.2	
60歳代	37	14	22	1	12	25	-	26	10	1	
	100.0	37.8	59.4	2.7	32.4	67.5	-	70.2	27.0	2.7	

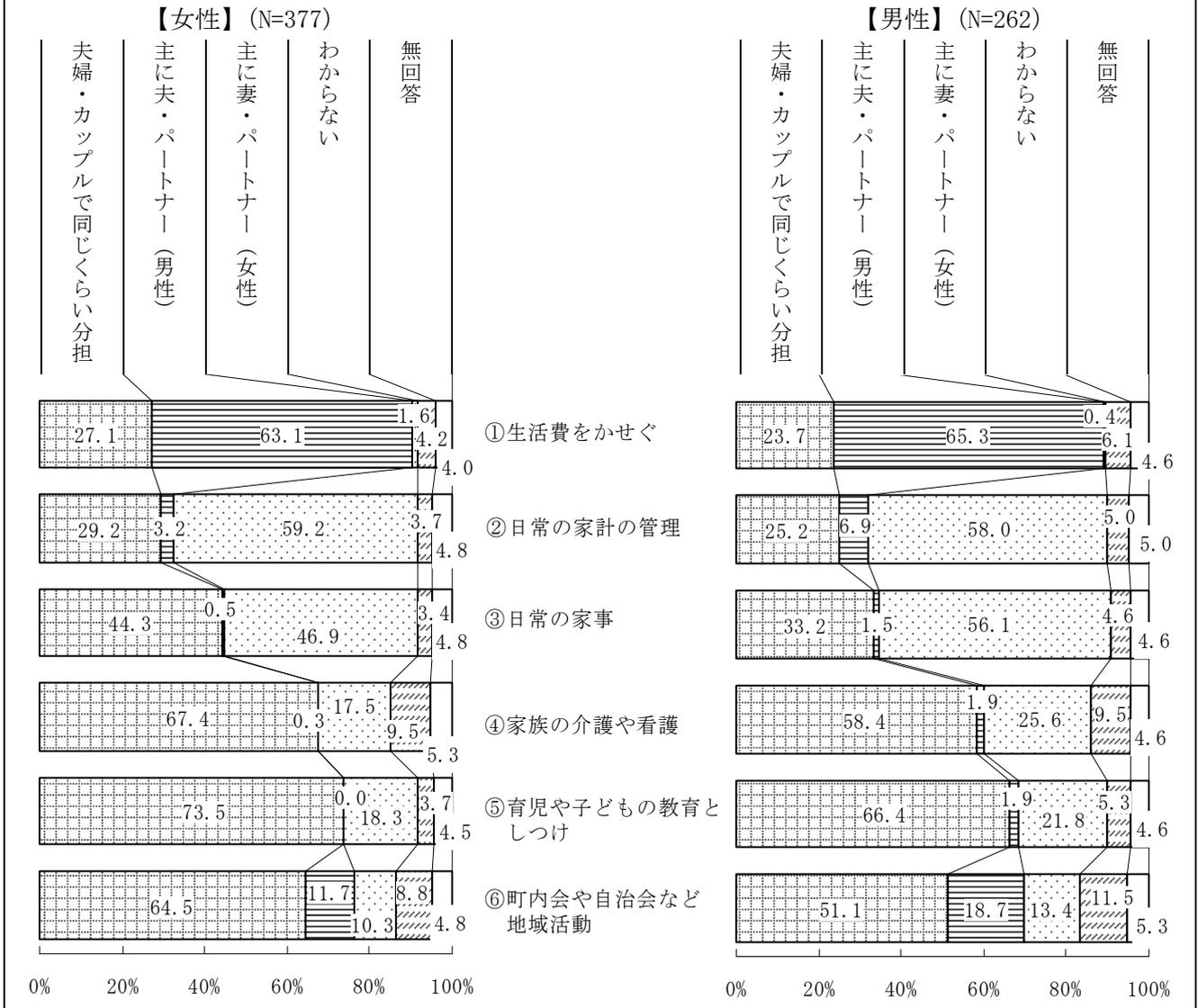
「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい」については、女性の場合、20～40歳代で『賛成』の割合が80%を超えている。男性では、30歳代が78.6%で最も高くなっている。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」については、女性では、30歳代で『賛成』の割合が年代中最も高く、75.9%である。男性の場合は、20歳代で『賛成』の割合が最も高く、61.8%である。

「結婚してもうまくいかないときは離婚することもやむを得ない」については、女性では、30、40歳代の『賛成』の割合が他の年代より高くそれぞれ85.6%、85.5%である。男性の場合は、50歳代で『賛成』の割合が最も高く、84.7%。最も低い20歳代の55.9%とは28.8ポイントの開きがある。

問10 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。また、実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。(〇はそれぞれ1つ)

図1-3 家庭における役割についての考え方



■家庭における役割についての考え方は男女で似たような傾向であり、「生活費をかせぐ」では男性、「日常の家計の管理」「日常の家事」では女性の役割とする割合が高い

家庭における役割についての考え方をたずねたところ、「①生活費をかせぐ」については、男女ともに「主に夫・パートナー（男性）」の割合が最も高く、女性63.1%・男性65.3%である。

「②日常の家計の管理」については、「主に妻・パートナー（女性）」が最も高く、女性59.2%・男性58.0%である。

「③日常の家事」については、「主に妻・パートナー（女性）」が最も高く、女性46.9%・男性56.1%であるが、女性の場合は「夫婦・カップルで同じくらい分担」も44.3%となっている。

「④家族の介護や看護」については、「夫婦・カップルで同じくらい分担」が最も高く、女性67.4%・男性58.4%で半数を超えている。

「⑤育児や子どもの教育としつけ」については、「夫婦・カップルで同じくらい分担」が最も高く、女性73.5%・男性66.4%で、「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が項目中最も高くなっている。

「⑥町内会や自治会などの地域活動」については、「夫婦・カップルで同じくらい分担」が最も高く、女性 64.5%・男性 51.1%で半数を超えている。

表1-3 性・年代別 家庭における役割についての考え方

	全体	①生活費をかせぐ				②日常の家計の管理				③日常の家事				
		同 じ く ら い 分 担	夫 婦 ・ カ ッ プ ル で	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ	わ か ら な い	同 じ く ら い 分 担	夫 婦 ・ カ ッ プ ル で	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ	わ か ら な い	同 じ く ら い 分 担	夫 婦 ・ カ ッ プ ル で	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	165 25.8	409 63.9	7 1.1	32 5.0	177 27.7	30 4.7	375 58.6	27 4.2	255 39.8	6 0.9	324 50.6	25 3.9
女性	20歳代	51 100.0	15 29.4	34 66.7	- -	2 3.9	11 21.6	3 5.9	34 66.7	3 5.9	26 51.0	- -	23 45.1	2 3.9
	30歳代	83 100.0	16 19.3	59 71.1	2 2.4	3 3.6	24 28.9	1 1.2	52 62.7	3 3.6	38 45.8	- -	39 47.0	3 3.6
	40歳代	97 100.0	33 34.0	56 57.7	1 1.0	4 4.1	36 37.1	4 4.1	49 50.5	4 4.1	43 44.3	- -	46 47.4	4 4.1
	50歳代	104 100.0	27 26.0	61 58.7	3 2.9	5 4.8	31 29.8	2 1.9	58 55.8	4 3.8	42 40.4	1 1.0	49 47.1	3 2.9
	60歳代	40 100.0	10 25.0	27 67.5	- -	2 5.0	7 17.5	2 5.0	30 75.0	- -	17 42.5	1 2.5	20 50.0	1 2.5
男性	20歳代	34 100.0	8 23.5	19 55.9	- -	6 17.6	6 17.6	1 2.9	20 58.8	6 17.6	12 35.3	1 2.9	15 44.1	5 14.7
	30歳代	56 100.0	21 37.5	30 53.6	- -	3 5.4	18 32.1	3 5.4	30 53.6	3 5.4	28 50.0	- -	24 42.9	2 3.6
	40歳代	70 100.0	10 14.3	52 74.3	1 1.4	6 8.6	17 24.3	3 4.3	45 64.3	3 4.3	16 22.9	- -	49 70.0	3 4.3
	50歳代	65 100.0	16 24.6	43 66.2	- -	1 1.5	17 26.2	8 12.3	34 52.3	1 1.5	19 29.2	3 4.6	36 55.4	2 3.1
	60歳代	37 100.0	7 18.9	27 73.0	- -	- -	8 21.6	3 8.1	23 62.2	- -	12 32.4	- -	23 62.2	- -

	全体	④家族の介護や看護				⑤育児や子どもの教育と しつけ				⑥町内会や自治会など地域活動				
		同 じ く ら い 分 担	夫 婦 ・ カ ッ プ ル で	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ	わ か ら な い	同 じ く ら い 分 担	夫 婦 ・ カ ッ プ ル で	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ	主 に 妻 ・ パ ー ト ナ	わ か ら な い	同 じ く ら い 分 担	夫 婦 ・ カ ッ プ ル で	主 に 夫 ・ パ ー ト ナ
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	408 63.8	6 0.9	133 20.8	61 9.5	452 70.6	5 0.8	126 19.7	28 4.4	378 59.1	93 14.5	74 11.6	63 9.8
女性	20歳代	51 100.0	38 74.5	- -	6 11.8	7 13.7	42 82.4	- -	6 11.8	3 5.9	37 72.5	4 7.8	3 5.9	7 13.7
	30歳代	83 100.0	52 62.7	- -	16 19.3	11 13.3	59 71.1	- -	18 21.7	3 3.6	52 62.7	9 10.8	11 13.3	8 9.6
	40歳代	97 100.0	67 69.1	- -	19 19.6	6 6.2	71 73.2	- -	20 20.6	2 2.1	68 70.1	6 6.2	9 9.3	10 10.3
	50歳代	104 100.0	74 71.2	1 1.0	13 12.5	7 6.7	79 76.0	- -	14 13.5	3 2.9	66 63.5	13 12.5	11 10.6	5 4.8
	60歳代	40 100.0	22 55.0	- -	12 30.0	5 12.5	25 62.5	- -	11 27.5	3 7.5	19 47.5	12 30.0	5 12.5	3 7.5
男性	20歳代	34 100.0	20 58.8	1 2.9	4 11.8	8 23.5	24 70.6	1 2.9	4 11.8	4 11.8	17 50.0	2 5.9	4 11.8	10 29.4
	30歳代	56 100.0	37 66.1	- -	12 21.4	5 8.9	38 67.9	- -	14 25.0	2 3.6	26 46.4	9 16.1	11 19.6	8 14.3
	40歳代	70 100.0	36 51.4	1 1.4	23 32.9	8 11.4	47 67.1	2 2.9	15 21.4	4 5.7	38 54.3	11 15.7	11 15.7	8 11.4
	50歳代	65 100.0	37 56.9	3 4.6	16 24.6	4 6.2	38 58.5	2 3.1	17 26.2	3 4.6	33 50.8	17 26.2	6 9.2	4 6.2
	60歳代	37 100.0	23 62.2	- -	12 32.4	- -	27 73.0	- -	7 18.9	1 2.7	20 54.1	10 27.0	3 8.1	- -

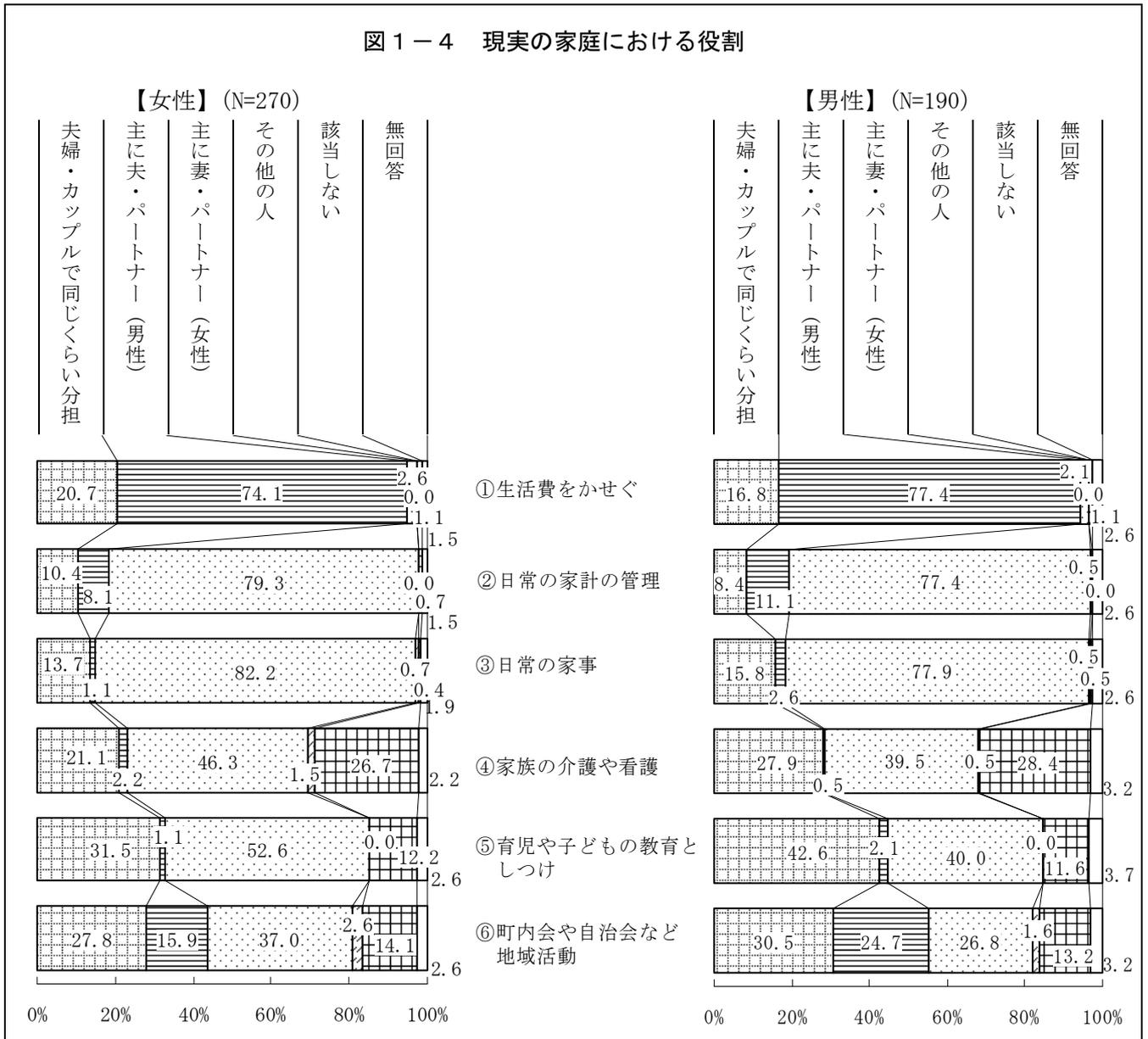
女性の場合は、20歳代で、「日常の家事」「家族の介護や看護」「育児や子どもの教育としつけ」「町内会や自治会など地域活動」を「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が年代別中最も高い。

男性の場合は、30歳代では、「生活費をかせぐ」「日常の家計の管理」「日常の家事」「家族の介護や看護」を「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が年代別中最も高い。

40歳代では、「町内会や自治会など地域活動」を「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が年代別中最も高い。

60歳代では、「育児や子どもの教育としつけ」で「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が年代別中最も高い。

図1-4 現実の家庭における役割



■家庭における実際の役割は、「考え方」よりも「夫婦・カップルで同じくらい分担」の割合が低い

現実の家庭における役割についてたずねたところ、「①生活費をかせぐ」については、男女ともに「主に夫・パートナー（男性）」の割合が最も高く、70%を超えている。

「②日常の家計の管理」「③日常の家事」については、「主に妻・パートナー（女性）」が最も高く、男女ともにそれぞれ80%前後となっている。

「④家族の介護や看護」については、「主に妻・パートナー（女性）」が最も高く、女性46.3%・男性39.5%であり、「考え方」における「夫婦・カップルで同じくらい分担」（女性67.4%・男性58.4%）の割合を大きく下回っている。

「⑤育児や子どもの教育としつけ」については、女性の場合は「主に妻・パートナー（女性）」が最も高く、52.6%であるのに対して、男性は「夫婦・カップルで同じくらい分担」が最も高く、42.6%である。「考え方」での「夫婦・カップルで同じくらい分担」（女性73.5%・男性66.4%）より下回っている。

「⑥町内会や自治会など地域活動」については、女性の場合は「主に妻・パートナー（女性）」が最も高く、37.0%であるのに対して、男性は「夫婦・カップルで同じくらい分担」が最も高く、30.5%

である。「考え方」での「夫婦・カップルで同じくらい分担」（女性 64.5%・男性 51.1%）より下回っている。

表 1-4 性・年代別 現実の家庭における役割

	全体	①生活費をかせぐ					②日常の家計の管理					
		夫婦・カップルで同じくらい分担	主に夫・パートナ（男性）	主に妻・パートナ（女性）	その他の人	該当しない	夫婦・カップルで同じくらい分担	主に夫・パートナ（男性）	主に妻・パートナ（女性）	その他の人	該当しない	
全体	上段/実数 下段/%	461 100.0	88 19.1	348 75.5	11 2.4	- -	5 1.1	45 9.8	43 9.3	361 78.3	1 0.2	2 0.4
女性	20 歳代	16 100.0	5 31.3	9 56.3	2 12.5	- -	- -	1 6.3	2 12.5	13 81.3	- -	- -
	30 歳代	61 100.0	11 18.0	48 78.7	- -	- -	- -	5 8.2	3 4.9	51 83.6	- -	- -
	40 歳代	80 100.0	19 23.8	60 75.0	- -	- -	1 1.3	8 10.0	8 10.0	61 76.3	- -	2 2.5
	50 歳代	80 100.0	14 17.5	58 72.5	5 6.3	- -	2 2.5	9 11.3	7 8.8	63 78.8	- -	- -
	60 歳代	31 100.0	7 22.6	23 74.2	- -	- -	- -	5 16.1	2 6.5	24 77.4	- -	- -
男性	20 歳代	7 100.0	2 28.6	5 71.4	- -	- -	- -	1 14.3	1 14.3	5 71.4	- -	- -
	30 歳代	42 100.0	12 28.6	28 66.7	- -	- -	- -	5 11.9	4 9.5	30 71.4	1 2.4	- -
	40 歳代	57 100.0	3 5.3	50 87.7	2 3.5	- -	- -	6 10.5	7 12.3	42 73.7	- -	- -
	50 歳代	52 100.0	9 17.3	40 76.9	1 1.9	- -	2 3.8	3 5.8	4 7.7	45 86.5	- -	- -
	60 歳代	32 100.0	6 18.8	24 75.0	1 3.1	- -	- -	1 3.1	5 15.6	25 78.1	- -	- -

	全体	③日常の家事					④家族の介護や看護					
		夫婦・カップルで同じくらい分担	主に夫・パートナ（男性）	主に妻・パートナ（女性）	その他の人	該当しない	夫婦・カップルで同じくらい分担	主に夫・パートナ（男性）	主に妻・パートナ（女性）	その他の人	該当しない	
全体	上段/実数 下段/%	461 100.0	68 14.8	8 1.7	370 80.3	3 0.7	2 0.4	111 24.1	7 1.5	200 43.4	5 1.1	126 27.3
女性	20 歳代	16 100.0	4 25.0	1 6.3	11 68.8	- -	- -	3 18.8	- -	5 31.3	- -	8 50.0
	30 歳代	61 100.0	8 13.1	1 1.6	50 82.0	- -	- -	11 18.0	1 1.6	19 31.1	1 1.6	27 44.3
	40 歳代	80 100.0	10 12.5	- -	66 82.5	2 2.5	1 1.3	15 18.8	2 2.5	43 53.8	1 1.3	18 22.5
	50 歳代	80 100.0	8 10.0	1 1.3	69 86.3	- -	- -	17 21.3	2 2.5	42 52.5	1 1.3	15 18.8
	60 歳代	31 100.0	7 22.6	- -	24 77.4	- -	- -	11 35.5	- -	15 48.4	1 3.2	4 12.9
男性	20 歳代	7 100.0	2 28.6	- -	5 71.4	- -	- -	2 28.6	- -	2 28.6	- -	3 42.9
	30 歳代	42 100.0	9 21.4	1 2.4	29 69.0	1 2.4	- -	9 21.4	- -	9 21.4	- -	21 50.0
	40 歳代	57 100.0	6 10.5	2 3.5	47 82.5	- -	- -	15 26.3	1 1.8	22 38.6	- -	17 29.8
	50 歳代	52 100.0	9 17.3	1 1.9	41 78.8	- -	1 1.9	15 28.8	- -	28 53.8	1 1.9	8 15.4
	60 歳代	32 100.0	4 12.5	1 3.1	26 81.3	- -	- -	12 37.5	- -	14 43.8	- -	5 15.6

表 1-4 性・年代別 現実の家庭における役割

	全体	⑤育児や子どもの教育としつけ					⑥町内会や自治会など地域活動					
		夫婦・カップルで 同じくらい分担	主に夫・パートナー (男性)	主に妻・パートナー (女性)	その他の人	該当しない	夫婦・カップルで 同じくらい分担	主に夫・パートナー (男性)	主に妻・パートナー (女性)	その他の人	該当しない	
全体	上段/実数 下段/%	461 100.0	167 36.2	7 1.5	218 47.3	- -	55 11.9	134 29.1	90 19.5	151 32.8	10 2.2	63 13.7
女性	20 歳代	16 100.0	3 18.8	-	9 56.3	-	3 18.8	1 6.3	2 12.5	4 25.0	1 6.3	8 50.0
	30 歳代	61 100.0	16 26.2	-	35 57.4	-	8 13.1	14 23.0	7 11.5	21 34.4	4 6.6	13 21.3
	40 歳代	80 100.0	27 33.8	-	46 57.5	-	5 6.3	29 36.3	7 8.8	31 38.8	1 1.3	9 11.3
	50 歳代	80 100.0	26 32.5	3 3.8	38 47.5	-	11 13.8	18 22.5	16 20.0	37 46.3	-	7 8.8
	60 歳代	31 100.0	12 38.7	-	13 41.9	-	6 19.4	12 38.7	10 32.3	7 22.6	1 3.2	1 3.2
男性	20 歳代	7 100.0	4 57.1	-	1 14.3	-	2 28.6	3 42.9	-	2 28.6	-	2 28.6
	30 歳代	42 100.0	20 47.6	-	13 31.0	-	6 14.3	8 19.0	6 14.3	12 28.6	1 2.4	12 28.6
	40 歳代	57 100.0	21 36.8	3 5.3	25 43.9	-	6 10.5	18 31.6	14 24.6	17 29.8	1 1.8	5 8.8
	50 歳代	52 100.0	21 40.4	1 1.9	26 50.0	-	3 5.8	17 32.7	16 30.8	15 28.8	1 1.9	3 5.8
	60 歳代	32 100.0	15 46.9	-	11 34.4	-	5 15.6	12 37.5	11 34.4	5 15.6	-	3 9.4

女性の場合は、40～50 歳代で、「家族の介護や看護」を「主に妻・パートナー（女性）」の割合が 5 割強と高い。

50 歳代では、「町内会や自治会など地域活動」を「主に妻・パートナー（女性）」の割合が年代中最も高い。

男性の場合は、40 歳代で「日常の家事」で「主に妻・パートナー（女性）」の割合が最も高い。一方で、「生活費をかせぐ」で「主に夫・パートナー（男性）」の割合が年代別中最も高い。

2. ワーク・ライフ・バランスについて

問 1 1 あなたの生活の中で、「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度についておうかがいします。あなたの現実と希望に最も近いのは、次のどれですか。
(○はそれぞれ1つ)

図 2-1 希望としての「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度

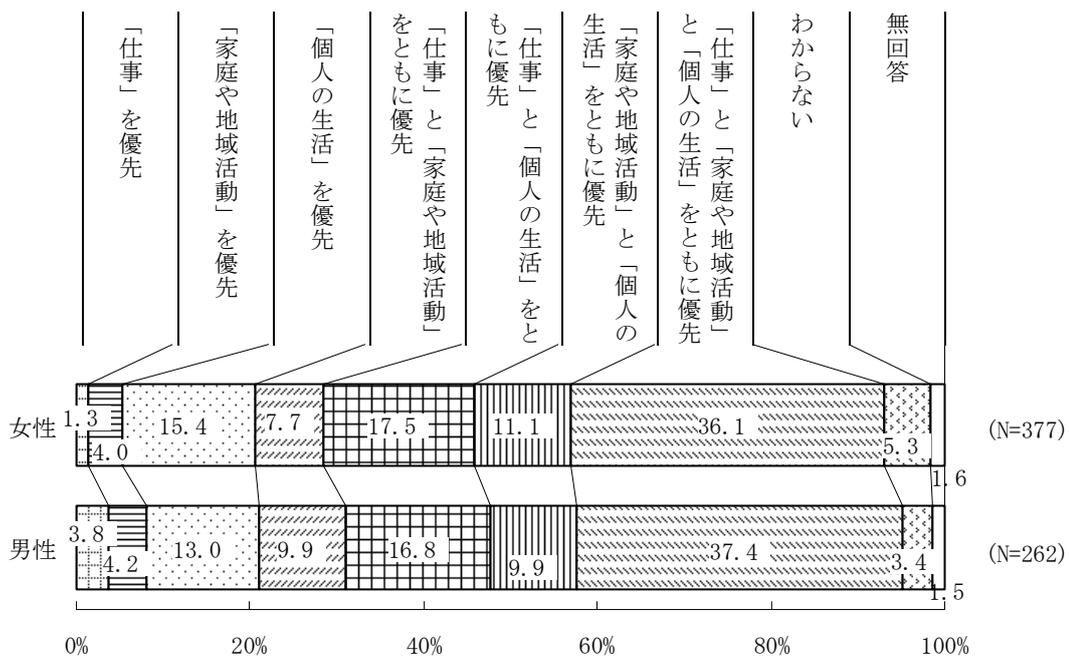
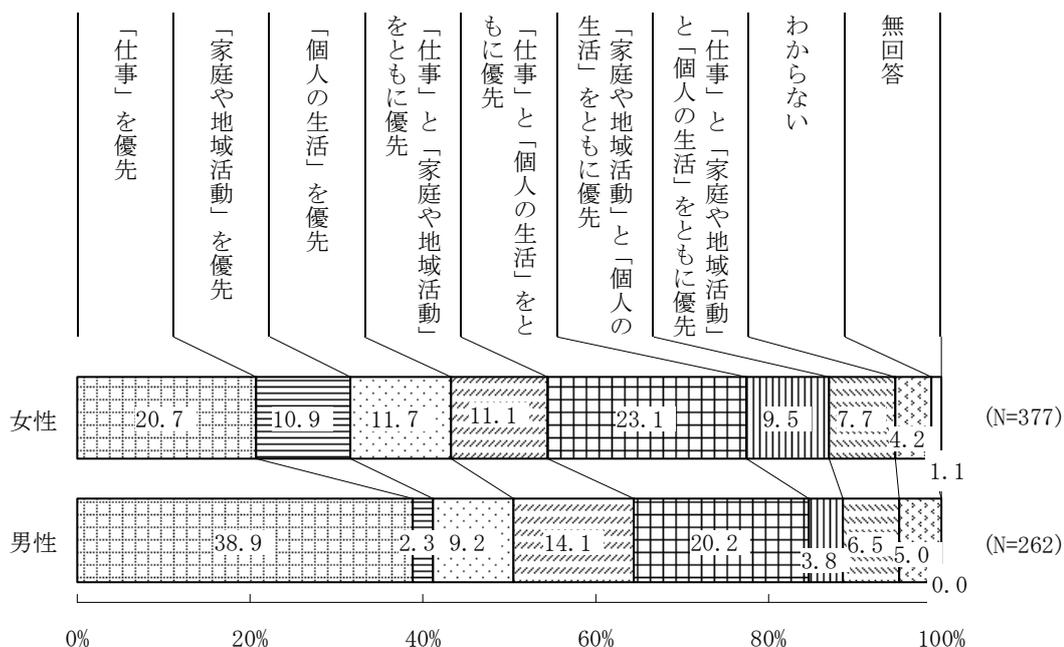


図 2-2 現実の「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度



■男女ともに希望では『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先の割合が30%を超える

希望の暮らし方をみると、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」の割合が女性 36.1%・男性 37.4%で最も高くなっている。

また、仕事や家庭や地域活動、個人の生活などを両立させて複線で暮らす生活を希望する割合（「『仕事』と『家庭や地域活動』をともに優先」+「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」+「『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」+「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」）は、女性 72.4%・男性 74.0%である。

■男性の現実には、「『仕事』を優先」が約 40%

一方、現実の暮らし方をみると、女性の場合は「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」が 23.1%で最も高い割合であるものの、「『仕事』を優先」も 20.7%であり、拮抗している。

男性の場合は、「『仕事』を優先」の割合が最も高く 38.9%である。

また、希望の暮らし方と比較すると、男女ともに、複線での暮らし方が減り、単線での暮らし方が増えている。

【性・年代別】

年代別で希望をみると、女性の場合は、20 歳代では「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」が年代中最も高い。

40 歳代では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」が年代中最も高い。

60 歳代では「『個人の生活』を優先」が年代中最も高い。

男性の場合は、20 歳代では「『個人の生活』を優先」が年代中最も高い。

30 歳代では「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』をともに優先」が年代中最も高い。

40 歳代では「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」が年代中最も高い。

現実をみると、女性の場合は、20 歳代では「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」が年代中最も高く、希望と同じ傾向である。

40 歳代では「『仕事』を優先」が年代中最も高い。

男性の場合は、20 歳代では「『個人の生活』を優先」が年代中最も高い。

表2-1 性・年代別 希望としての「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度

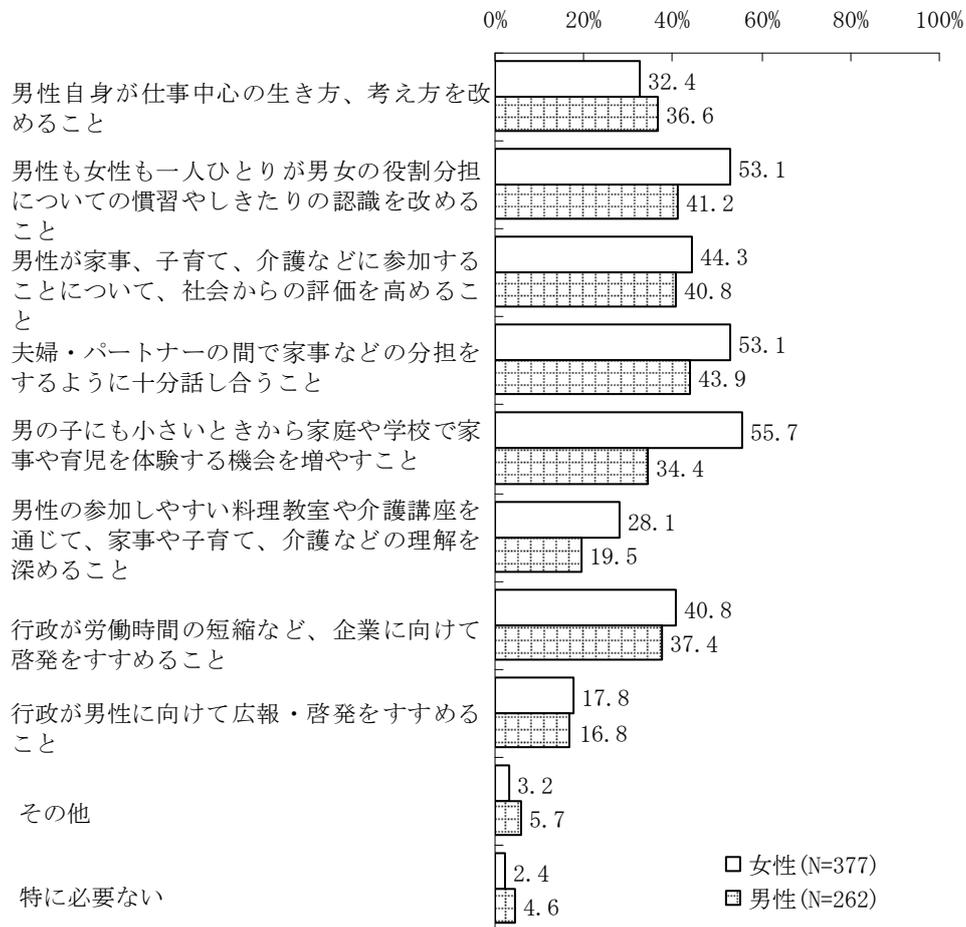
		全体	「仕事」を優先	「家庭や地域活動」を優先	先「個人の生活」を優先	優先「仕事」と「家庭や地域活動」をともに	生活「仕事」と「個人の生活」をともに優先	「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先	先「地域活動」と「個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先	わからない	無回答
全体	上段/実数	640	15	26	92	55	110	68	235	29	10	
	下段/%	100.0	2.3	4.1	14.4	8.6	17.2	10.6	36.7	4.5	1.6	
女性	20歳代	51	1	4	6	-	16	4	16	4	-	
		100.0	2.0	7.8	11.8	-	31.4	7.8	31.4	7.8	-	
	30歳代	83	1	4	13	7	11	12	28	7	-	
		100.0	1.2	4.8	15.7	8.4	13.3	14.5	33.7	8.4	-	
	40歳代	97	-	3	14	10	16	7	39	5	3	
	100.0	-	3.1	14.4	10.3	16.5	7.2	40.2	5.2	3.1		
50歳代	104	2	4	16	8	19	12	40	1	2		
	100.0	1.9	3.8	15.4	7.7	18.3	11.5	38.5	1.0	1.9		
60歳代	40	1	-	9	3	4	7	13	2	1		
	100.0	2.5	-	22.5	7.5	10.0	17.5	32.5	5.0	2.5		
男性	20歳代	34	-	-	8	2	6	4	8	4	2	
		100.0	-	-	23.5	5.9	17.6	11.8	23.5	11.8	5.9	
	30歳代	56	2	4	8	3	8	3	26	1	1	
		100.0	3.6	7.1	14.3	5.4	14.3	5.4	46.4	1.8	1.8	
	40歳代	70	2	5	7	8	15	7	26	-	-	
	100.0	2.9	7.1	10.0	11.4	21.4	10.0	37.1	-	-		
50歳代	65	4	1	8	8	9	8	24	2	1		
	100.0	6.2	1.5	12.3	12.3	13.8	12.3	36.9	3.1	1.5		
60歳代	37	2	1	3	5	6	4	14	2	-		
	100.0	5.4	2.7	8.1	13.5	16.2	10.8	37.8	5.4	-		

表● 性・年代別 現実の「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度

		全体	「仕事」を優先	「家庭や地域活動」を優先	先「個人の生活」を優先	優先「仕事」と「家庭や地域活動」をともに	生活「仕事」と「個人の生活」をともに優先	「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先	先「地域活動」と「個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先	わからない	無回答
全体	上段/実数	640	180	47	68	79	140	47	46	29	4	
	下段/%	100.0	28.1	7.3	10.6	12.3	21.9	7.3	7.2	4.5	0.6	
女性	20歳代	51	12	1	8	3	19	5	1	2	-	
		100.0	23.5	2.0	15.7	5.9	37.3	9.8	2.0	3.9	-	
	30歳代	83	16	16	5	13	18	6	5	4	-	
		100.0	19.3	19.3	6.0	15.7	21.7	7.2	6.0	4.8	-	
	40歳代	97	23	14	5	15	17	5	12	4	2	
	100.0	23.7	14.4	5.2	15.5	17.5	5.2	12.4	4.1	2.1		
50歳代	104	20	8	17	9	24	12	10	2	2		
	100.0	19.2	7.7	16.3	8.7	23.1	11.5	9.6	1.9	1.9		
60歳代	40	7	1	9	2	9	7	1	4	-		
	100.0	17.5	2.5	22.5	5.0	22.5	17.5	2.5	10.0	-		
男性	20歳代	34	9	-	7	1	11	2	1	3	-	
		100.0	26.5	-	20.6	2.9	32.4	5.9	2.9	8.8	-	
	30歳代	56	23	-	3	10	8	2	6	4	-	
		100.0	41.1	-	5.4	17.9	14.3	3.6	10.7	7.1	-	
	40歳代	70	31	2	2	10	14	3	5	3	-	
	100.0	44.3	2.9	2.9	14.3	20.0	4.3	7.1	4.3	-		
50歳代	65	27	3	5	10	14	1	3	2	-		
	100.0	41.5	4.6	7.7	15.4	21.5	1.5	4.6	3.1	-		
60歳代	37	12	1	7	6	6	2	2	1	-		
	100.0	32.4	2.7	18.9	16.2	16.2	5.4	5.4	2.7	-		

問12 今後、男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図2-3 男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策



■女性では家庭や学校で体験、男性では夫婦・パートナーとの話し合いが必要とする割合が高い

男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していく方策についてたずねたところ、女性の場合は、「男の子にも小さいときから学校や家庭で家事や育児を体験する機会を増やすこと」「男性も女性も一人ひとりが男女の役割分担についての慣習やしきたりの認識を改めること」「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が高く 50%を超えている。

男性の場合も、割合は女性よりも低くなっているものの、「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」「男性も女性も一人ひとりが男女の役割分担についての慣習やしきたりの認識を改めること」「男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること」の割合が高く 40%を超えている。

「男性自身が仕事中心の生き方、考え方を改めること」については、男性の方が女性より割合が高くなっている。

表2-2 性・年代別 男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策

		全体	男性自身の仕事中心の生き方、考え方を改めること	男性も女性も一人ひとりが男女の役割分担についての慣習やしきたりの認識を改めること	男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること	夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと	男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること	行政が労働時間の短縮など、企業に向けて啓発をすすめること	行政が男性に向けて広報・啓発をすすめること	その他	特に必要ない	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	219 34.2	309 48.3	275 43.0	316 49.4	301 47.0	158 24.7	253 39.5	112 17.5	27 4.2	21 3.3	3 0.5
女性	20歳代	51 100.0	13 25.5	25 49.0	22 43.1	28 54.9	35 68.6	16 31.4	27 52.9	11 21.6	1 2.0	-	-
	30歳代	83 100.0	26 31.3	42 50.6	31 37.3	43 51.8	48 57.8	19 22.9	38 45.8	17 20.5	2 2.4	1 1.2	1 1.2
	40歳代	97 100.0	38 39.2	43 44.3	48 49.5	48 49.5	44 45.4	22 22.7	39 40.2	19 19.6	3 3.1	4 4.1	-
	50歳代	104 100.0	28 26.9	59 56.7	49 47.1	60 57.7	61 58.7	31 29.8	36 34.6	12 11.5	5 4.8	4 3.8	1 1.0
	60歳代	40 100.0	17 42.5	30 75.0	16 40.0	20 50.0	21 52.5	18 45.0	14 35.0	8 20.0	1 2.5	-	-
男性	20歳代	34 100.0	17 50.0	16 47.1	12 35.3	15 44.1	15 44.1	3 8.8	13 38.2	4 11.8	-	2 5.9	-
	30歳代	56 100.0	17 30.4	20 35.7	21 37.5	25 44.6	16 28.6	11 19.6	22 39.3	6 10.7	5 8.9	4 7.1	-
	40歳代	70 100.0	30 42.9	26 37.1	31 44.3	23 32.9	22 31.4	16 22.9	30 42.9	12 17.1	6 8.6	1 1.4	-
	50歳代	65 100.0	23 35.4	29 44.6	31 47.7	36 55.4	24 36.9	15 23.1	18 27.7	15 23.1	2 3.1	2 3.1	-
	60歳代	37 100.0	9 24.3	17 45.9	12 32.4	16 43.2	13 35.1	6 16.2	15 40.5	7 18.9	2 5.4	3 8.1	1 2.7

女性の場合は、20歳代では「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」「行政が労働時間の短縮など、企業に向けて啓発をすすめること」「行政が男性に向けて広報・啓発をすすめること」で年代中最も高い割合である。

40歳代では、「男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること」で年代中最も高い割合である。

50歳代では、「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」で年代中最も高い割合である。

60歳代では、「男性自身が仕事中心の生き方、考え方を改めること」「男性も女性も一人ひとりが男女の役割分担についての慣習やしきたりの認識を改めること」「男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること」で年代中最も高い割合である。

男性の場合は、20歳代では「男性自身が仕事中心の生き方、考え方を改めること」「男性も女性も一人ひとりが男女の役割分担についての慣習やしきたりの認識を改めること」「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」で年代中最も高い割合である。

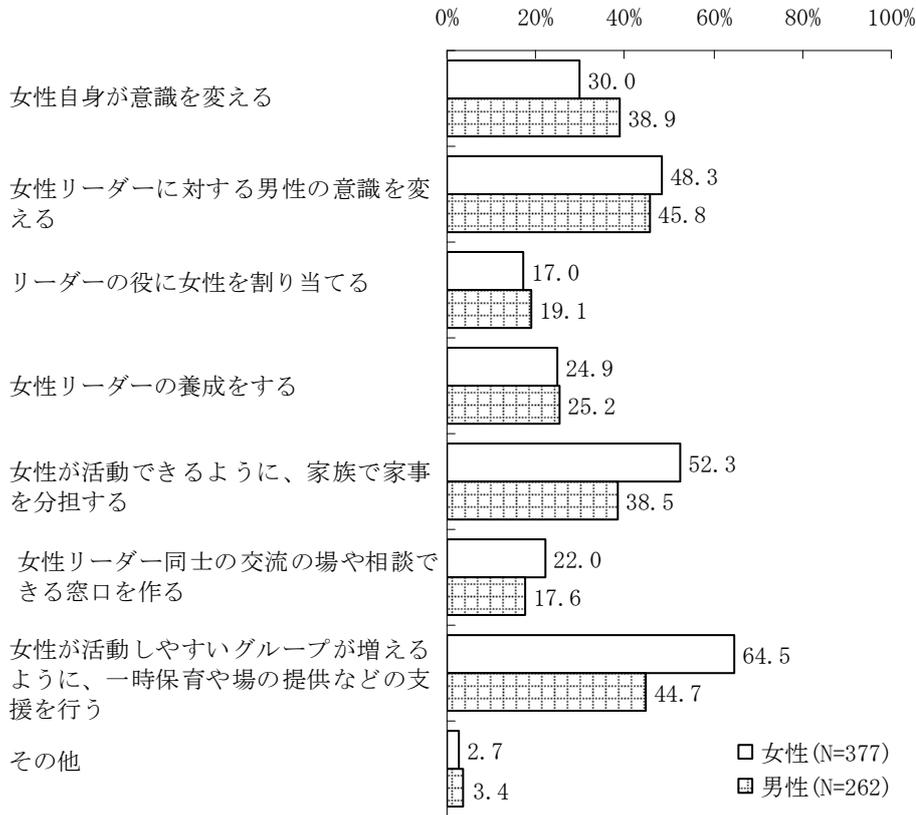
40歳代では、「行政が労働時間の短縮など、企業に向けて啓発をすすめること」で年代中最も高い割合である。

50 歳代では、「男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること」「夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」「男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること」「行政が男性に向けて広報・啓発をすすめること」で年代中最も高い割合である。

3. 地域活動について

問13 現在、地域や職場で活躍する女性リーダーが育っていないことが課題になっています。女性リーダーを増やすためにはどうすればよいと思われますか。(〇はいくつでも)

図3-1 女性リーダーを増やすための方策



■女性リーダーを増やすための方策として、女性では「グループ活動への支援」が60%を超える

女性リーダーを増やすための方策をたずねたところ、女性の場合は、「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」が64.5%と最も高くなっている。「女性が活動できるように、家族で家事を分担する」(52.3%)、「女性リーダーに対する男性の意識を変える」(48.3%)と続く。

男性では、「女性リーダーに対する男性の意識を変える」(45.8%)、「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」(44.7%)がともに高くなっている。「女性自身が意識を変える」では、女性よりも男性の方が8.9ポイント高くなっている。

表3-1 性・年代別 女性リーダーを増やすための方策

		全体	女性自身が意識を変える	女性リーダーに対する男性の意識を変える	リーダーの役に女性を割り当てる	女性リーダーの養成をする	女性が活動できるように、家族で家事を分担する	女性リーダー同士の交流の場や相談できる窓口を作る	女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	216 33.8	303 47.3	115 18.0	161 25.2	299 46.7	130 20.3	361 56.4	19 3.0	9 1.4
女性	20歳代	51 100.0	9 17.6	23 45.1	12 23.5	14 27.5	22 43.1	15 29.4	38 74.5	- -	- -
	30歳代	83 100.0	15 18.1	38 45.8	17 20.5	16 19.3	45 54.2	14 16.9	61 73.5	2 2.4	1 1.2
	40歳代	97 100.0	35 36.1	54 55.7	13 13.4	26 26.8	55 56.7	19 19.6	56 57.7	2 2.1	1 1.0
	50歳代	104 100.0	39 37.5	47 45.2	14 13.5	26 25.0	57 54.8	24 23.1	65 62.5	4 3.8	3 2.9
	60歳代	40 100.0	14 35.0	19 47.5	8 20.0	12 30.0	18 45.0	11 27.5	23 57.5	2 5.0	1 2.5
男性	20歳代	34 100.0	14 41.2	15 44.1	8 23.5	7 20.6	14 41.2	5 14.7	17 50.0	1 2.9	- -
	30歳代	56 100.0	24 42.9	22 39.3	10 17.9	10 17.9	23 41.1	8 14.3	23 41.1	3 5.4	- -
	40歳代	70 100.0	33 47.1	31 44.3	12 17.1	19 27.1	24 34.3	13 18.6	29 41.4	2 2.9	1 1.4
	50歳代	65 100.0	22 33.8	35 53.8	15 23.1	16 24.6	25 38.5	14 21.5	34 52.3	1 1.5	1 1.5
	60歳代	37 100.0	9 24.3	17 45.9	5 13.5	14 37.8	15 40.5	6 16.2	14 37.8	2 5.4	1 2.7

女性の場合は、20歳代では「リーダーの役に女性を割り当てる」「女性リーダー同士の交流の場や相談できる窓口を作る」「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」の割合が他の年代よりも高い。

40歳代では、「女性リーダーに対する男性の意識を変える」「女性が活動できるように、家族で家事を分担する」の割合が他の年代より高い。

50歳代では、「女性自身が意識を変える」の割合が他の年代よりも高い。

60歳代では、「女性リーダーの養成をする」の割合が他の年代よりも高い。

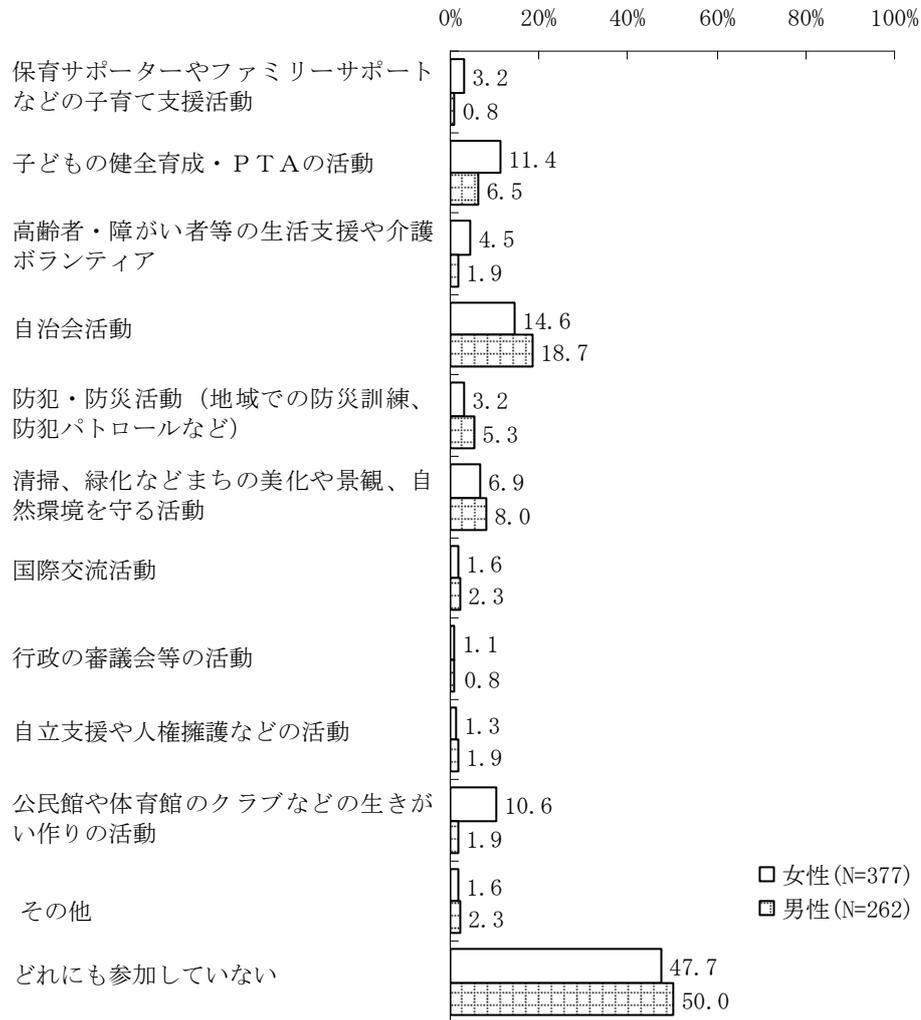
男性の場合は、40歳代では「女性自身が意識を変える」の割合が他の年代よりも高い。

50歳代では、「女性リーダーに対する男性の意識を変える」「女性リーダー同士の交流の場や相談できる窓口を作る」「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」の割合が他の年代よりも高い。

60歳代では、「女性リーダーの養成をする」の割合が他の年代よりも高い。

問14 現在、どんな活動に参加していますか。また、今後はどんな活動に参加したいですか。
(〇はいくつでも)

図3-2 現在参加している活動



■男女ともに「自治会活動」への参加が最も高い

現在参加している活動についてたずねたところ、「どれも参加していない」割合は女性 47.7%・男性 50.0%であり、2人に1人の割合で何らかの活動に参加している。

参加している活動で最も高いのは「自治会活動」で、女性 14.6%・男性 18.7%である。次いで、女性では、「子どもの健全育成・PTAの活動」「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」が10%台で続く。

男性では、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」(8.0%)、「子どもの健全育成・PTAの活動」(6.5%)が続く。

表3-2 性・年代別 現在参加している活動

		全体	保育サポーターやファミリーサポートなどの子育て支援活動	子どもの健全育成・PTAの活動	高齢者・障がい者等の生活支援や介護ボランティア	自治会活動	防犯・防災活動（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）	清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動	国際交流活動	行政の審議会等の活動	自立支援や人権擁護などの活動	公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動	その他	どれにも参加していない	無回答
全体	上段/実数	640	14	60	22	104	26	48	12	7	11	45	12	311	102
	下段/%	100.0	2.2	9.4	3.4	16.3	4.1	7.5	1.9	1.1	1.7	7.0	1.9	48.6	15.9
女性	20歳代	51	1	1	1	2	-	1	1	-	1	1	1	31	13
		100.0	2.0	2.0	2.0	3.9	-	2.0	2.0	-	2.0	2.0	2.0	60.8	25.5
	30歳代	83	1	10	4	12	2	3	2	-	-	7	-	48	10
		100.0	1.2	12.0	4.8	14.5	2.4	3.6	2.4	-	-	8.4	-	57.8	12.0
	40歳代	97	4	23	3	19	5	10	-	2	2	8	2	44	10
	100.0	4.1	23.7	3.1	19.6	5.2	10.3	-	2.1	2.1	8.2	2.1	45.4	10.3	
50歳代	104	3	7	8	13	4	12	2	1	1	21	2	40	18	
	100.0	2.9	6.7	7.7	12.5	3.8	11.5	1.9	1.0	1.0	20.2	1.9	38.5	17.3	
60歳代	40	3	1	1	9	1	-	1	1	1	3	1	16	10	
	100.0	7.5	2.5	2.5	22.5	2.5	-	2.5	2.5	2.5	7.5	2.5	40.0	25.0	
男性	20歳代	34	-	-	1	-	-	2	1	-	-	1	-	24	5
		100.0	-	-	2.9	-	-	5.9	2.9	-	-	2.9	-	70.6	14.7
	30歳代	56	-	3	2	9	4	4	2	-	-	1	2	31	10
		100.0	-	5.4	3.6	16.1	7.1	7.1	3.6	-	-	1.8	3.6	55.4	17.9
	40歳代	70	1	6	2	17	1	4	-	-	2	1	1	33	11
	100.0	1.4	8.6	2.9	24.3	1.4	5.7	-	-	2.9	1.4	1.4	47.1	15.7	
50歳代	65	1	8	-	15	7	5	1	-	2	2	1	28	9	
	100.0	1.5	12.3	-	23.1	10.8	7.7	1.5	-	3.1	3.1	1.5	43.1	13.8	
60歳代	37	-	-	-	8	2	6	2	2	1	-	2	15	6	
	100.0	-	-	-	21.6	5.4	16.2	5.4	5.4	2.7	-	5.4	40.5	16.2	

女性の場合は、40歳代では「子どもの健全育成・PTAの活動」の割合が他の年代よりも高い。
50歳代では、「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」の割合が他の年代よりも高い。

60歳代では、「保育サポーターやファミリーサポートなどの子育て支援活動」「自治会活動」の割合が他の年代よりも高い。

また、20歳代で「どれにも参加していない」は60.8%で、年代中最も高くなっている。

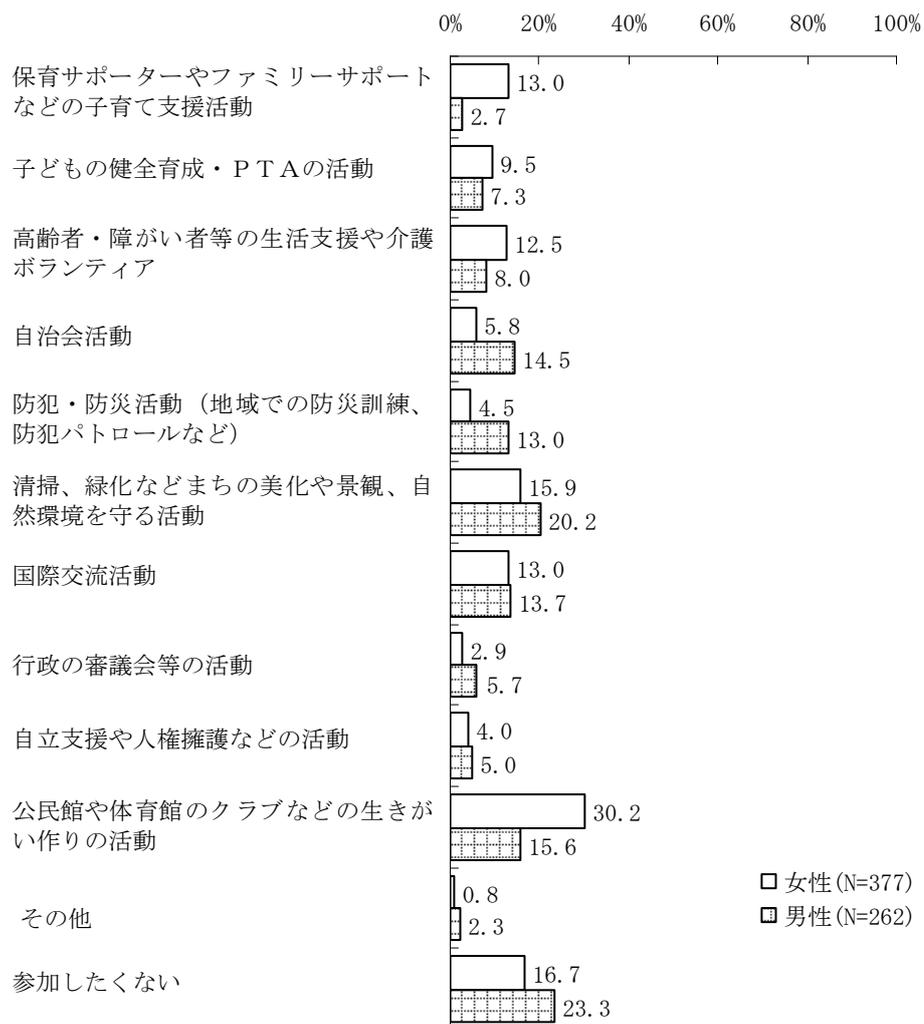
男性の場合は、40歳代では「自治会活動」の割合が他の年代よりも高い。

50歳代では、「防犯・防災活動（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）」の割合が他の年代よりも高い。

60歳代では、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」の割合が他の年代よりも高い。

また、20歳代で「どれにも参加していない」は70.6%で、年代中最も高くなっている。

図 3-3 今後参加したい活動



■何らかの活動に参加したい割合が男女ともに80%前後

今後の活動意向についてたずねたところ、「参加したくない」とする割合は、女性 16.7%・男性 23.3%であり、男女ともに80%前後の人が何らかの活動に参加したいと考えている。

その内容をみると、女性の場合は、「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」の割合が際立って高く30.2%である。次いで、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」「国際交流活動」「保育サポーターやファミリーサポートなどの子育て支援活動」「高齢者・障がい者等の生活支援や介護ボランティア」が10%台で続く。

男性では、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」の割合が最も高く20.2%である。次いで、「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」「自治会活動」「国際交流活動」「防犯・防災活動（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）」が10%台で続いている。

表3-3 性・年代別 今後参加したい活動

		全体	保育サポーターやファミリーサポートなどの子育て支援活動	子どもの健全育成・PTAの活動	高齢者・障がい者等の生活支援や介護ボランティア	自治会活動	防犯・防災活動（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）	清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動	国際交流活動	行政の審議会等の活動	自立支援や人権擁護などの活動	公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動	その他	どれにも参加したくない	無回答
全体	上段/実数	640	57	55	68	60	51	113	86	26	28	155	9	124	125
	下段/%	100.0	8.9	8.6	10.6	9.4	8.0	17.7	13.4	4.1	4.4	24.2	1.4	19.4	19.5
女性	20歳代	51	7	5	7	3	4	8	14	3	1	17	-	9	11
		100.0	13.7	9.8	13.7	5.9	7.8	15.7	27.5	5.9	2.0	33.3	-	17.6	21.6
	30歳代	83	14	13	6	5	4	9	11	3	2	23	1	22	13
		100.0	16.9	15.7	7.2	6.0	4.8	10.8	13.3	3.6	2.4	27.7	1.2	26.5	15.7
	40歳代	97	12	14	9	8	5	13	14	2	4	31	-	15	20
	100.0	12.4	14.4	9.3	8.2	5.2	13.4	14.4	2.1	4.1	32.0	-	15.5	20.6	
50歳代	104	13	2	17	3	3	22	7	1	6	39	1	10	26	
	100.0	12.5	1.9	16.3	2.9	2.9	21.2	6.7	1.0	5.8	37.5	1.0	9.6	25.0	
60歳代	40	3	1	8	3	1	7	2	2	2	4	1	7	15	
	100.0	7.5	2.5	20.0	7.5	2.5	17.5	5.0	5.0	5.0	10.0	2.5	17.5	37.5	
男性	20歳代	34	1	-	2	-	3	5	7	-	1	7	2	8	6
		100.0	2.9	-	5.9	-	8.8	14.7	20.6	-	2.9	20.6	5.9	23.5	17.6
	30歳代	56	2	2	1	9	7	12	12	1	1	6	-	16	7
		100.0	3.6	3.6	1.8	16.1	12.5	21.4	21.4	1.8	1.8	10.7	-	28.6	12.5
	40歳代	70	1	10	4	9	9	13	6	6	4	6	2	22	12
	100.0	1.4	14.3	5.7	12.9	12.9	18.6	8.6	8.6	5.7	8.6	2.9	31.4	17.1	
50歳代	65	2	5	10	10	7	16	10	6	5	15	2	11	8	
	100.0	3.1	7.7	15.4	15.4	10.8	24.6	15.4	9.2	7.7	23.1	3.1	16.9	12.3	
60歳代	37	1	2	4	10	8	7	1	2	2	7	-	4	7	
	100.0	2.7	5.4	10.8	27.0	21.6	18.9	2.7	5.4	5.4	18.9	-	10.8	18.9	

女性の場合は、20歳代では、「国際交流活動」の割合が他の年代よりも高い。

30歳代では、「保育サポーターやファミリーサポートなどの子育て支援活動」「子どもの健全育成・PTAの活動」の割合が他の年代よりも高く、その一方で「どれにも参加したくない」の割合も他の年代より高い。

50歳代では、「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」の割合が他の年代より高い。

60歳代では、「高齢者・障がい者等の生活支援や介護ボランティア」の割合が他の年代より高くなっている。

男性の場合は、30歳代で「国際交流活動」の割合が他の年代よりも高い。

40歳代で「子どもの健全育成・PTAの活動」の割合が他の年代よりも高いものの、「どれにも参加したくない」の割合は30%を超えている。

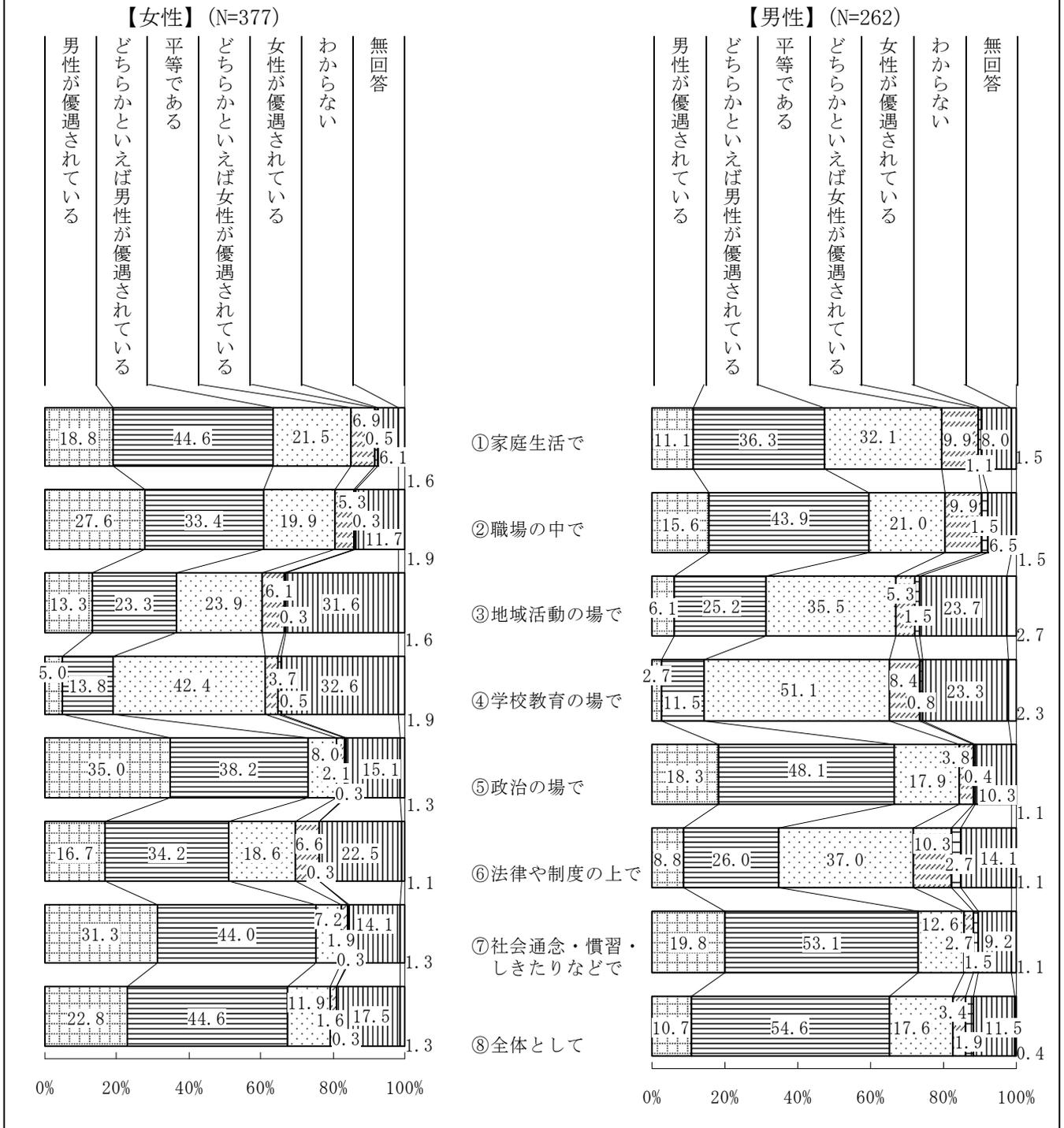
50歳代で「高齢者・障がい者等の生活支援や介護ボランティア」「清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動」「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」の割合が他の年代より高い。

60歳代では、「自治会活動」「防犯・防災活動（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）」の割合が他の年代より高くなっている。

4. 男女の地位に関する意識について

問15 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

図4-1 男女の地位の平等感



■ 「社会通念・慣習・しきたり」での『男性優遇』感は男女ともに70%を超える

社会のさまざまな分野における男女平等についてたずねたところ、「平等である」割合が一番高い分野は「学校教育の場で」で、女性42.4%・男性51.1%である。

「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計した『男性優遇』の割合が最も高いのは、「社会通念・慣習・しきたりなどで」で、女性 75.3%・男性 72.9%。次いで、「政治の場で」（女性 73.2%・男性 66.4%）、「全体として」（女性 67.4%・男性 65.3%）と続く。

表 4-1 性・年代別 男女の地位の平等感

	全体	①家庭生活で				②職場の中で				③地域活動の場で				
		『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	364 56.9	165 25.8	57 8.9	44 6.9	387 60.5	130 20.3	51 8.0	61 9.5	221 34.5	183 28.6	42 6.6	181 28.3
女性	20歳代	51 100.0	23 45.1	14 27.5	8 15.7	6 11.8	30 58.9	9 17.6	6 11.8	6 11.8	14 27.4	13 25.5	5 9.8	19 37.3
	30歳代	83 100.0	48 57.9	20 24.1	8 9.6	6 7.2	52 62.7	20 24.1	5 6.0	6 7.2	25 30.1	19 22.9	7 8.4	32 38.6
	40歳代	97 100.0	64 66.0	23 23.7	4 4.1	4 4.1	63 65.0	23 23.7	3 3.1	8 8.2	34 35.1	28 28.9	4 4.1	29 29.9
	50歳代	104 100.0	76 73.0	14 13.5	6 5.8	6 5.8	64 61.5	16 15.4	7 6.7	15 14.4	46 44.2	24 23.1	7 6.8	26 25.0
	60歳代	40 100.0	27 67.5	9 22.5	2 5.0	1 2.5	20 50.0	6 15.0	-	9 22.5	18 45.0	6 15.0	1 2.5	12 30.0
男性	20歳代	34 100.0	9 26.5	10 29.4	4 11.8	9 26.5	17 50.0	10 29.4	2 5.8	5 14.7	9 26.4	10 29.4	3 8.8	11 32.4
	30歳代	56 100.0	24 42.9	22 39.3	6 10.7	4 7.1	32 57.1	16 28.6	4 7.1	3 5.4	14 25.0	15 26.8	7 12.5	19 33.9
	40歳代	70 100.0	35 50.0	21 30.0	9 12.8	5 7.1	39 55.7	11 15.7	16 22.8	4 5.7	19 27.2	32 45.7	3 4.3	14 20.0
	50歳代	65 100.0	36 55.4	22 33.8	3 4.6	3 4.6	43 66.2	12 18.5	5 7.7	3 4.6	27 41.5	24 36.9	2 3.0	10 15.4
	60歳代	37 100.0	20 54.0	9 24.3	7 18.9	-	25 67.6	6 16.2	3 8.1	2 5.4	13 35.1	12 32.4	3 8.1	8 21.6

	全体	④学校教育の場で				⑤政治の場で				⑥法律や制度の上で				
		『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	109 17.1	294 45.9	40 6.2	184 28.8	451 70.4	77 12.0	20 3.1	84 13.1	284 44.3	167 26.1	60 9.4	122 19.1
女性	20歳代	51 100.0	5 9.8	24 47.1	5 9.8	17 33.3	38 74.5	3 5.9	-	10 19.6	19 37.2	11 21.6	3 5.9	18 35.3
	30歳代	83 100.0	11 13.2	34 41.0	6 7.2	32 38.6	70 84.3	3 3.6	1 1.2	9 10.8	42 50.6	13 15.7	7 8.4	21 25.3
	40歳代	97 100.0	22 22.7	51 52.6	2 2.1	20 20.6	72 74.2	9 9.3	1 1.0	14 14.4	57 58.8	18 18.6	5 5.2	16 16.5
	50歳代	104 100.0	23 22.1	40 38.5	2 1.9	36 34.6	70 67.3	12 11.5	5 4.8	16 15.4	51 49.0	21 20.2	9 8.7	22 21.2
	60歳代	40 100.0	9 22.5	11 27.5	1 2.5	17 42.5	25 62.5	3 7.5	2 5.0	7 17.5	22 55.0	7 17.5	2 5.0	7 17.5
男性	20歳代	34 100.0	3 8.8	17 50.0	5 14.7	9 26.5	18 53.0	8 23.5	1 2.9	7 20.6	7 20.5	13 38.2	3 8.8	11 32.4
	30歳代	56 100.0	9 16.1	23 41.1	6 10.7	17 30.4	40 71.4	6 10.7	2 3.6	7 12.5	25 44.6	14 25.0	7 12.5	9 16.1
	40歳代	70 100.0	9 12.9	44 62.9	2 2.9	14 20.0	47 67.2	14 20.0	6 8.6	3 4.3	22 31.4	26 37.1	15 21.4	7 10.0
	50歳代	65 100.0	12 18.5	32 49.2	6 9.3	12 18.5	44 67.7	11 16.9	1 1.5	7 10.8	28 43.1	23 35.4	7 10.7	5 7.7
	60歳代	37 100.0	4 10.8	18 48.6	5 13.5	9 24.3	25 67.6	8 21.6	1 2.7	3 8.1	9 24.3	21 56.8	2 5.4	5 13.5

表4-1 性・年代別 男女の地位の平等感

	全体	⑦社会通念・慣習・しきたりなどで				⑧全体として				
		『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	『男性優遇』	平等である	『女性優遇』	わからない	
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	476 74.4	60 9.4	19 3.0	77 12.0	426 66.6	91 14.2	21 3.2	96 15.0
女性	20歳代	51 100.0	34 66.7	3 5.9	2 3.9	12 23.5	25 49.0	11 21.6	1 2.0	14 27.5
	30歳代	83 100.0	57 68.7	8 9.6	2 2.4	15 18.1	53 63.9	11 13.3	2 2.4	17 20.5
	40歳代	97 100.0	79 81.4	4 4.1	2 2.1	9 9.3	75 77.3	8 8.2	1 1.0	11 11.3
	50歳代	104 100.0	84 80.8	8 7.7	2 1.9	10 9.6	72 69.2	11 10.6	3 2.9	17 16.3
	60歳代	40 100.0	29 72.5	4 10.0	- -	6 15.0	28 70.0	4 10.0	- -	6 15.0
男性	20歳代	34 100.0	20 58.8	6 17.6	2 5.8	6 17.6	15 44.1	9 26.5	1 2.9	9 26.5
	30歳代	56 100.0	42 75.0	7 12.5	2 3.6	5 8.9	37 66.1	10 17.9	1 1.8	8 14.3
	40歳代	70 100.0	51 72.9	10 14.3	3 4.3	6 8.6	45 64.3	14 20.0	5 7.2	6 8.6
	50歳代	65 100.0	51 78.5	2 3.1	4 6.2	5 7.7	48 73.9	5 7.7	6 9.3	5 7.7
	60歳代	37 100.0	27 73.0	8 21.6	- -	2 5.4	26 70.3	8 21.6	1 2.7	2 5.4

女性の場合、30歳代では「政治の場で」で『男性優遇』の割合が他の年代に比べて高くなっている。40歳代では「学校教育の場で」で「平等である」の割合が年代中最も高く、最も低い60歳代と25.1ポイントの開きがある。また「法律や制度の上で」では『男性優遇』の割合が年代中最も高い。

男性の場合、30歳代で「政治の場で」「法律や制度の上で」での『男性優遇』の割合が年代中最も高い。

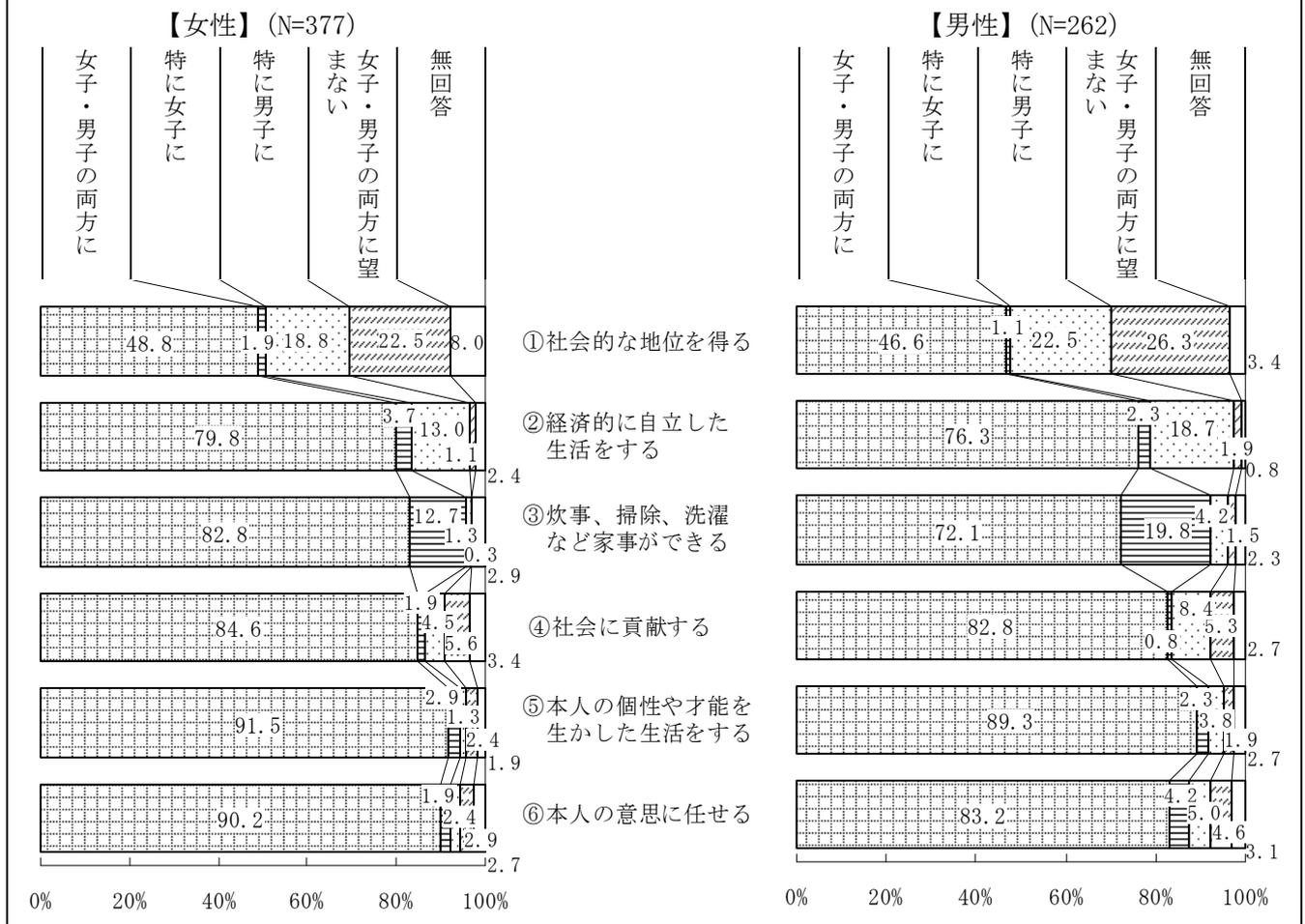
40歳代では、「学校教育の場で」での「平等である」の割合が年代中最も高い。

50歳代では、「家庭生活で」「地域活動の場で」での『男性優遇』の割合が年代中最も高い。

5. 教育について

問16 あなたに未成年の子どもがいると仮定して、あなたは、将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。(○は各項目にそれぞれ1つ)

図5-1 子どもに望む生き方



■「個性や才能を生かした生活をする」を男女の90%前後が望んでいる

子どもの将来をどう考えているかをたずねたところ、「社会的な地位を得る」を除く項目で、男女ともに70%以上が「女子・男子の両方に」を選んでいる。特にその割合が高いのは「本人の個性や才能を生かした生活をする」で女性91.5%・男性89.3%である。

一方、「社会的な地位を得る」（女性18.8%・男性22.5%）、「経済的に自立した生活をする」（女性13.0%・男性18.7%）では「特に男子に」が高くなっている。

また、「炊事、掃除、洗濯など家事ができる」では、「特に女子に」が女性12.7%・男性19.8%と高くなっている。

【性・年代別】

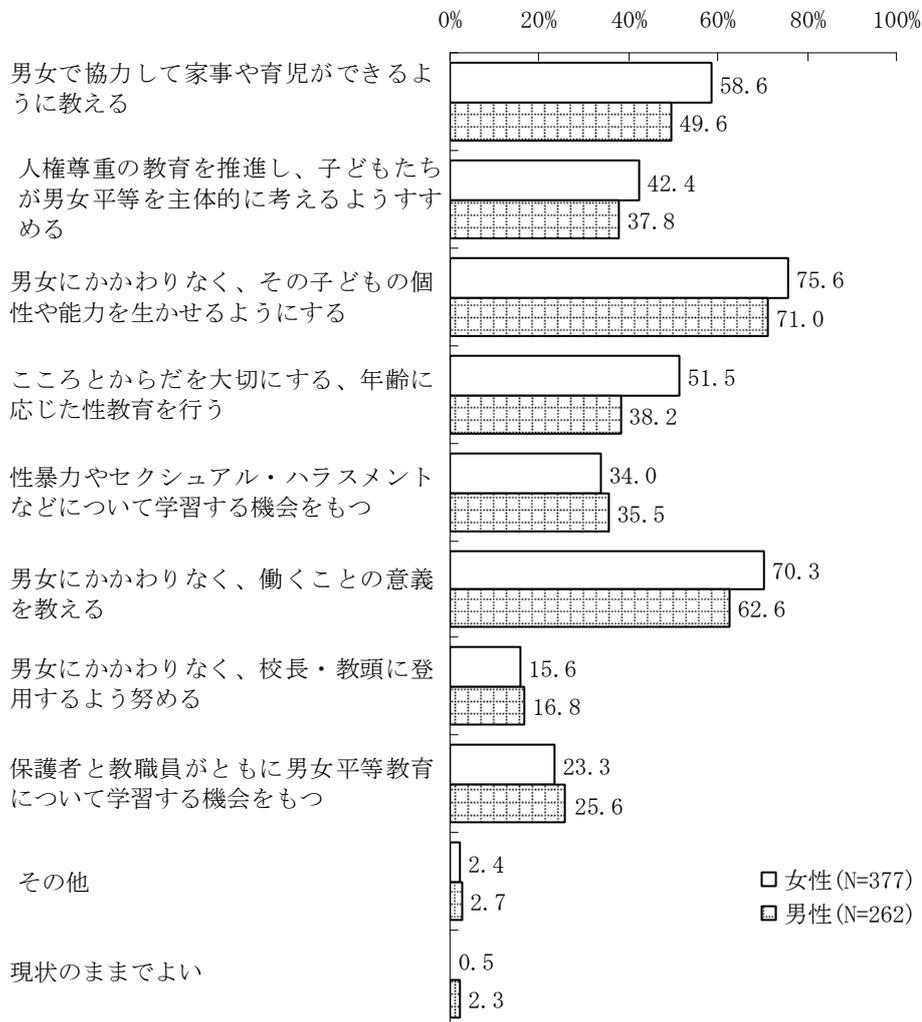
女性の40歳代、男性の20歳代では、「特に男子に」は「社会的な地位を得る」ことを望む割合が、他の年代よりもやや高くなっている。また、男性の50歳代では「特に男子に」は「経済的に自立した生活をする」ことを望む割合が他の年代よりもやや高くなっている。男女60歳代では「特に女子に」は「炊事、掃除、洗濯など家事ができる」ことを望む割合が他の年代よりもやや高くなっている。

表5-1 性・年代別 子どもに望む生き方

		全体	①社会的な地位を得る					②経済的に自立した生活をする					③炊事、掃除、洗濯などの家事ができる				
			方に女子・男子の両	特に女子に	特に男子に	方に女子・男子の両に望まない	方に女子・男子の両	特に女子に	特に男子に	方に女子・男子の両に望まない	方に女子・男子の両	特に女子に	特に男子に	方に女子・男子の両に望まない			
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	307 48.0	10 1.6	130 20.3	154 24.1	502 78.4	20 3.1	98 15.3	9 1.4	502 78.4	100 15.6	16 2.5	5 0.8			
女性	20歳代	51 100.0	27 52.9	1 2.0	7 13.7	12 23.5	41 80.4	2 3.9	7 13.7	1 2.0	45 88.2	6 11.8	- -	- -			
	30歳代	83 100.0	45 54.2	1 1.2	17 20.5	17 20.5	67 80.7	3 3.6	12 14.5	- -	71 85.5	8 9.6	2 2.4	- -			
	40歳代	97 100.0	45 46.4	2 2.1	24 24.7	21 21.6	82 84.5	1 1.0	11 11.3	1 1.0	81 83.5	11 11.3	1 1.0	- -			
	50歳代	104 100.0	46 44.2	2 1.9	19 18.3	26 25.0	82 78.8	6 5.8	13 12.5	1 1.0	86 82.7	13 12.5	1 1.0	1 1.0			
	60歳代	40 100.0	19 47.5	1 2.5	4 10.0	9 22.5	28 70.0	2 5.0	5 12.5	1 2.5	27 67.5	10 25.0	1 2.5	- -			
男性	20歳代	34 100.0	14 41.2	- -	9 26.5	8 23.5	28 82.4	1 2.9	5 14.7	- -	26 76.5	5 14.7	2 5.9	1 2.9			
	30歳代	56 100.0	33 58.9	1 1.8	13 23.2	9 16.1	45 80.4	- -	9 16.1	2 3.6	39 69.6	12 21.4	3 5.4	2 3.6			
	40歳代	70 100.0	31 44.3	- -	17 24.3	22 31.4	53 75.7	2 2.9	15 21.4	- -	50 71.4	15 21.4	4 5.7	- -			
	50歳代	65 100.0	30 46.2	2 3.1	13 20.0	17 26.2	45 69.2	3 4.6	16 24.6	- -	50 76.9	10 15.4	1 1.5	1 1.5			
	60歳代	37 100.0	14 37.8	- -	7 18.9	13 35.1	29 78.4	- -	4 10.8	3 8.1	24 64.9	10 27.0	1 2.7	- -			
		全体	④社会に貢献する					⑤本人の個性や才能を生かした生活をする					⑥本人の意思に任せる				
			方に女子・男子の両	特に女子に	特に男子に	方に女子・男子の両に望まない	方に女子・男子の両	特に女子に	特に男子に	方に女子・男子の両に望まない	方に女子・男子の両	特に女子に	特に男子に	方に女子・男子の両に望まない			
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	537 83.9	9 1.4	39 6.1	35 5.5	580 90.6	17 2.7	15 2.3	14 2.2	559 87.3	18 2.8	22 3.4	23 3.6			
女性	20歳代	51 100.0	45 88.2	1 2.0	- -	5 9.8	48 94.1	2 3.9	1 2.0	- -	45 88.2	1 2.0	1 2.0	3 5.9			
	30歳代	83 100.0	73 88.0	- -	3 3.6	5 6.0	78 94.0	2 2.4	- -	3 3.6	74 89.2	1 1.2	4 4.8	3 3.6			
	40歳代	97 100.0	83 85.6	2 2.1	3 3.1	5 5.2	86 88.7	5 5.2	2 2.1	2 2.1	91 93.8	2 2.1	- -	2 2.1			
	50歳代	104 100.0	89 85.6	1 1.0	7 6.7	3 2.9	97 93.3	- -	2 1.9	2 1.9	92 88.5	1 1.0	4 3.8	3 2.9			
	60歳代	40 100.0	27 67.5	3 7.5	4 10.0	3 7.5	35 87.5	1 2.5	- -	2 5.0	37 92.5	1 2.5	- -	- -			
男性	20歳代	34 100.0	30 88.2	- -	3 8.8	1 2.9	31 91.2	- -	1 2.9	- -	28 82.4	1 2.9	3 8.8	1 2.9			
	30歳代	56 100.0	45 80.4	1 1.8	6 10.7	4 7.1	50 89.3	1 1.8	2 3.6	2 3.6	46 82.1	3 5.4	3 5.4	4 7.1			
	40歳代	70 100.0	59 84.3	- -	5 7.1	4 5.7	64 91.4	3 4.3	2 2.9	- -	55 78.6	5 7.1	3 4.3	5 7.1			
	50歳代	65 100.0	53 81.5	- -	6 9.2	4 6.2	55 84.6	1 1.5	4 6.2	3 4.6	58 89.2	- -	3 4.6	1 1.5			
	60歳代	37 100.0	30 81.1	1 2.7	2 5.4	1 2.7	34 91.9	1 2.7	1 2.7	- -	31 83.8	2 5.4	1 2.7	1 2.7			

問17 あなたが小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組みは、どれですか。
(〇はいくつでも)

図5-2 小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組み



■男女ともに「子どもの個性や能力を生かせるように」と「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」の割合が高い

小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組みについてたずねたところ、「男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」（女性 75.6%・男性 71.0%）と「男女にかかわりなく、働くことの意義を教える」（女性 70.3%・男性 62.6%）の割合が男女ともに高くなっている。

「性暴力やセクシュアル・ハラスメントなどについて学習する機会をもつ」「男女にかかわりなく、校長・教頭に登用するよう努める」「保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ」以外の項目で、女性の方の割合が高くなっており、特に、「こころとからだを大切にする、年齢に応じた性教育を行う」では 13.3 ポイントの開きがある。

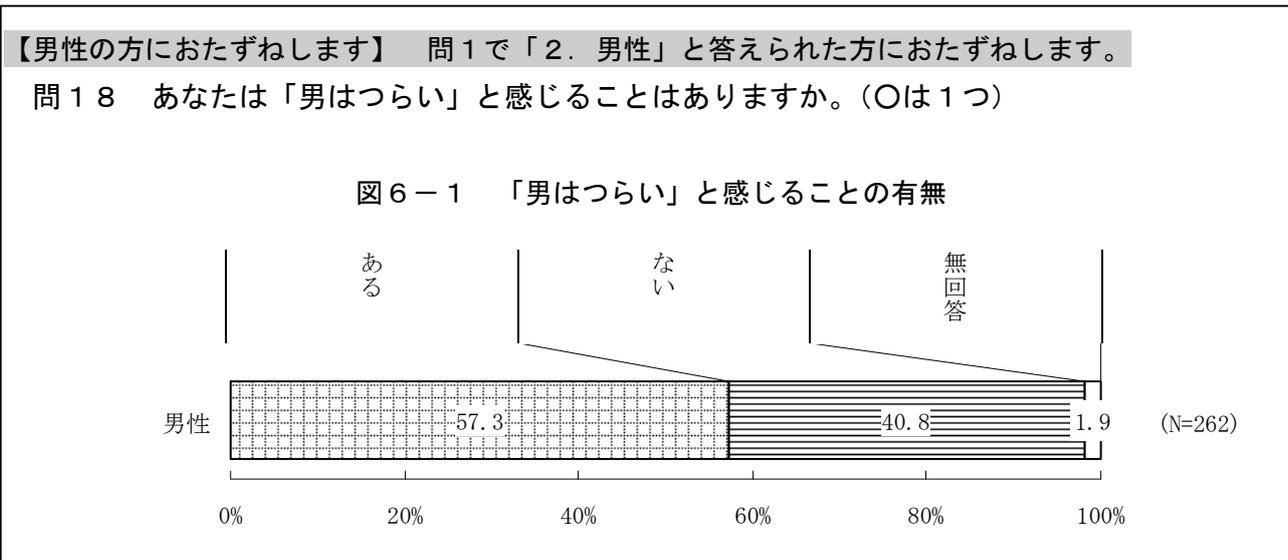
表5-2 性・年代別 小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組み

		全体	男女で協力して家事や育児ができるように教える	男女が男女平等を主体的に考えるようすすめる	人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考える	男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする	年齢に応じた性教育を行う	ここからだを大切にす、年齢に合った性教育を行う	性暴力やセクシュアル・ハラスメントなどについて学習する機会をもつ	男女にかかわりなく、働くことの意義を教える	男女にかかわりなく、校長・教頭に登用するよう努める	保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ	その他	現状のままでよい	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	352 55.0	260 40.6	472 73.8	295 46.1	222 34.7	430 67.2	104 16.3	156 24.4	16 2.5	8 1.3	1 0.2		
女性	20歳代	51 100.0	27 52.9	28 54.9	33 64.7	30 58.8	22 43.1	35 68.6	9 17.6	15 29.4	1 2.0	- -	- -		
	30歳代	83 100.0	51 61.4	31 37.3	60 72.3	35 42.2	23 27.7	57 68.7	12 14.5	19 22.9	3 3.6	1 1.2	- -		
	40歳代	97 100.0	59 60.8	35 36.1	76 78.4	48 49.5	34 35.1	65 67.0	13 13.4	20 20.6	2 2.1	1 1.0	1 1.0		
	50歳代	104 100.0	60 57.7	42 40.4	84 80.8	55 52.9	29 27.9	75 72.1	17 16.3	21 20.2	3 2.9	- -	- -		
	60歳代	40 100.0	23 57.5	22 55.0	31 77.5	25 62.5	20 50.0	32 80.0	8 20.0	13 32.5	- -	- -	- -		
男性	20歳代	34 100.0	15 44.1	13 38.2	25 73.5	15 44.1	11 32.4	20 58.8	3 8.8	10 29.4	1 2.9	1 2.9	- -		
	30歳代	56 100.0	35 62.5	15 26.8	37 66.1	24 42.9	19 33.9	33 58.9	9 16.1	13 23.2	2 3.6	2 3.6	- -		
	40歳代	70 100.0	32 45.7	20 28.6	48 68.6	25 35.7	22 31.4	44 62.9	12 17.1	13 18.6	3 4.3	2 2.9	- -		
	50歳代	65 100.0	35 53.8	31 47.7	46 70.8	24 36.9	26 40.0	46 70.8	15 23.1	18 27.7	- -	1 1.5	- -		
	60歳代	37 100.0	13 35.1	20 54.1	30 81.1	12 32.4	15 40.5	21 56.8	5 13.5	13 35.1	1 2.7	- -	- -		

30歳代では、男女ともに「男女で協力して家事や育児ができるように教える」の割合が年代中最も高く、女性61.4%・男性62.5%である。

男女ともに60歳代において高い割合の項目が多い。

6. 心と体の健康について



■60%弱の男性が「男はつらい」と感じている

男性に「男はつらい」と感じることがあるかについてたずねたところ、「ある」と回答した割合は57.3%、「ない」は40.8%、16.5ポイント「ある」の割合が上回っている。

表6-1 性・年代別 「男はつらい」と感じることの有無

		全体	ある	ない	無回答
全体	上段/実数	262	150	107	5
	下段/%	100.0	57.3	40.8	1.9
男性	20歳代	34	13	18	3
		100.0	38.2	52.9	8.8
	30歳代	56	27	27	2
		100.0	48.2	48.2	3.6
	40歳代	70	43	27	-
	100.0	61.4	38.6	-	
	50歳代	65	47	18	-
	100.0	72.3	27.7	-	
	60歳代	37	20	17	-
	100.0	54.1	45.9	-	

年代別にみると、20歳代では、「ない」の割合が52.9%、「ある」が38.2%で、14.7ポイントほど「ない」が上回っている。

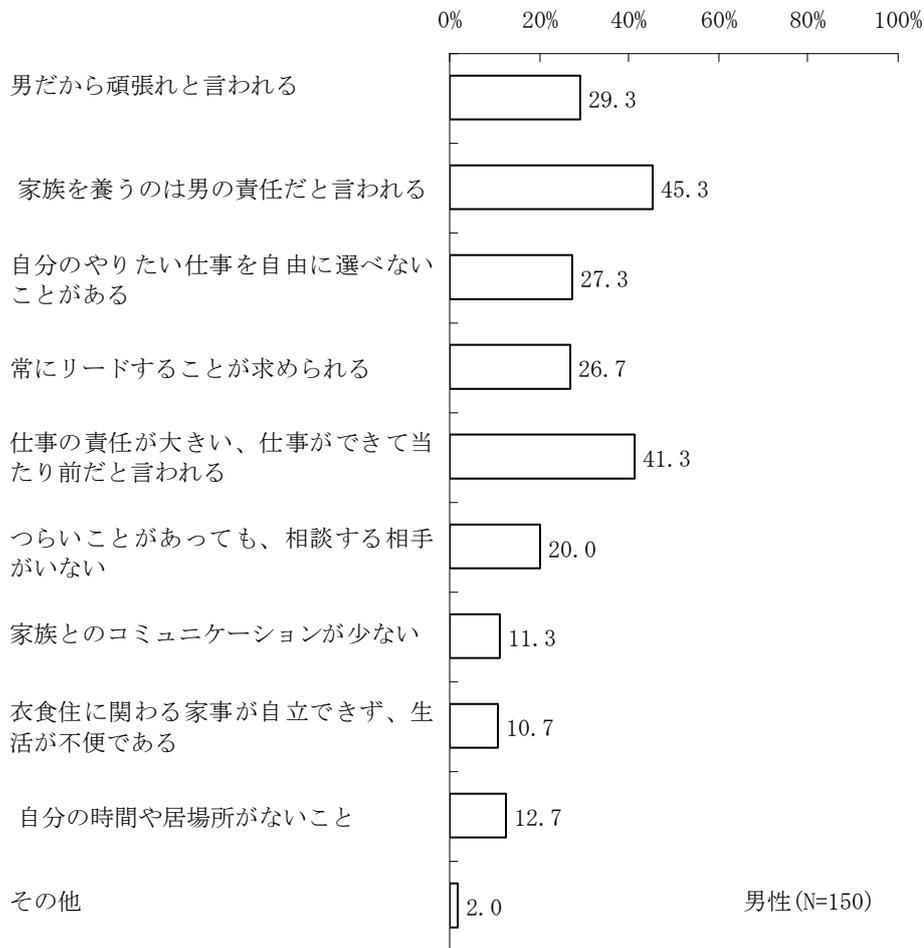
30歳代では、「ある」「ない」ともに48.2%で同率である。

40～60歳代では、「ある」が「ない」を上回り、40歳代では22.8ポイント、50歳代では44.6ポイントと差が開いている。

【問18で「1. ある」と答えられた方におたずねします】

問18-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

図6-2 「男はつらい」と感じる内容



■ 「家族を養う責任」と「仕事の責任」が辛いこと

男性が「男はつらい」と感じる内容をみると、「家族を養うのは男の責任だと言われる」「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前だと言われる」がそれぞれ45.3%、41.3%で高い割合である。

次いで、「男だから頑張れと言われる」(29.3%)、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」(27.3%)、「常にリードすることが求められる」(26.7%)が続く。

表6-2 性・年代別 「男はつらい」と感じる内容

		全体	男だから頑張れと言われる	家族を養うのは男の責任だと言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	常にリードすることが求められる	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる	つらいことがあっても、相談する相手がいない	家族とのコミュニケーションが少ない	衣食住に関わる家事が自立できず、生活が不便である	自分の時間や居場所がないこと	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	150 100.0	44 29.3	68 45.3	41 27.3	40 26.7	62 41.3	30 20.0	17 11.3	16 10.7	19 12.7	3 2.0	1 0.7
男性	20歳代	13 100.0	5 38.5	6 46.2	4 30.8	5 38.5	7 53.8	3 23.1	2 15.4	3 23.1	1 7.7	1 7.7	- -
	30歳代	27 100.0	11 40.7	10 37.0	8 29.6	9 33.3	6 22.2	7 25.9	5 18.5	3 11.1	7 25.9	1 3.7	- -
	40歳代	43 100.0	11 25.6	19 44.2	15 34.9	11 25.6	22 51.2	8 18.6	4 9.3	4 9.3	6 14.0	- -	- -
	50歳代	47 100.0	14 29.8	26 55.3	13 27.7	12 25.5	18 38.3	9 19.1	6 12.8	5 10.6	3 6.4	1 2.1	- -
	60歳代	20 100.0	3 15.0	7 35.0	1 5.0	3 15.0	9 45.0	3 15.0	- -	1 5.0	2 10.0	- -	1 5.0

20歳代では、「常にリードすることが求められる」「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる」「衣食住に関わる家事が自立できず、生活が不便である」で他の年代よりも高い割合である。

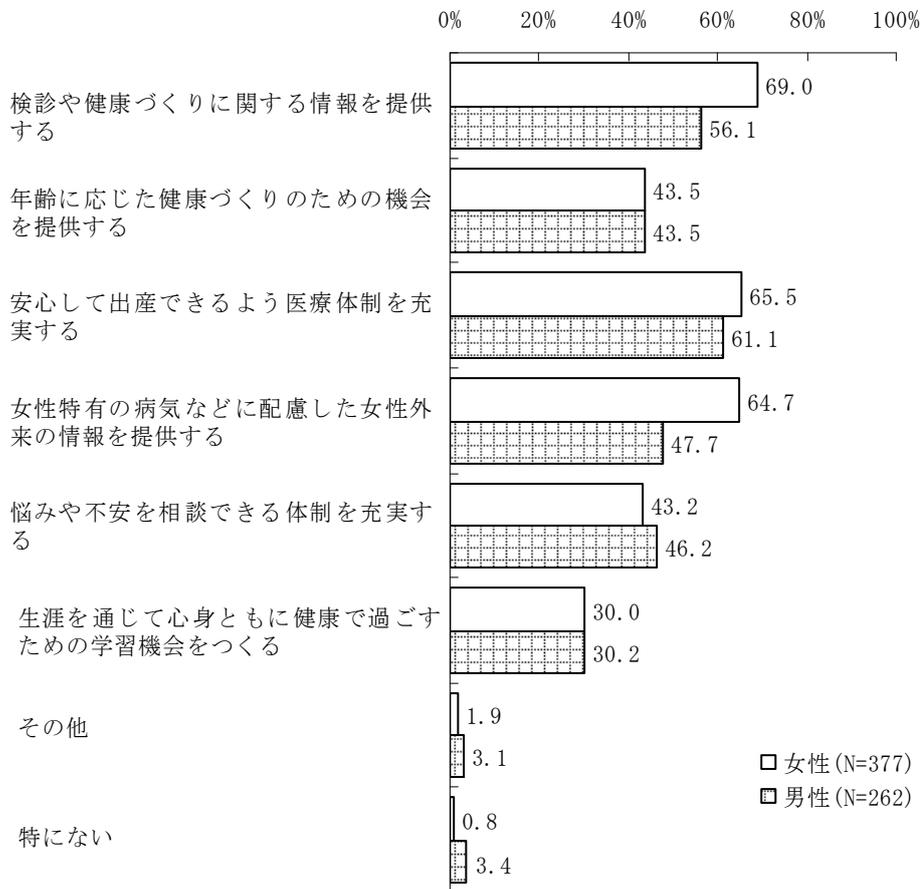
30歳代では、「男だから頑張れと言われる」「つらいことがあっても、相談する相手がいない」「家族とのコミュニケーションが少ない」「自分の時間や居場所がないこと」で他の年代よりも高い割合である。

40歳代では、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」で他の年代よりも高い割合である。「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる」も51.2%と高くなっている。

50歳代では、「家族を養うのは男の責任だと言われる」で他の年代よりも高い割合である。

問19 女性の心とからだの健康を保つために、泉佐野市はどのような取組みをする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

図6-3 女性の心身の健康を保つために泉佐野市が取組む必要があること



■検診や女性外来などの情報提供、安心して出産できる医療体制を望むのが60%を超える

女性の心とからだの健康を保つために泉佐野市にしてほしい取組みをたずねたところ、女性の場合は、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」が69.0%で最も高く、次いで、「安心して出産できるような医療体制を充実する」(65.5%)、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(64.7%)と続く。

男性の場合は、「安心して出産できるような医療体制を充実する」が61.1%で最も高く、次いで、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」(56.1%)、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」(47.7%)と続く。

表 6-3 性・年代別 女性の心身の健康を保つために泉佐野市が取組む必要があること

		全体	検診や健康づくりに関する情報を提供する	年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する	安心して出産できるよう医療体制を充実する	女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する	悩みや不安を相談できる体制を充実する	生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる	その他	特にない	無回答
全体	上段/実数	640	408	279	408	370	285	193	15	12	7
	下段/%	100.0	63.8	43.6	63.8	57.8	44.5	30.2	2.3	1.9	1.1
女性	20歳代	51	37	27	43	35	24	14	1	-	-
		100.0	72.5	52.9	84.3	68.6	47.1	27.5	2.0	-	-
	30歳代	83	58	36	53	62	33	21	2	2	-
		100.0	69.9	43.4	63.9	74.7	39.8	25.3	2.4	2.4	-
	40歳代	97	70	40	57	61	42	24	4	-	-
	100.0	72.2	41.2	58.8	62.9	43.3	24.7	4.1	-	-	
50歳代	104	69	41	70	64	42	38	-	-	-	
	100.0	66.3	39.4	67.3	61.5	40.4	36.5	-	-	-	
60歳代	40	24	19	24	22	21	14	-	1	-	
	100.0	60.0	47.5	60.0	55.0	52.5	35.0	-	2.5	-	
男性	20歳代	34	14	11	24	16	17	10	-	2	3
		100.0	41.2	32.4	70.6	47.1	50.0	29.4	-	5.9	8.8
	30歳代	56	33	24	34	27	21	14	3	3	-
		100.0	58.9	42.9	60.7	48.2	37.5	25.0	5.4	5.4	-
	40歳代	70	41	29	47	38	34	20	4	2	2
	100.0	58.6	41.4	67.1	54.3	48.6	28.6	5.7	2.9	2.9	
50歳代	65	36	31	37	28	31	21	1	2	1	
	100.0	55.4	47.7	56.9	43.1	47.7	32.3	1.5	3.1	1.5	
60歳代	37	23	19	18	16	18	14	-	-	1	
	100.0	62.2	51.4	48.6	43.2	48.6	37.8	-	-	2.7	

女性の場合は、20歳代では、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」「年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する」「安心して出産できるよう医療体制を充実する」の割合が年代中最も高い。

30歳代では、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」の割合が年代中最も高い。

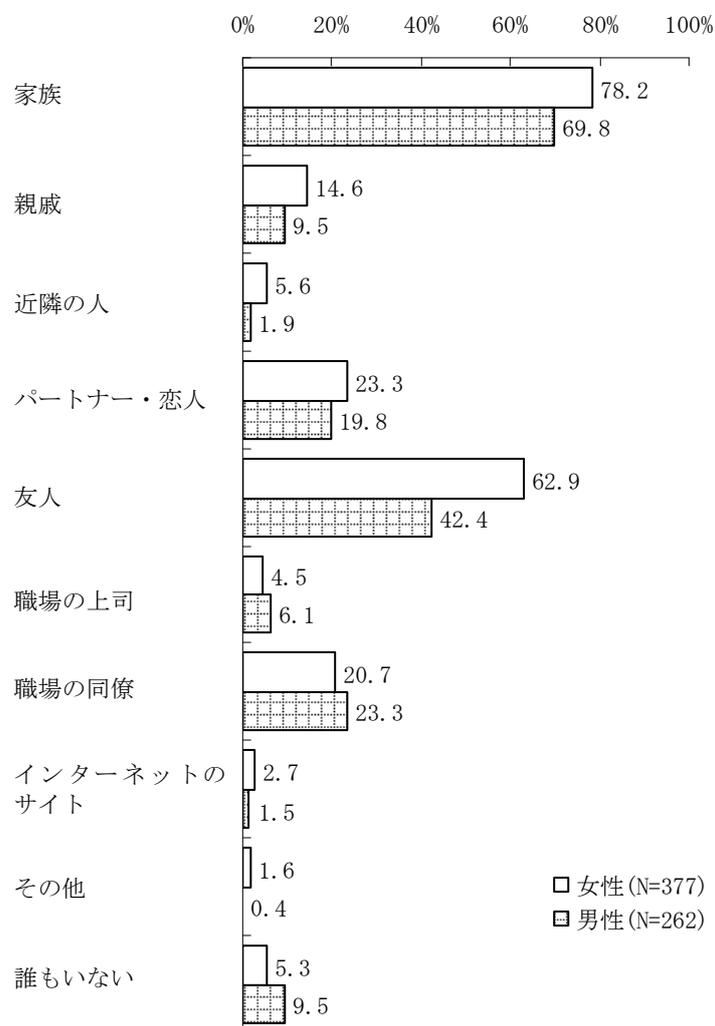
50歳代では「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる」、60歳代では「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が年代中最も高い。

男性の場合は、20歳代で、「安心して出産できるよう医療体制を充実する」「悩みや不安を相談できる体制を充実する」で年代中最も高く、40歳代で、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」が年代中最も高い。

60歳代では、「検診や健康づくりに関する情報を提供する」「年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する」「生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる」が年代中最も高い。

問20 あなたが、日ごろ、困り事や悩み事などを話すことができるのは誰ですか。
(〇はいくつでも)

図6-4 困り事や悩み事を話す相手



■男女とも「家族」と「友人」が上位

男女とも「家族」が女性 78.2%、男性 69.8%で最も高い。次いで「友人」が女性 62.9%、男性 42.4%で続いており、女性の方が男性よりも 20.5 ポイント高い。男性は「職場の同僚」「職場の上司」が女性よりもやや割合が高い。

表 6-4 性・年代別 困り事や悩み事を話す相手

		全体	家族	親戚	近隣の人	パートナー・恋人	友人	職場の上司	職場の同僚	インターネットのサイト	その他	誰もいない	無回答
全体	上段/実数	640	479	81	26	140	349	33	139	14	7	45	4
	下段/%	100.0	74.8	12.7	4.1	21.9	54.5	5.2	21.7	2.2	1.1	7.0	0.6
女性	20 歳代	51 100.0	39 76.5	1 2.0	- -	22 43.1	39 76.5	5 9.8	16 31.4	4 7.8	- -	3 5.9	- -
	30 歳代	83 100.0	65 78.3	6 7.2	6 7.2	23 27.7	53 63.9	3 3.6	21 25.3	4 4.8	1 1.2	6 7.2	- -
	40 歳代	97 100.0	73 75.3	13 13.4	5 5.2	19 19.6	59 60.8	5 5.2	20 20.6	2 2.1	2 2.1	7 7.2	- -
	50 歳代	104 100.0	87 83.7	22 21.2	7 6.7	18 17.3	65 62.5	3 2.9	18 17.3	- -	2 1.9	3 2.9	1 1.0
	60 歳代	40 100.0	29 72.5	13 32.5	3 7.5	6 15.0	20 50.0	1 2.5	3 7.5	- -	1 2.5	1 2.5	1 2.5
男性	20 歳代	34 100.0	24 70.6	3 8.8	- -	8 23.5	23 67.6	4 11.8	6 17.6	1 2.9	1 2.9	- -	1 2.9
	30 歳代	56 100.0	35 62.5	2 3.6	- -	18 32.1	19 33.9	3 5.4	18 32.1	1 1.8	- -	10 17.9	- -
	40 歳代	70 100.0	53 75.7	3 4.3	3 4.3	10 14.3	26 37.1	7 10.0	20 28.6	1 1.4	- -	6 8.6	1 1.4
	50 歳代	65 100.0	41 63.1	11 16.9	2 3.1	12 18.5	26 40.0	2 3.1	14 21.5	1 1.5	- -	7 10.8	- -
	60 歳代	37 100.0	30 81.1	6 16.2	- -	4 10.8	17 45.9	- -	3 8.1	- -	- -	2 5.4	- -

女性の場合は、20 歳代では、「パートナー・恋人」「友人」「職場の同僚」の割合が年代中最も高い。

60 歳代では「親戚」の割合が年代中最も高い。

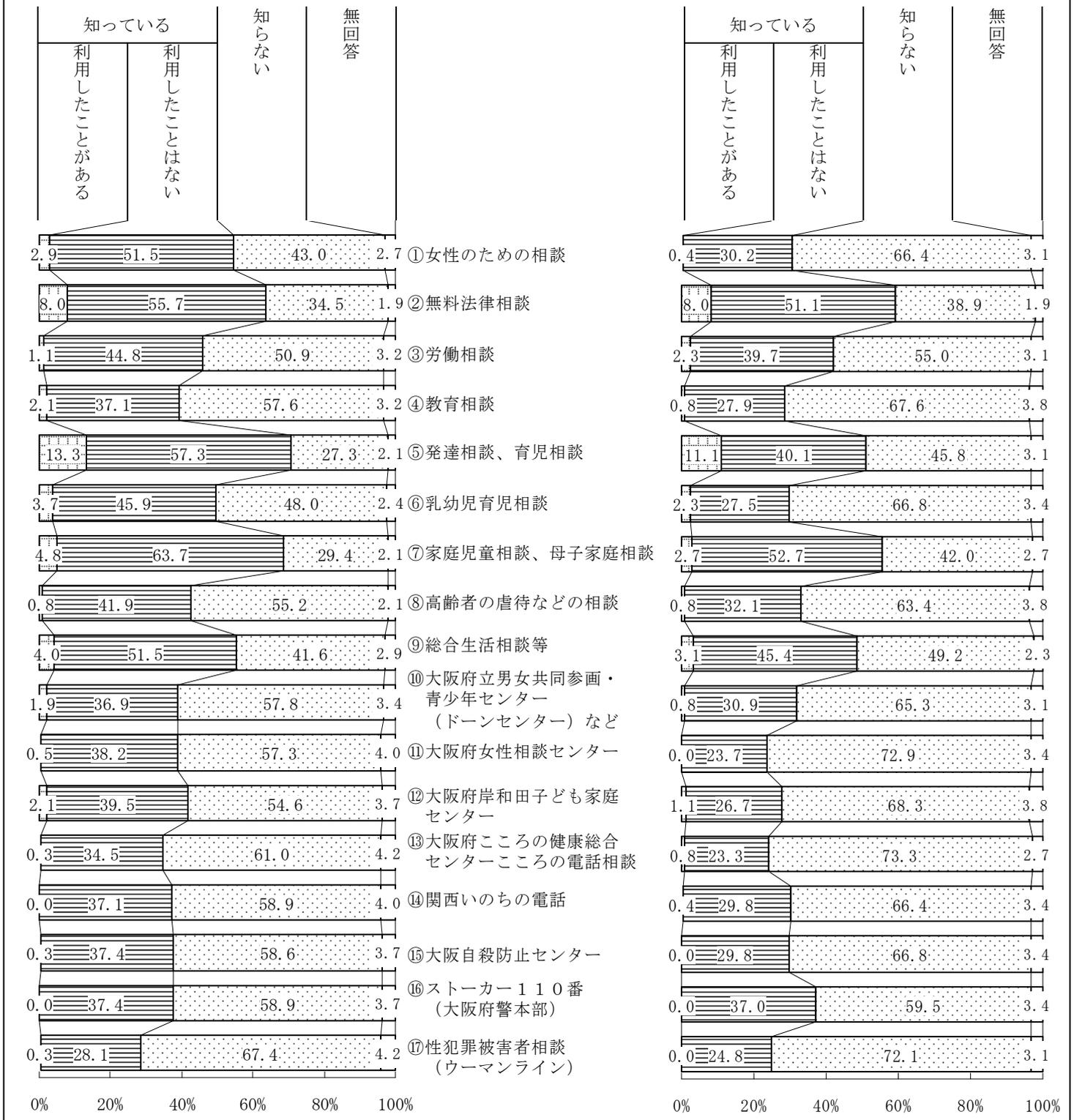
男性の場合は、30 歳代と 50 歳代では「誰もいない」が 1 割台となっている。

問 2 1 下欄の市や府の主な相談機関や相談窓口のうち、あなたが知っているものはどれですか。また、利用したことはありますか。(○はそれぞれに1つ)

図 6-5 公的な相談機関・窓口の認知度と利用状況

【女性】(N=377)

【男性】(N=262)



■ 「発達相談、育児相談」と「無料法律相談」が利用・認知ともに高い

男女ともに「利用したことがある」の割合が高いのは、「⑤発達相談、育児相談」(女性 13.3%、

男性 11.1%)、「②無料法律相談」(男女ともに 8.0%)、「⑦家庭児童相談、母子家庭相談」(女性 4.8%、男性 2.7%)であった。『知っている』(「利用したことがある」「利用したことはない」の合計)の割合は、前述の 3 項目の他、女性では「⑨総合生活相談等(就労支援や人権侵害など)」(55.5%)、「①女性のための相談」(54.4%)、「⑥乳幼児育児相談」(49.6%)の認知度が高く、男性では「⑨総合生活相談等」(48.5%)、「③労働相談」(42.0%)が高くなっている。また、すべての項目で男性の方が女性よりも「知らない」の割合が高い。「知らない」の割合が高い項目は、「⑬大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談」(女性 61.0%、男性 73.3%)、「⑰性犯罪被害者相談(ウーマンライン)」(女性 67.4%、男性 72.1%)。

【性・年代別】

「⑤発達相談、育児相談」は女性の 30～50 歳代と男性の 40～50 歳代で「利用したことがある」が 15%を超えている。

女性の場合は、20 歳代ではいずれの項目も「知らない」の割合が年代中最も高い。50 歳代では「⑧高齢者の虐待などの相談」で『知っている』が 56.7%と高い。

表6-5 性・年代別 公的な相談機関・窓口の認知度と利用状況

	全体	①女性のための相談			②無料法律相談			③労働相談			
		知っている		知らない	知っている		知らない	知っている		知らない	
		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	12 1.9	274 42.8	336 52.5	51 8.0	345 53.9	232 36.3	11 1.7	273 42.7	336 52.5
女性	20歳代	51 100.0	1 2.0	15 29.4	34 66.7	1 2.0	13 25.5	36 70.6	- -	13 25.5	37 72.5
	30歳代	83 100.0	1 1.2	41 49.4	39 47.0	4 4.8	39 47.0	38 45.8	1 1.2	32 38.6	48 57.8
	40歳代	97 100.0	3 3.1	54 55.7	37 38.1	7 7.2	61 62.9	28 28.9	1 1.0	52 53.6	41 42.3
	50歳代	104 100.0	4 3.8	62 59.6	35 33.7	12 11.5	69 66.3	22 21.2	1 1.0	54 51.9	46 44.2
	60歳代	40 100.0	2 5.0	21 52.5	16 40.0	6 15.0	27 67.5	5 12.5	1 2.5	17 42.5	19 47.5
男性	20歳代	34 100.0	- -	9 26.5	23 67.6	2 5.9	9 26.5	22 64.7	1 2.9	8 23.5	23 67.6
	30歳代	56 100.0	1 1.8	13 23.2	40 71.4	2 3.6	22 39.3	30 53.6	1 1.8	19 33.9	34 60.7
	40歳代	70 100.0	- -	23 32.9	44 62.9	5 7.1	42 60.0	22 31.4	1 1.4	32 45.7	35 50.0
	50歳代	65 100.0	- -	21 32.3	43 66.2	11 16.9	37 56.9	16 24.6	2 3.1	27 41.5	34 52.3
	60歳代	37 100.0	- -	13 35.1	24 64.9	1 2.7	24 64.9	12 32.4	1 2.7	18 48.6	18 48.6

	全体	④教育相談			⑤発達相談、育児相談			⑥乳幼児育児相談			
		知っている		知らない	知っている		知らない	知っている		知らない	
		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	10 1.6	214 33.4	394 61.6	79 12.3	322 50.3	223 34.8	20 3.1	246 38.4	356 55.6
女性	20歳代	51 100.0	1 2.0	10 19.6	39 76.5	2 3.9	18 35.3	30 58.8	3 5.9	11 21.6	36 70.6
	30歳代	83 100.0	1 1.2	25 30.1	54 65.1	15 18.1	44 53.0	22 26.5	7 8.4	41 49.4	35 42.2
	40歳代	97 100.0	3 3.1	44 45.4	47 48.5	16 16.5	59 60.8	20 20.6	3 3.1	45 46.4	46 47.4
	50歳代	104 100.0	2 1.9	45 43.3	53 51.0	16 15.4	65 62.5	21 20.2	- -	53 51.0	47 45.2
	60歳代	40 100.0	1 2.5	16 40.0	22 55.0	- -	29 72.5	10 25.0	1 2.5	22 55.0	16 40.0
男性	20歳代	34 100.0	- -	4 11.8	25 73.5	2 5.9	9 26.5	20 58.8	- -	7 20.6	24 70.6
	30歳代	56 100.0	- -	11 19.6	43 76.8	4 7.1	23 41.1	27 48.2	2 3.6	21 37.5	31 55.4
	40歳代	70 100.0	- -	23 32.9	45 64.3	11 15.7	29 41.4	28 40.0	3 4.3	17 24.3	47 67.1
	50歳代	65 100.0	1 1.5	20 30.8	43 66.2	10 15.4	27 41.5	27 41.5	- -	18 27.7	46 70.8
	60歳代	37 100.0	1 2.7	15 40.5	21 56.8	2 5.4	17 45.9	18 48.6	1 2.7	9 24.3	27 73.0

	全体	⑦家庭児童相談、母子家庭相談			⑧高齢者の虐待などの相談			⑨総合生活相談等			
		知っている		知らない	知っている		知らない	知っている		知らない	
		がある	利用したことはない		がある	利用したことはない		がある	利用したことはない		
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	25 3.9	379 59.2	221 34.5	5 0.8	243 38.0	374 58.4	23 3.6	314 49.1	286 44.7
女性	20歳代	51 100.0	1 2.0	17 33.3	32 62.7	- -	13 25.5	37 72.5	- -	13 25.5	36 70.6
	30歳代	83 100.0	3 3.6	54 65.1	24 28.9	- -	30 36.1	52 62.7	1 1.2	36 43.4	44 53.0
	40歳代	97 100.0	7 7.2	66 68.0	23 23.7	- -	43 44.3	51 52.6	5 5.2	51 52.6	39 40.2
	50歳代	104 100.0	6 5.8	73 70.2	22 21.2	3 2.9	56 53.8	43 41.3	7 6.7	70 67.3	26 25.0
	60歳代	40 100.0	1 2.5	29 72.5	9 22.5	- -	15 37.5	24 60.0	2 5.0	24 60.0	10 25.0
男性	20歳代	34 100.0	1 2.9	10 29.4	20 58.8	- -	6 17.6	25 73.5	- -	10 29.4	22 64.7
	30歳代	56 100.0	3 5.4	28 50.0	24 42.9	- -	18 32.1	36 64.3	2 3.6	21 37.5	31 55.4
	40歳代	70 100.0	3 4.3	38 54.3	27 38.6	- -	22 31.4	46 65.7	2 2.9	37 52.9	30 42.9
	50歳代	65 100.0	- -	40 61.5	24 36.9	2 3.1	26 40.0	36 55.4	2 3.1	29 44.6	33 50.8
	60歳代	37 100.0	- -	22 59.5	15 40.5	- -	12 32.4	23 62.2	2 5.4	22 59.5	13 35.1

	全体	⑩大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）サポート・カウンセリングルーム、女性の悩み電話相談			⑪大阪府女性相談センター			⑫大阪府岸和田子ども家庭センター			
		知っている		知らない	知っている		知らない	知っている		知らない	
		がある	利用したことはない		がある	利用したことはない		がある	利用したことはない		
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	9 1.4	221 34.5	389 60.8	2 0.3	207 32.3	407 63.6	11 1.7	220 34.4	385 60.2
女性	20歳代	51 100.0	- -	14 27.5	35 68.6	1 2.0	12 23.5	36 70.6	- -	13 25.5	36 70.6
	30歳代	83 100.0	- -	26 31.3	55 66.3	- -	29 34.9	52 62.7	- -	38 45.8	43 51.8
	40歳代	97 100.0	4 4.1	39 40.2	53 54.6	1 1.0	42 43.3	51 52.6	3 3.1	43 44.3	49 50.5
	50歳代	104 100.0	2 1.9	44 42.3	54 51.9	- -	46 44.2	54 51.9	4 3.8	40 38.5	56 53.8
	60歳代	40 100.0	1 2.5	16 40.0	19 47.5	- -	15 37.5	21 52.5	- -	15 37.5	21 52.5
男性	20歳代	34 100.0	1 2.9	7 20.6	23 67.6	- -	8 23.5	23 67.6	1 2.9	7 20.6	23 67.6
	30歳代	56 100.0	- -	15 26.8	39 69.6	- -	14 25.0	40 71.4	- -	13 23.2	41 73.2
	40歳代	70 100.0	- -	24 34.3	44 62.9	- -	17 24.3	51 72.9	1 1.4	18 25.7	48 68.6
	50歳代	65 100.0	- -	20 30.8	44 67.7	- -	15 23.1	49 75.4	1 1.5	22 33.8	41 63.1
	60歳代	37 100.0	1 2.7	15 40.5	21 56.8	- -	8 21.6	28 75.7	- -	10 27.0	26 70.3

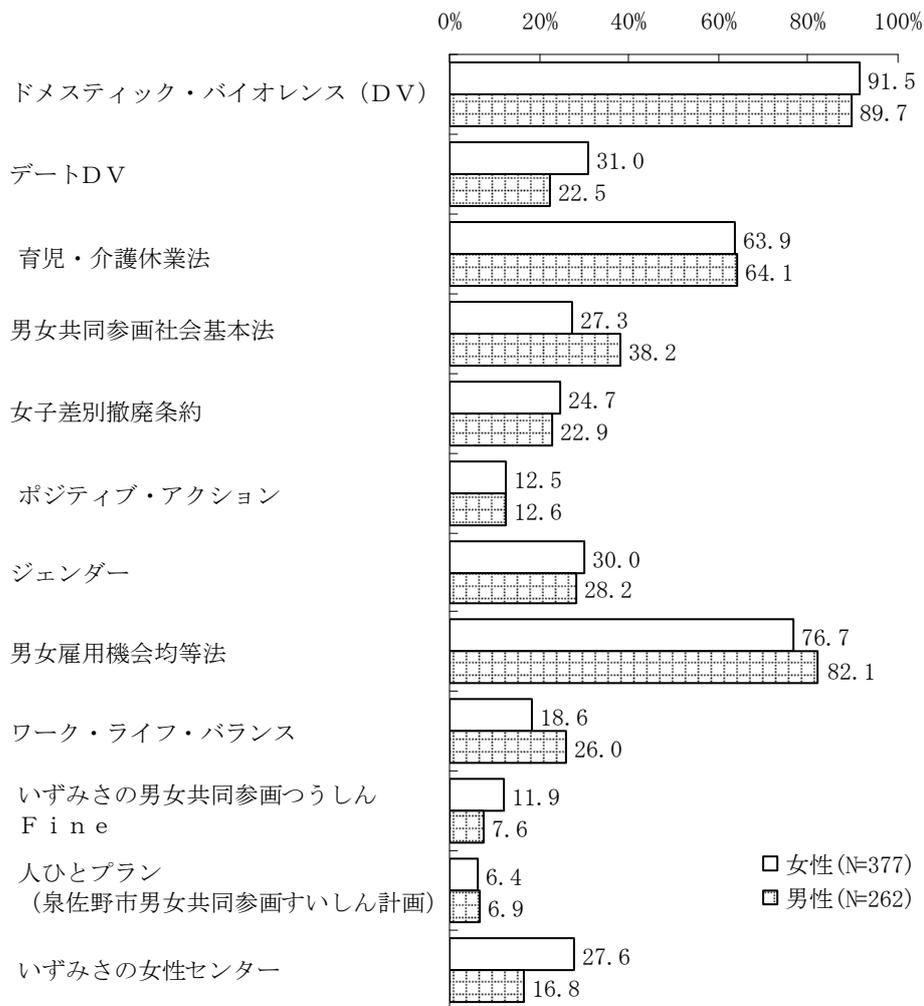
	全体	⑬大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談			⑭関西いのちの電話			⑮大阪自殺防止センター			
		知っている		知らない	知っている		知らない	知っている		知らない	
		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	3 0.5	192 30.0	422 65.9	1 0.2	219 34.2	396 61.9	1 0.2	220 34.4	396 61.9
女性	20歳代	51 100.0	1 2.0	11 21.6	37 72.5	- -	15 29.4	34 66.7	- -	13 25.5	36 70.6
	30歳代	83 100.0	- -	26 31.3	54 65.1	- -	29 34.9	52 62.7	- -	36 43.4	45 54.2
	40歳代	97 100.0	- -	37 38.1	57 58.8	- -	36 37.1	58 59.8	1 1.0	38 39.2	55 56.7
	50歳代	104 100.0	- -	40 38.5	60 57.7	- -	43 41.3	57 54.8	- -	37 35.6	63 60.6
	60歳代	40 100.0	- -	16 40.0	20 50.0	- -	17 42.5	19 47.5	- -	17 42.5	20 50.0
男性	20歳代	34 100.0	- -	8 23.5	23 67.6	1 2.9	10 29.4	20 58.8	- -	12 35.3	19 55.9
	30歳代	56 100.0	- -	14 25.0	40 71.4	- -	13 23.2	40 71.4	- -	16 28.6	37 66.1
	40歳代	70 100.0	1 1.4	16 22.9	52 74.3	- -	24 34.3	44 62.9	- -	18 25.7	50 71.4
	50歳代	65 100.0	- -	16 24.6	48 73.8	- -	21 32.3	43 66.2	- -	23 35.4	41 63.1
	60歳代	37 100.0	1 2.7	7 18.9	29 78.4	- -	10 27.0	27 73.0	- -	9 24.3	28 75.7

	全体	⑯ストーカー110番 (大阪府警本部)			⑰性犯罪被害者相談 (ウーマンライン)			
		知っている		知らない	知っている		知らない	
		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		がある 利用 したこと	はない 利用 したこと		
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	- -	239 37.3	378 59.1	1 0.2	172 26.9	443 69.2
女性	20歳代	51 100.0	- -	17 33.3	32 62.7	1 2.0	11 21.6	36 70.6
	30歳代	83 100.0	- -	33 39.8	48 57.8	- -	23 27.7	57 68.7
	40歳代	97 100.0	- -	34 35.1	60 61.9	- -	29 29.9	65 67.0
	50歳代	104 100.0	- -	39 37.5	61 58.7	- -	29 27.9	71 68.3
	60歳代	40 100.0	- -	18 45.0	19 47.5	- -	14 35.0	23 57.5
男性	20歳代	34 100.0	- -	10 29.4	21 61.8	- -	7 20.6	24 70.6
	30歳代	56 100.0	- -	19 33.9	35 62.5	- -	12 21.4	42 75.0
	40歳代	70 100.0	- -	23 32.9	45 64.3	- -	16 22.9	52 74.3
	50歳代	65 100.0	- -	29 44.6	35 53.8	- -	18 27.7	46 70.8
	60歳代	37 100.0	- -	16 43.2	20 54.1	- -	12 32.4	25 67.6

7. 男女共同参画の認知状況について

問22 あなたが、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

図7-1 男女共同参画に関する言葉の認知度



■ 「ドメスティック・バイオレンス」「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」が上位

男女とも「ドメスティック・バイオレンス (DV)」が最も高く、女性 91.5%、男性 89.7%である。次いで「男女雇用機会均等法」(女性 76.7%、男性 82.1%)、「育児・介護休業法」(女性 63.9%、男性 64.1%)の順となっている。「男女共同参画社会基本法」は男性 38.2%で女性よりも 10.9 ポイント高い。逆に「いずみさの女性センター」は女性 27.6%で男性より 10.8 ポイント高い。

表7-1 性・年代別 男女共同参画に関する言葉の認知度

		全体	ドメスティック・バイオレンス(DV)	デートDV	育児・介護休業法	男女共同参画社会基本法	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション	ジェンダー	男女雇用機会均等法	ワーク・ライフ・バランス	いずみさの男女共同参画つうしんFine	いずみさの女性センター	人ひとプラン(泉佐野市男女共同参画すいしん計画)	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	581 90.8	176 27.5	410 64.1	203 31.7	154 24.1	81 12.7	188 29.4	505 78.9	139 21.7	66 10.3	43 6.7	149 23.3	21 3.3
女性	20歳代	51 100.0	47 92.2	24 47.1	30 58.8	17 33.3	20 39.2	9 17.6	25 49.0	39 76.5	19 37.3	2 3.9	1 2.0	8 15.7	1 2.0
	30歳代	83 100.0	78 94.0	26 31.3	51 61.4	21 25.3	18 21.7	9 10.8	24 28.9	63 75.9	15 18.1	7 8.4	3 3.6	22 26.5	1 1.2
	40歳代	97 100.0	93 95.9	32 33.0	61 62.9	28 28.9	19 19.6	8 8.2	28 28.9	78 80.4	13 13.4	17 17.5	9 9.3	32 33.0	1 1.0
	50歳代	104 100.0	92 88.5	29 27.9	72 69.2	27 26.0	25 24.0	19 18.3	28 26.9	76 73.1	19 18.3	16 15.4	9 8.7	30 28.8	4 3.8
	60歳代	40 100.0	33 82.5	6 15.0	26 65.0	10 25.0	10 25.0	2 5.0	8 20.0	31 77.5	4 10.0	3 7.5	2 5.0	11 27.5	5 12.5
男性	20歳代	34 100.0	33 97.1	10 29.4	18 52.9	9 26.5	14 41.2	3 8.8	12 35.3	25 73.5	7 20.6	1 2.9	2 5.9	5 14.7	-
	30歳代	56 100.0	48 85.7	16 28.6	29 51.8	22 39.3	12 21.4	4 7.1	14 25.0	42 75.0	15 26.8	3 5.4	3 5.4	5 8.9	2 3.6
	40歳代	70 100.0	65 92.9	17 24.3	51 72.9	26 37.1	13 18.6	12 17.1	24 34.3	62 88.6	23 32.9	8 11.4	7 10.0	14 20.0	1 1.4
	50歳代	65 100.0	59 90.8	10 15.4	44 67.7	28 43.1	14 21.5	9 13.8	17 26.2	58 89.2	16 24.6	3 4.6	4 6.2	11 16.9	4 6.2
	60歳代	37 100.0	30 81.1	6 16.2	26 70.3	15 40.5	7 18.9	5 13.5	7 18.9	28 75.7	7 18.9	5 13.5	2 5.4	9 24.3	2 5.4

女性の20歳代は「デートDV」「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」「ジェンダー」「男女雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」の割合が他の年代より高いが、「いずみさの女性センター」は15.7%と年代中最も低い。

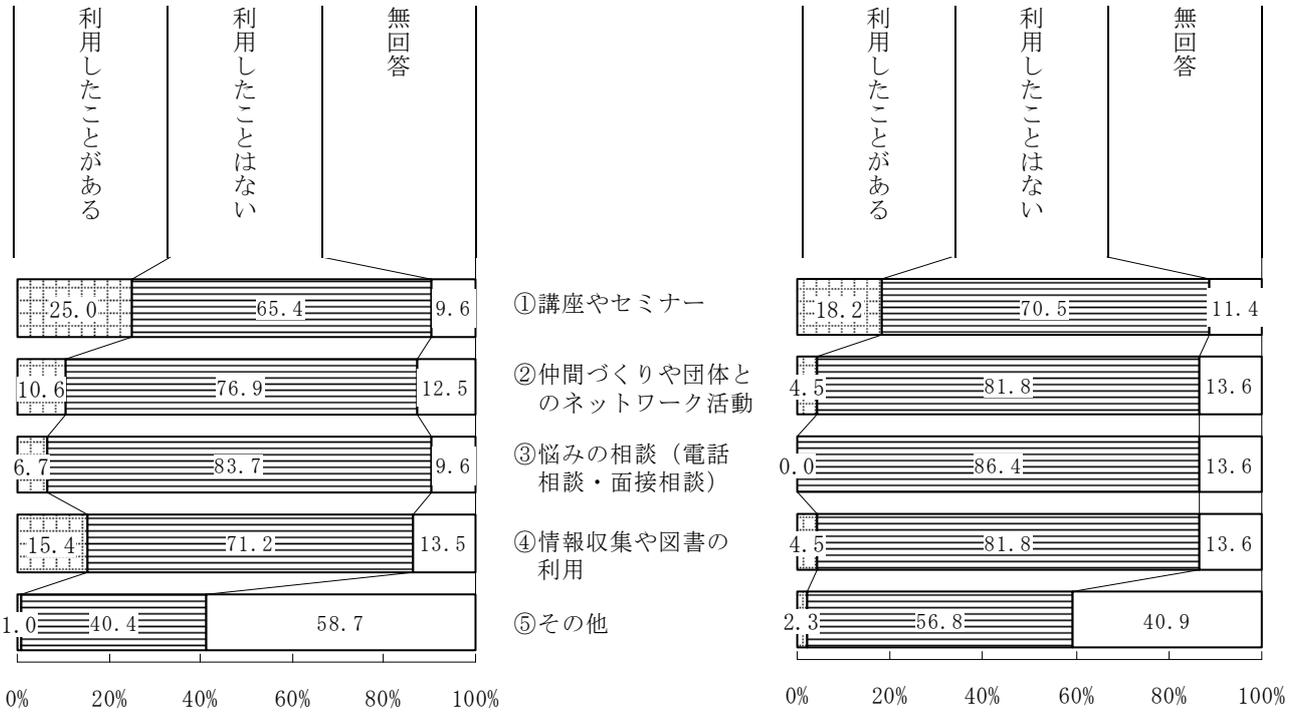
【問22で「12. いずみさの女性センター」に○をつけられた方におたずねします】

問23 センターのどんな事業を知っていますか。また、利用したことがありますか。
(○はそれぞれ1つ)

図7-2 いずみさの女性センターの利用状況

【女性】(N=104)

【男性】(N=44)



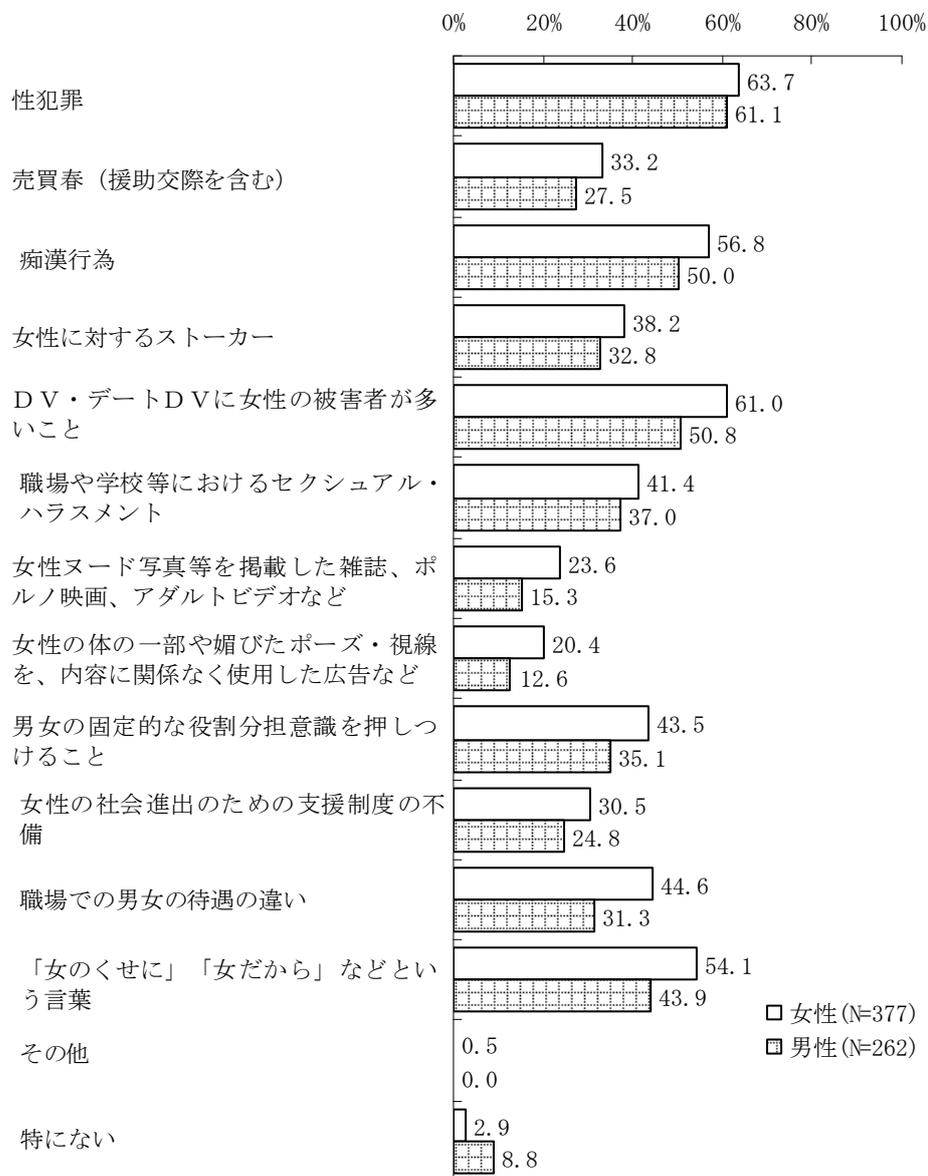
■講座やセミナーの利用が最も多い

男女とも「利用したことがある」の割合が最も高いのは「①講座やセミナー」で女性25.0%、男性18.2%である。次いで、女性は「④情報収集や図書の利用」が15.4%、「②仲間づくりや団体とのネットワーク活動」が10.6%となっている。

8. 人権の尊重について

問24 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。
(〇はいくつでも)

図8-1 女性の人権が尊重されていないと感じること



■男女とも「性犯罪」が女性の人権が尊重されていないことのトップ

女性の人権が尊重されていないと感じる割合が高かったものは、男女とも「性犯罪」（女性 63.7%、男性 61.1%）、「DV・デートDVに女性の被害者が多いこと」（女性 61.0%、男性 50.8%）、「痴漢行為」（女性 56.8%、男性 50.0%）であり、犯罪に関わる項目が上位に挙げられている。また、すべての項目において、男性の回答割合は女性より低くなっている。特に「DV・デートDVに女性の被害者が多いこと」「職場での男女の待遇の違い」「『女のくせに』『女だから』などという言葉」は女性の方が10ポイント以上高い。

表8-1 性・年代別 女性の人権が尊重されていないと感じること

		全体	性犯罪	売買春 (援助交際を含む)	痴漢行為	女性に対するストーカー	DV(配偶者やパートナーからの暴力)・デートDV(交際相手からの暴力)に女性の被害者が多いこと	職場や学校等におけるセクシユアル・ハラスメント	雑誌、ポルノ映画、アダルトビデオなど	女性ヌード写真等を掲載した	女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	401 62.7	198 30.9	346 54.1	230 35.9	364 56.9	254 39.7	130 20.3	111 17.3	
女性	20歳代	51 100.0	36 70.6	19 37.3	39 76.5	25 49.0	33 64.7	25 49.0	12 23.5	11 21.6	
	30歳代	83 100.0	52 62.7	20 24.1	49 59.0	25 30.1	47 56.6	41 49.4	12 14.5	13 15.7	
	40歳代	97 100.0	60 61.9	33 34.0	55 56.7	32 33.0	62 63.9	35 36.1	20 20.6	18 18.6	
	50歳代	104 100.0	70 67.3	38 36.5	51 49.0	46 44.2	66 63.5	41 39.4	32 30.8	23 22.1	
	60歳代	40 100.0	21 52.5	15 37.5	20 50.0	16 40.0	21 52.5	14 35.0	13 32.5	12 30.0	
男性	20歳代	34 100.0	22 64.7	11 32.4	18 52.9	14 41.2	18 52.9	19 55.9	10 29.4	8 23.5	
	30歳代	56 100.0	38 67.9	16 28.6	30 53.6	14 25.0	27 48.2	21 37.5	4 7.1	4 7.1	
	40歳代	70 100.0	37 52.9	17 24.3	28 40.0	22 31.4	33 47.1	23 32.9	8 11.4	6 8.6	
	50歳代	65 100.0	39 60.0	20 30.8	32 49.2	21 32.3	33 50.8	23 35.4	12 18.5	10 15.4	
	60歳代	37 100.0	24 64.9	8 21.6	23 62.2	15 40.5	22 59.5	11 29.7	6 16.2	5 13.5	

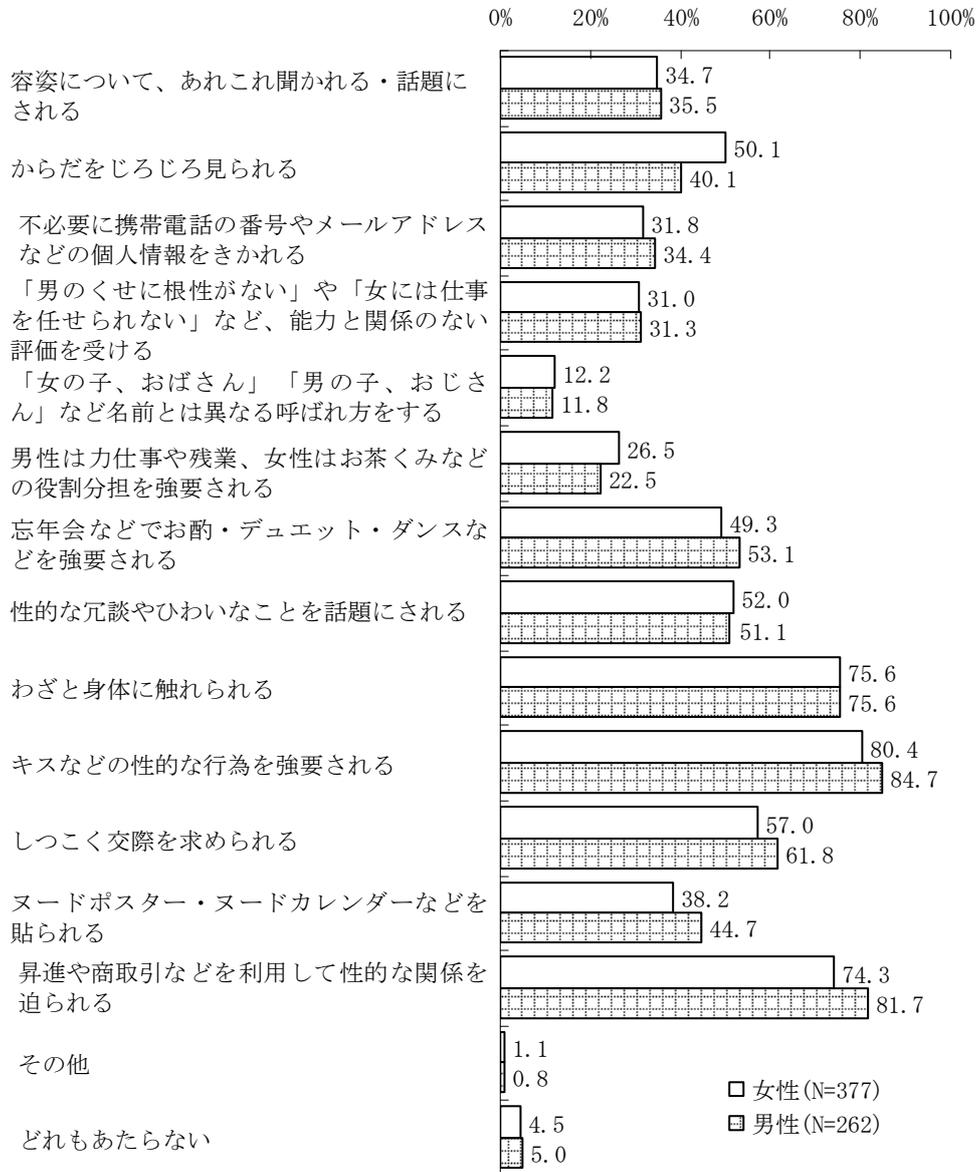
		全体	男女の固定的な役割分担意識を押しつけること	女性の社会的進出のための支援制度の不備	職場での男女の待遇の違い	「女のくせに」「女だから」などという言葉	その他	特にない	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	257 40.2	181 28.3	251 39.2	320 50.0	2 0.3	34 5.3	17 2.7
女性	20歳代	51 100.0	23 45.1	20 39.2	27 52.9	32 62.7	-	-	-
	30歳代	83 100.0	40 48.2	26 31.3	35 42.2	50 60.2	-	1 1.2	-
	40歳代	97 100.0	38 39.2	28 28.9	41 42.3	47 48.5	1 1.0	3 3.1	3 3.1
	50歳代	104 100.0	44 42.3	28 26.9	48 46.2	53 51.0	1 1.0	4 3.8	3 2.9
	60歳代	40 100.0	19 47.5	13 32.5	17 42.5	21 52.5	-	3 7.5	4 10.0
男性	20歳代	34 100.0	9 26.5	11 32.4	11 32.4	19 55.9	-	4 11.8	1 2.9
	30歳代	56 100.0	24 42.9	9 16.1	15 26.8	23 41.1	-	6 10.7	1 1.8
	40歳代	70 100.0	19 27.1	16 22.9	22 31.4	26 37.1	-	8 11.4	2 2.9
	50歳代	65 100.0	32 49.2	21 32.3	21 32.3	33 50.8	-	4 6.2	1 1.5
	60歳代	37 100.0	8 21.6	8 21.6	13 35.1	14 37.8	-	1 2.7	2 5.4

女性の20歳代で「痴漢行為」が76.5%と高いが、男性の40歳代では40.0%と認識が薄い。また、女性の20歳代では「職場での男女の待遇の違い」が52.9%と年代中最も高い。

男性の場合は、20~40歳代では「特にない」が1割を超えている。

問25 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメントにあたると思いますか。また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。(〇はいくつでも)

図8-2 セクシュアル・ハラスメントにあたると思うこと



■「キスなどの性的な行為を強要される」の割合が最も高い

男女ともに「キスなどの性的な行為を強要される」が女性80.4%、男性84.7%で最も高い。次いで、女性は「わざと身体に触れられる」が75.6%、男性は「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」が81.7%で続いている。「からだをじろじろ見られる」は女性50.1%、男性40.1%で女性の方が10ポイント高くなっている。

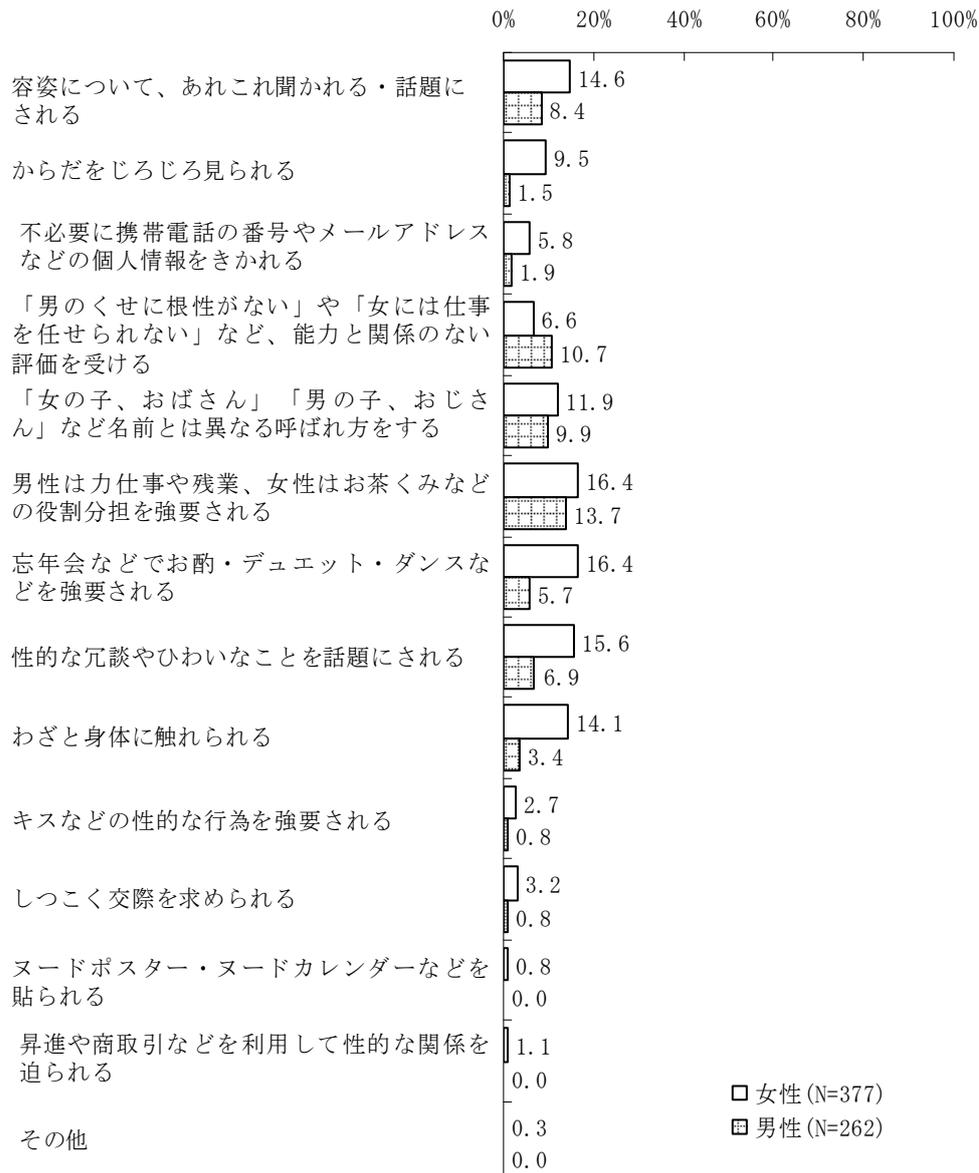
表8-2 性・年代別 セクシュアル・ハラスメントにあたると思うこと

	全体	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	からだをじろじろ見られる	不必要に携帯電話の番号やメールアドレスなどの個人情報を書かれる	「男のくせに根性がない」や「女には仕事を任せられない」など能力と関係のない評価を受ける	「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする	男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される	忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	225 35.2	295 46.1	211 33.0	200 31.3	160 25.0	326 50.9	331 51.7
女性	20歳代	51 100.0	17 33.3	31 60.8	17 33.3	19 37.3	6 11.8	27 52.9	34 66.7
	30歳代	83 100.0	28 33.7	40 48.2	36 43.4	25 30.1	3 3.6	41 49.4	40 48.2
	40歳代	97 100.0	37 38.1	57 58.8	28 28.9	32 33.0	15 15.5	52 53.6	51 52.6
	50歳代	104 100.0	37 35.6	43 41.3	29 27.9	30 28.8	14 13.5	45 43.3	50 48.1
	60歳代	40 100.0	10 25.0	16 40.0	9 22.5	9 22.5	7 17.5	19 47.5	20 50.0
男性	20歳代	34 100.0	11 32.4	15 44.1	10 29.4	11 32.4	5 14.7	13 38.2	16 47.1
	30歳代	56 100.0	19 33.9	22 39.3	23 41.1	14 25.0	7 12.5	32 57.1	33 58.9
	40歳代	70 100.0	26 37.1	25 35.7	28 40.0	22 31.4	7 10.0	35 50.0	34 48.6
	50歳代	65 100.0	27 41.5	30 46.2	21 32.3	26 40.0	10 15.4	38 58.5	34 52.3
	60歳代	37 100.0	10 27.0	13 35.1	8 21.6	9 24.3	2 5.4	21 56.8	17 45.9

	全体	わざと身体に触れられる	キスなどの性的な行為を強要される	しつこく交際を求められる	ヌードポスター・ヌードカレンダーなどを貼られる	昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	その他	どれもあたらない	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	484 75.6	526 82.2	378 59.1	495 77.3	6 0.9	30 4.7	37 5.8
女性	20歳代	51 100.0	44 86.3	46 90.2	27 52.9	41 80.4	1 2.0	-	1 2.0
	30歳代	83 100.0	62 74.7	70 84.3	54 65.1	65 78.3	-	5 6.0	4 4.8
	40歳代	97 100.0	76 78.4	78 80.4	59 60.8	77 79.4	2 2.1	3 3.1	8 8.2
	50歳代	104 100.0	77 74.0	82 78.8	57 54.8	73 70.2	1 1.0	4 3.8	10 9.6
	60歳代	40 100.0	25 62.5	26 65.0	17 42.5	23 57.5	-	5 12.5	5 12.5
男性	20歳代	34 100.0	23 67.6	24 70.6	18 52.9	22 64.7	-	4 11.8	4 11.8
	30歳代	56 100.0	44 78.6	52 92.9	36 64.3	47 83.9	1 1.8	3 5.4	1 1.8
	40歳代	70 100.0	52 74.3	62 88.6	40 57.1	62 88.6	-	1 1.4	-
	50歳代	65 100.0	54 83.1	56 86.2	47 72.3	54 83.1	1 1.5	4 6.2	1 1.5
	60歳代	37 100.0	25 67.6	28 75.7	21 56.8	29 78.4	-	1 2.7	3 8.1

女性の場合は20歳代で「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「からだをじろじろ見られる」が6割を超えている。男性の50歳代では「しつこく交際を求められる」が72.3%と高い。女性の60歳代と男性の20歳代では「どれもあたらない」が1割を超えている。

図8-3 職場で受けたセクシュアル・ハラスメントの内容



■職場では「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」がトップ

女性は「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」と「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が同率の16.4%で最も高く、次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」(15.6%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(14.6%)が続く。男性は「男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される」が13.7%で最も高く、次いで『男のくせに根性がない』や『女には仕事を任せられない』など、能力と関係のない評価を受ける」が10.7%と続く。

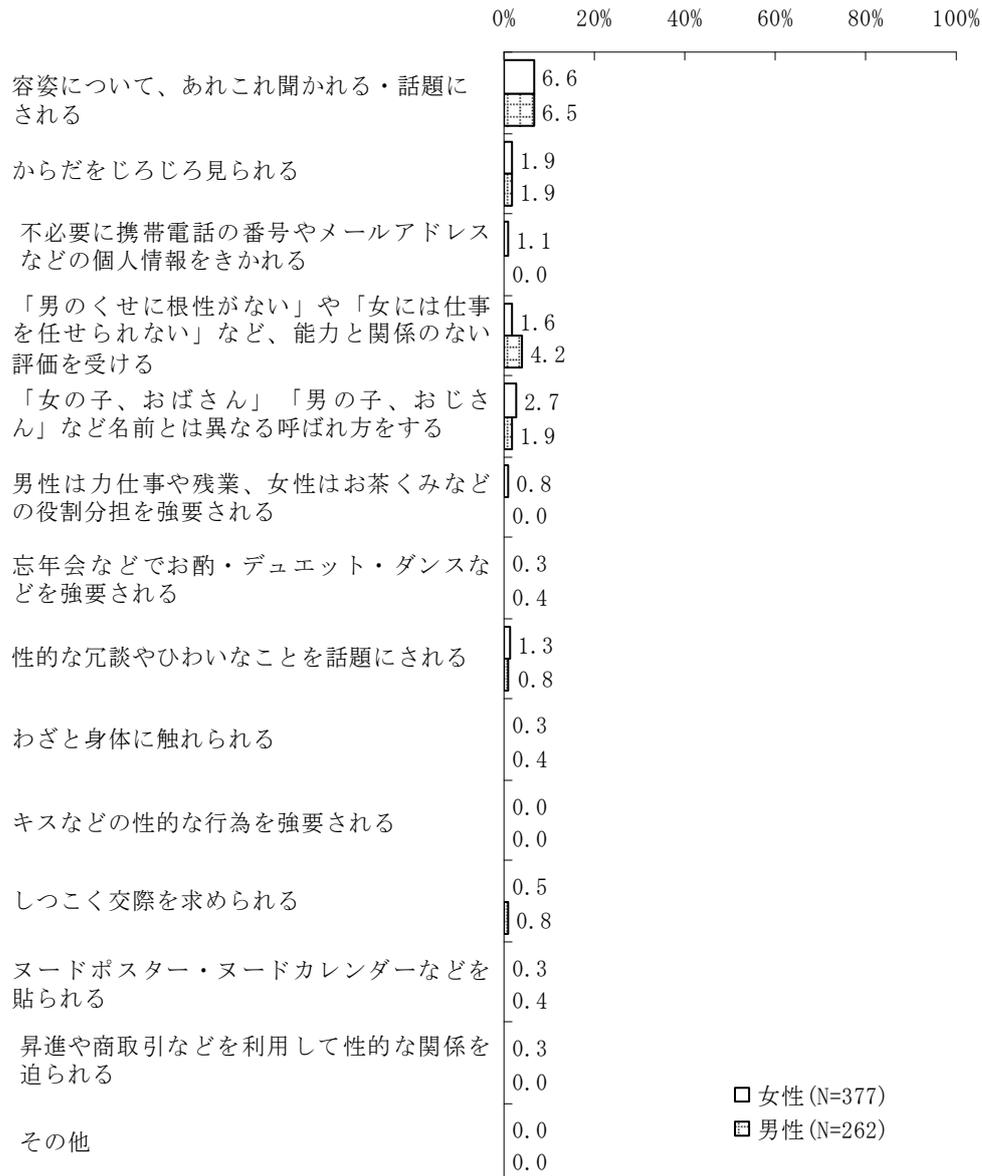
表 8-3 性・年代別 職場で受けたセクシュアル・ハラスメントの内容

	全体	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	からだをじろじろ見られる	不必要に携帯電話の番号やメールアドレスなどの個人情報を書かれる	「男のくせに根性がない」や「女には仕事を任せられない」など能力と関係のない評価を受ける	「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする	男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される	忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	77 12.0	40 6.3	27 4.2	53 8.3	71 11.1	98 15.3	77 12.0	77 12.0
女性	20 歳代	51 100.0	8 15.7	4 7.8	2 3.9	4 7.8	6 11.8	8 15.7	5 9.8	5 9.8
	30 歳代	83 100.0	21 25.3	8 9.6	10 12.0	7 8.4	10 12.0	16 19.3	15 18.1	17 20.5
	40 歳代	97 100.0	12 12.4	8 8.2	6 6.2	8 8.2	11 11.3	20 20.6	25 25.8	17 17.5
	50 歳代	104 100.0	6 5.8	11 10.6	2 1.9	4 3.8	8 7.7	11 10.6	10 9.6	16 15.4
	60 歳代	40 100.0	6 15.0	4 10.0	1 2.5	1 2.5	9 22.5	6 15.0	6 15.0	3 7.5
男性	20 歳代	34 100.0	4 11.8	1 2.9	- -	4 11.8	5 14.7	4 11.8	1 2.9	4 11.8
	30 歳代	56 100.0	5 8.9	2 3.6	1 1.8	7 12.5	5 8.9	10 17.9	4 7.1	3 5.4
	40 歳代	70 100.0	7 10.0	1 1.4	3 4.3	9 12.9	8 11.4	10 14.3	5 7.1	5 7.1
	50 歳代	65 100.0	5 7.7	- -	- -	5 7.7	8 12.3	11 16.9	5 7.7	4 6.2
	60 歳代	37 100.0	1 2.7	- -	1 2.7	3 8.1	- -	1 2.7	- -	2 5.4

	全体	わざと身体に触られる	キスなどの性的な行為を強要される	しつこく交際を求められる	スードボスター・ヌードカレンダーなどを貼られる	昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	62 9.7	12 1.9	14 2.2	3 0.5	4 0.6	412 64.4
女性	20 歳代	51 100.0	8 15.7	1 2.0	1 2.0	- -	- -	29 56.9
	30 歳代	83 100.0	16 19.3	1 1.2	3 3.6	- -	- -	39 47.0
	40 歳代	97 100.0	13 13.4	2 2.1	1 1.0	2 2.1	1 1.0	51 52.6
	50 歳代	104 100.0	13 12.5	5 4.8	5 4.8	- -	2 1.9	69 66.3
	60 歳代	40 100.0	2 5.0	- -	1 2.5	- -	- -	27 67.5
男性	20 歳代	34 100.0	1 2.9	- -	- -	- -	- -	25 73.5
	30 歳代	56 100.0	2 3.6	- -	- -	- -	- -	42 75.0
	40 歳代	70 100.0	3 4.3	1 1.4	2 2.9	- -	- -	47 67.1
	50 歳代	65 100.0	3 4.6	1 1.5	- -	- -	- -	49 75.4
	60 歳代	37 100.0	- 51	- 8	- 1	- 1	- -	- -

女性の場合は、30歳代では「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が25.3%、女性の60歳代では「『女の子、おばさん』『男の子、おじさん』など名前とは異なる呼ばれ方をする」が22.5%と高い。

図8-4 学校で受けたセクシュアル・ハラスメントの内容



■学校では「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」

男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も高く、女性 6.6%、男性 6.5% である。

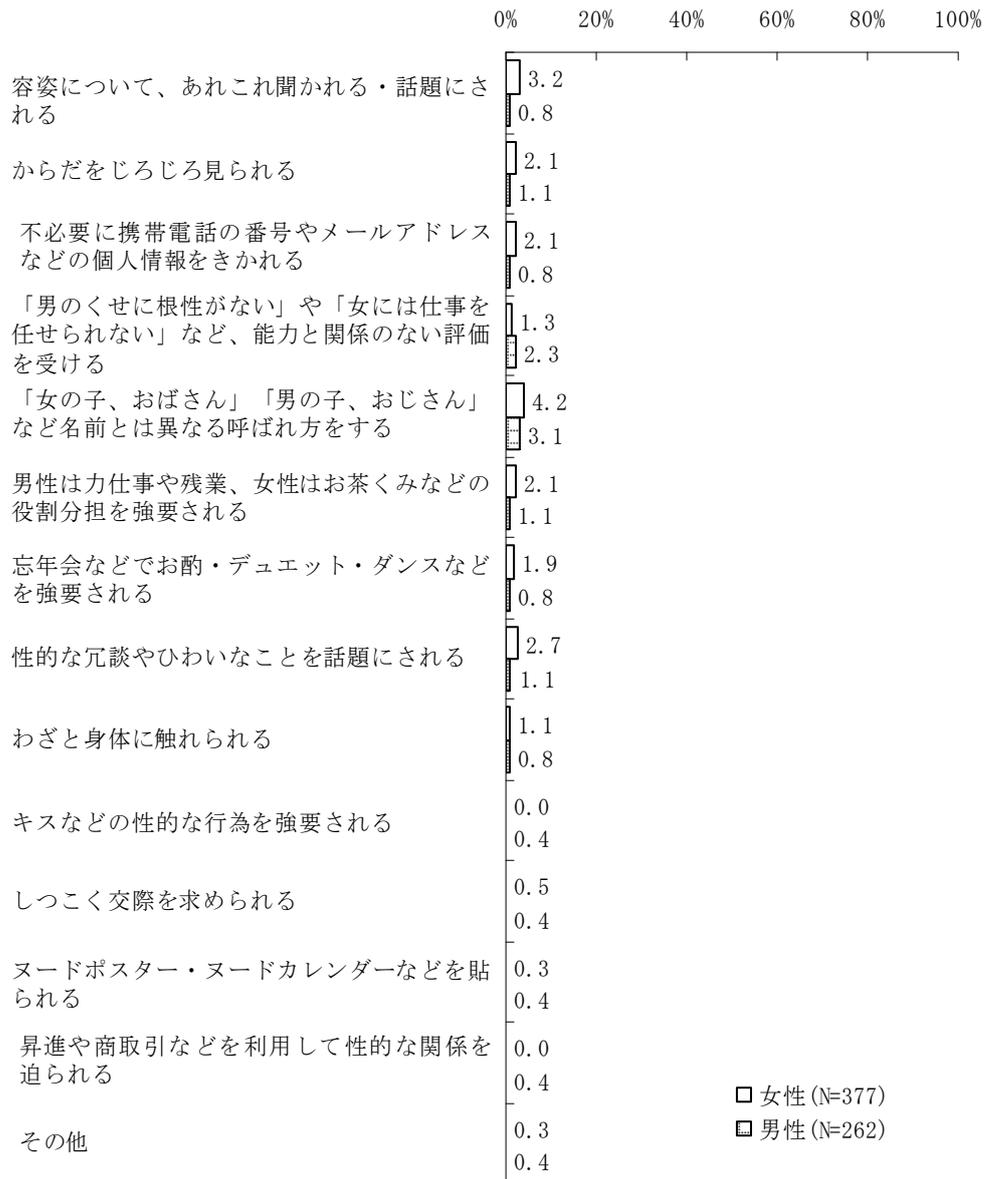
表 8-4 性・年代別 職場で受けたセクシュアル・ハラスメントの内容

		全体	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	からだをじろじろ見られる	不必要に携帯電話の番号やメールアドレスなどの個人情報を書かれる	「男のくせに根性がない」や「女には仕事を任せられない」など能力と関係のない評価を受ける	「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする	「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする	男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される	忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	42 6.6	12 1.9	4 0.6	17 2.7	15 2.3	3 0.5	2 0.3	7 1.1	
女性	20 歳代	51 100.0	11 21.6	2 3.9	3 5.9	1 2.0	3 5.9	1 2.0	1 2.0	5 9.8	
	30 歳代	83 100.0	5 6.0	2 2.4	-	1 1.2	1 1.2	-	-	-	
	40 歳代	97 100.0	6 6.2	2 2.1	1 1.0	4 4.1	4 4.1	2 2.1	-	-	
	50 歳代	104 100.0	2 1.9	1 1.0	-	-	2 1.9	-	-	-	
	60 歳代	40 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性	20 歳代	34 100.0	5 14.7	2 5.9	-	2 5.9	2 5.9	-	-	-	
	30 歳代	56 100.0	5 8.9	2 3.6	-	2 3.6	-	-	-	-	
	40 歳代	70 100.0	2 2.9	-	-	4 5.7	3 4.3	-	-	-	
	50 歳代	65 100.0	4 6.2	1 1.5	-	1 1.5	-	-	-	-	
	60 歳代	37 100.0	1 2.7	-	-	2 5.4	-	-	1 2.7	2 5.4	

		全体	わざと身体に触られる	キスなどの性的な行為を強要される	しつこく交際を求められる	スードボスター・ヌードカレンダーなどを貼られる	昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	2 0.3	-	4 0.6	2 0.3	1 0.2	-	568 88.8
女性	20 歳代	51 100.0	1 2.0	-	1 2.0	1 2.0	-	-	35 68.6
	30 歳代	83 100.0	-	-	-	-	1 1.2	-	75 90.4
	40 歳代	97 100.0	-	-	-	-	-	-	86 88.7
	50 歳代	104 100.0	-	-	1 1.0	-	-	-	98 94.2
	60 歳代	40 100.0	-	-	-	-	-	-	40 100.0
男性	20 歳代	34 100.0	1 2.9	-	-	-	-	-	27 79.4
	30 歳代	56 100.0	-	-	2 3.6	1 1.8	-	-	46 82.1
	40 歳代	70 100.0	-	-	-	-	-	-	63 90.0
	50 歳代	65 100.0	-	-	-	-	-	-	61 93.8
	60 歳代	37 100.0	-	-	-	-	-	-	35 94.6

年代別にみると、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」では、女性の20歳代で21.6%、男性の20歳代で14.7%となっており、他の年代より高い。

図 8-5 地域活動のなかで受けたセクシュアル・ハラスメントの内容



■地域活動等のなかでは「『女の子、おばさん』『男の子、おじさん』など名前とは異なる呼ばれ方をする」

男女とも「『女の子、おばさん』『男の子、おじさん』など名前とは異なる呼ばれ方をする」が最も高く、女性 4.2%、男性 3.1%である。

表8-5 性・年代別 地域活動のなかで受けたセクシュアル・ハラスメントの内容

		全体	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	からだをじろじろ見られる	不必要に携帯電話の番号やメールアドレスなどの個人情報を書かれる	「男のくせに根性がない」や「女には仕事を任せられない」など能力と関係のない評価を受ける	「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする	「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする	男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される	忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	14 2.2	11 1.7	10 1.6	11 1.7	24 3.8	11 1.7	10 1.6	13 2.0	
女性	20歳代	51 100.0	2 3.9	2 3.9	2 3.9	-	1 2.0	1 2.0	-	1 2.0	
	30歳代	83 100.0	1 1.2	1 1.2	1 1.2	-	5 6.0	1 1.2	1 1.2	-	
	40歳代	97 100.0	4 4.1	1 1.0	3 3.1	3 3.1	5 5.2	3 3.1	3 3.1	2 2.1	
	50歳代	104 100.0	5 4.8	3 2.9	2 1.9	-	4 3.8	1 1.0	3 2.9	6 5.8	
	60歳代	40 100.0	-	1 2.5	-	2 5.0	1 2.5	2 5.0	-	1 2.5	
	男性	20歳代	34 100.0	-	1 2.9	1 2.9	-	1 2.9	-	-	1 2.9
30歳代	56 100.0	-	1 1.8	-	2 3.6	2 3.6	-	1 1.8	-		
40歳代	70 100.0	-	-	-	3 4.3	3 4.3	2 2.9	-	1 1.4		
50歳代	65 100.0	1 1.5	-	-	-	1 1.5	-	-	-		
60歳代	37 100.0	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7		

		全体	わざと身体に触られる	キスなどの性的な行為を強要される	しつこく交際を求められる	スードボスター・ヌードカレンダーなどを貼られる	昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	6 0.9	1 0.2	3 0.5	2 0.3	1 0.2	2 0.3	585 91.4
女性	20歳代	51 100.0	1 2.0	-	1 2.0	-	-	-	47 92.2
	30歳代	83 100.0	-	-	-	-	-	-	77 92.8
	40歳代	97 100.0	-	-	1 1.0	1 1.0	-	-	88 90.7
	50歳代	104 100.0	3 2.9	-	-	-	-	1 1.0	86 82.7
	60歳代	40 100.0	-	-	-	-	-	-	36 90.0
	男性	20歳代	34 100.0	-	-	-	-	-	-
30歳代	56 100.0	-	-	-	-	-	-	-	52 92.9
40歳代	70 100.0	1 1.4	-	-	-	-	-	-	66 94.3
50歳代	65 100.0	-	-	-	-	-	-	-	63 96.9
60歳代	37 100.0	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	36 97.3

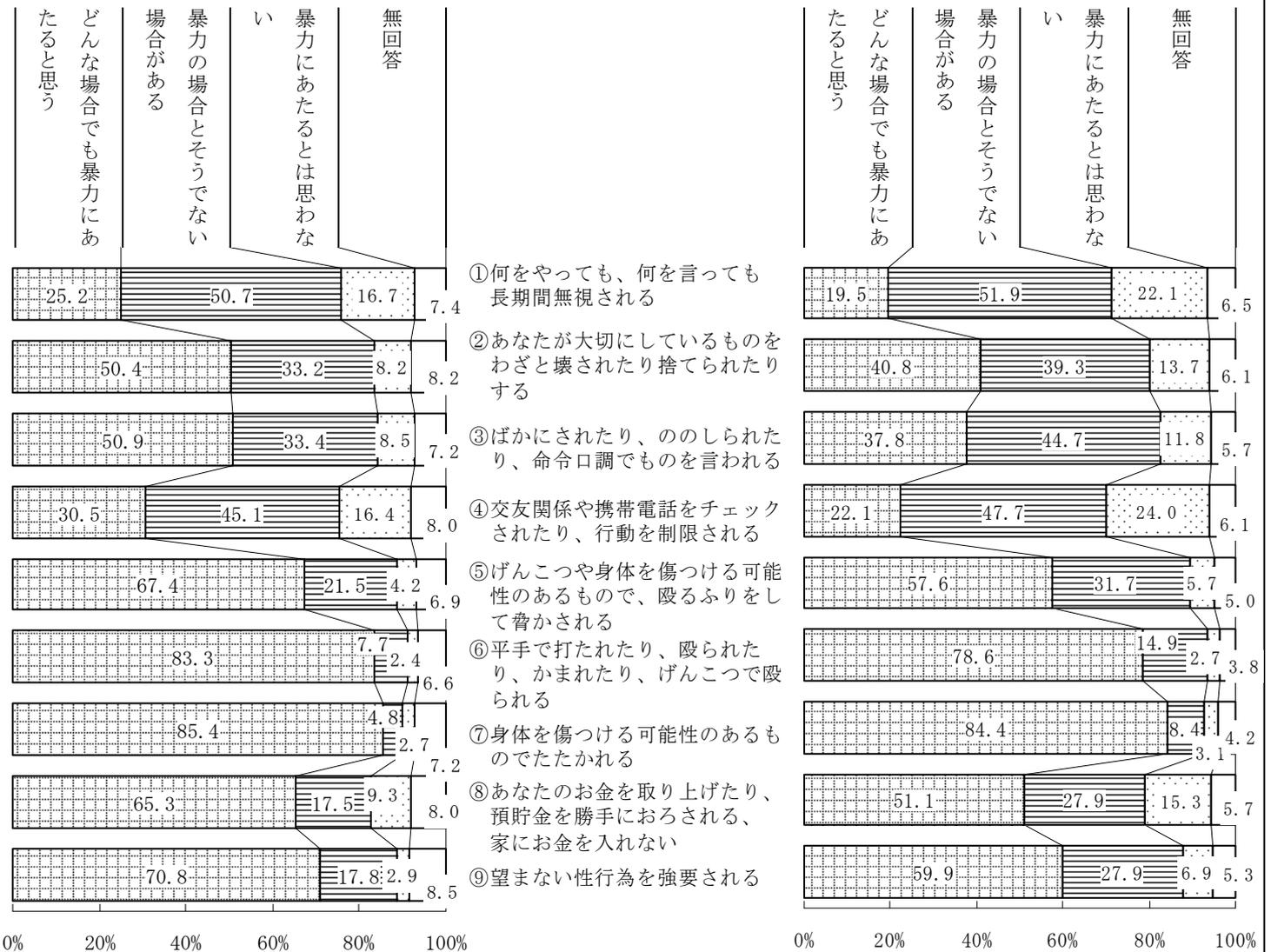
性・年代別では大きな差はみられない。

問26 あなたは、配偶者やパートナーから次の行為をされることは、「暴力」にあたると思いますか。また、結婚している・したことがある方は、実際にされた経験はありますか。
(○は各項目それぞれに1つ)

図8-6 「暴力」にあたると思う行為

【女性】(N=377)

【男性】(N=262)



■身体的な暴力については男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が約8割

男女とも「⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が女性85.4%、男性84.4%で最も高く、次いで「⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる」が女性83.3%、男性78.6%である。すべての項目において女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男性よりも高い。逆に男性は「④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される」で「暴力にあたるとは思わない」が24.0%と高い。

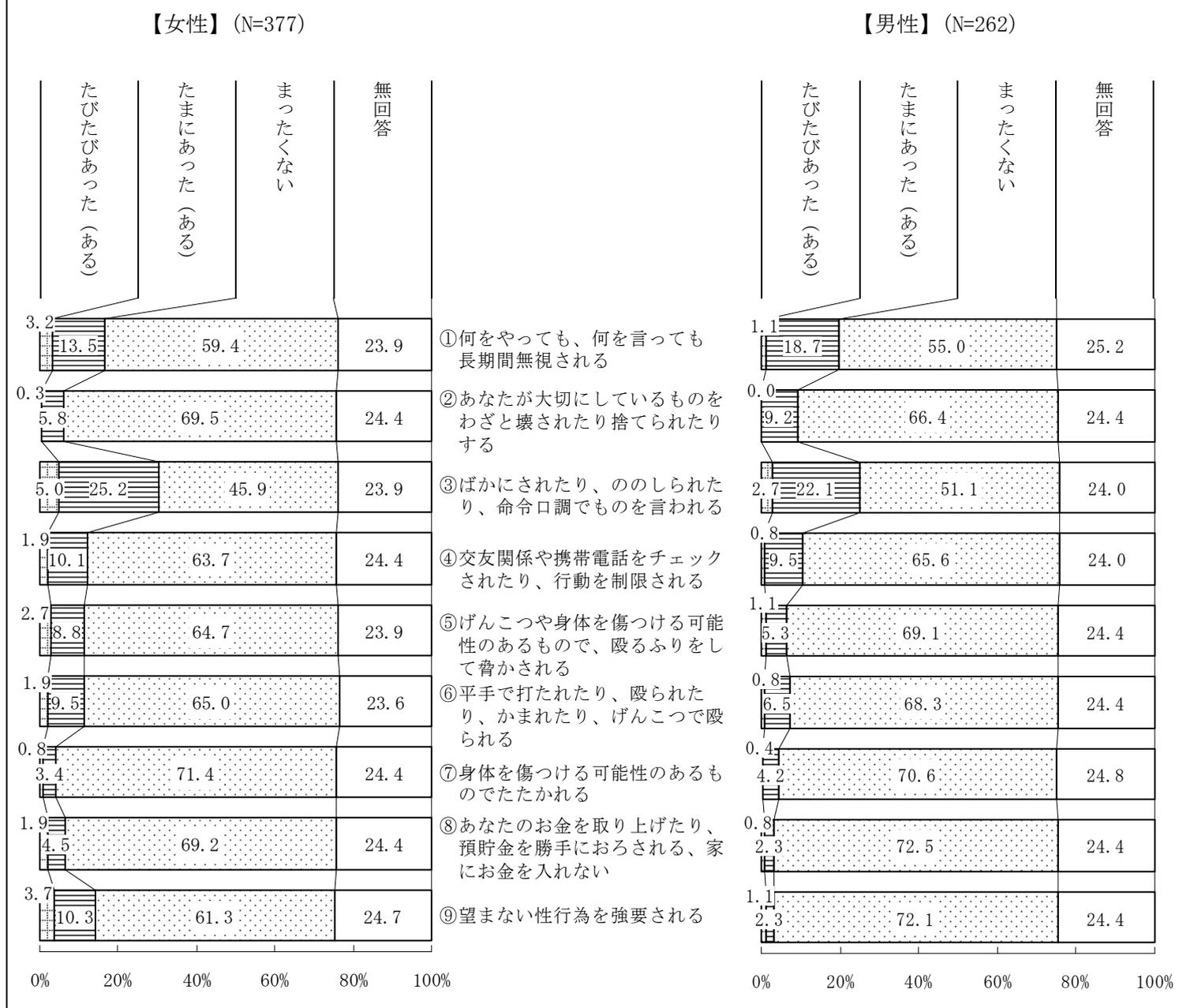
表8-6 性・年代別 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答者の割合

		全体	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	⑦身体を傷つける可能性のあるものでたかれる	⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	⑨望まない性行為を強要される
全体	上段/実数	640	147	298	292	174	406	521	544	381	425
	下段/%	100.0	23.0	46.6	45.6	27.2	63.4	81.4	85.0	59.5	66.4
女性	20歳代	51	11	30	27	18	40	45	48	43	38
		100.0	21.6	58.8	52.9	35.3	78.4	88.2	94.1	84.3	74.5
	30歳代	83	14	36	44	17	59	73	74	56	59
		100.0	16.9	43.4	53.0	20.5	71.1	88.0	89.2	67.5	71.1
	40歳代	97	26	49	54	32	67	86	84	61	72
	100.0	26.8	50.5	55.7	33.0	69.1	88.7	86.6	62.9	74.2	
50歳代	104	32	53	52	34	61	77	84	64	72	
	100.0	30.8	51.0	50.0	32.7	58.7	74.0	80.8	61.5	69.2	
60歳代	40	12	22	15	14	26	32	31	21	26	
	100.0	30.0	55.0	37.5	35.0	65.0	80.0	77.5	52.5	65.0	
男性	20歳代	34	3	12	13	8	21	30	30	18	22
		100.0	8.8	35.3	38.2	23.5	61.8	88.2	88.2	52.9	64.7
	30歳代	56	10	25	19	13	34	41	47	25	35
		100.0	17.9	44.6	33.9	23.2	60.7	73.2	83.9	44.6	62.5
	40歳代	70	11	32	24	16	39	54	59	39	40
	100.0	15.7	45.7	34.3	22.9	55.7	77.1	84.3	55.7	57.1	
50歳代	65	22	31	33	15	40	53	55	35	39	
	100.0	33.8	47.7	50.8	23.1	61.5	81.5	84.6	53.8	60.0	
60歳代	37	5	7	10	6	17	28	30	17	21	
	100.0	13.5	18.9	27.0	16.2	45.9	75.7	81.1	45.9	56.8	

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合をみると、女性の場合は、20歳代では「⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる」(78.4%)、「⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない」(84.3%)が高い。

男性の場合は、50歳代では「①何をやっても、何を言っても長期間無視される」「③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」の割合が年代中最も高い。

図 8-7 暴力を受けた経験



■男女とも「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」の経験が最も高い

男女とも「たびたびあった (ある)」の割合が高いのは「③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」で女性 5.0%、男性 2.7%となっており、「たまにあった (ある)」と合計すると『経験がある』の割合は女性 30.2%、男性 24.8%である。「①何をやっても、何を言っても長期間無視される」では『経験がある』が女性 16.7%、男性 19.8%となっている。「①何をやっても、何を言っても長期間無視される」と「②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする」「⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」を除く項目において、女性の方が男性よりも『経験がある』の割合が高く、「⑨望まない性行為を強要される」は女性が 14.0%で男性よりも 10.6ポイント高い。また、「⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる」「⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる」といった身体的な暴力においても女性の1割強が『経験がある』となっている。

表 8-7 性・年代別 暴力を受けた『経験がある』の割合

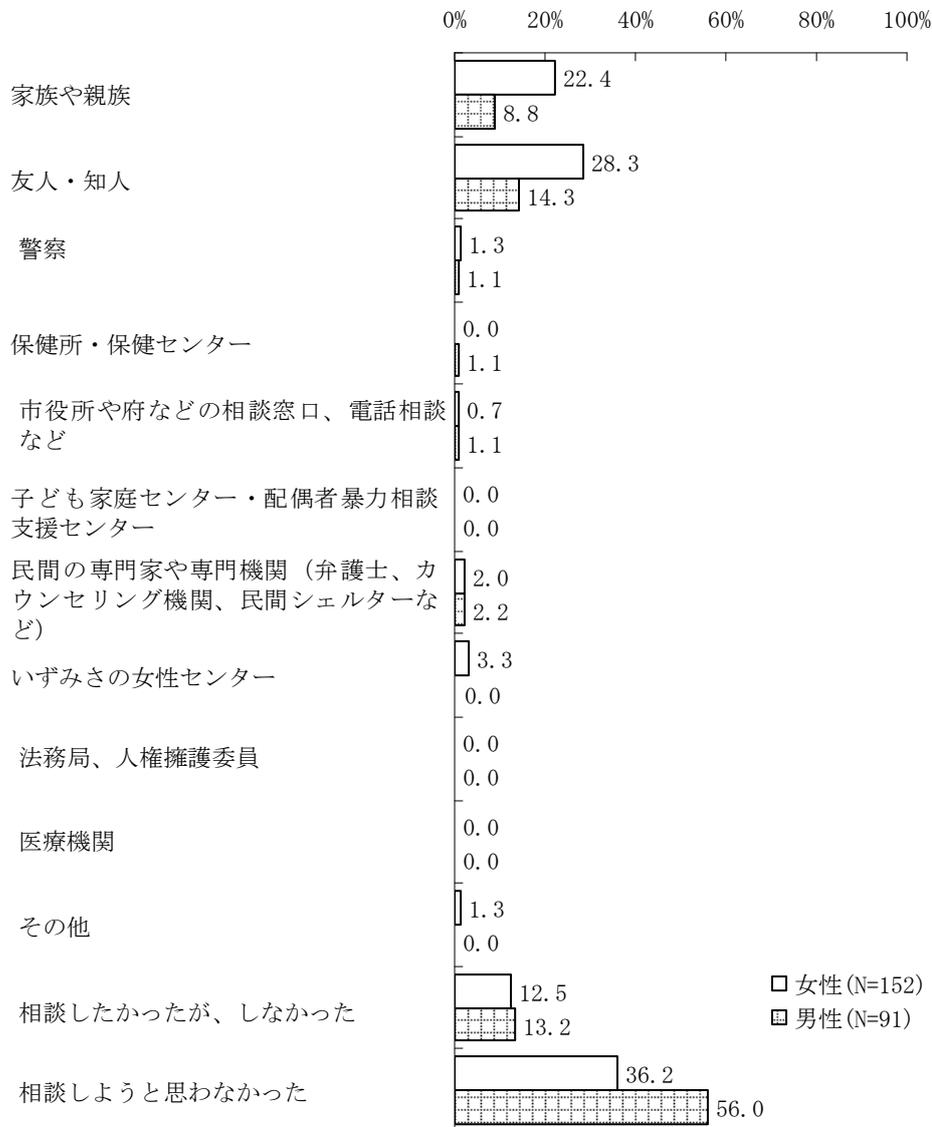
		全体	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	⑦身体を傷つける可能性のあるものでたかれる	⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	⑨望まない性行為を強要される
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	115 17.9	47 7.4	179 28.0	72 11.2	60 9.3	62 9.7	28 4.4	32 5.0	62 9.7
女性	20 歳代	51 100.0	9 17.7	4 7.8	10 19.6	8 15.6	7 13.7	7 13.7	5 9.8	3 5.9	4 7.8
	30 歳代	83 100.0	6 7.2	3 3.6	17 20.5	7 8.4	5 6.0	7 8.4	1 1.2	5 6.0	6 7.2
	40 歳代	97 100.0	22 22.7	8 8.2	36 37.2	14 14.4	16 16.5	12 12.3	7 7.2	5 5.1	20 20.6
	50 歳代	104 100.0	15 14.4	7 6.8	34 32.7	12 11.5	9 8.7	12 11.6	2 1.9	6 5.7	17 16.3
	60 歳代	40 100.0	10 25.0	1 2.5	16 40.0	4 10.0	6 15.0	5 12.5	1 2.5	5 12.5	6 15.0
男性	20 歳代	34 100.0	3 8.8	3 8.8	5 14.7	1 2.9	4 11.7	3 8.8	2 5.8	2 5.8	1 2.9
	30 歳代	56 100.0	10 17.9	2 3.6	8 14.3	6 10.7	2 3.6	4 7.1	1 1.8	1 1.8	- -
	40 歳代	70 100.0	18 25.7	13 18.6	27 38.6	10 14.3	4 5.7	7 10.0	4 5.7	4 5.7	5 7.2
	50 歳代	65 100.0	14 21.5	4 6.2	17 26.2	7 10.7	5 7.7	4 6.2	4 6.2	1 1.5	2 3.1
	60 歳代	37 100.0	7 18.9	2 5.4	8 21.6	3 8.1	2 5.4	1 2.7	1 2.7	- -	1 2.7

『経験がある』の割合をみると、「③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」は女性の 40～60 歳代と男性の 40 歳代で 3 割を超えて高くなっている。「①何をやっても、何を言っても長期間無視される」は、女性は 40 歳代、60 歳代で、男性は 40～50 歳代で 2 割を超えている。

【問26の②で「たびたびあった(ある)」、「たまにあった(ある)」と答えた方におたずねします】

問27 あなたは、そのことをだれかに相談しましたか。(○はいくつでも)

図8-8 暴力を受けた後の相談状況



■相談相手は「友人・知人」と「家族や親族」の割合が高い

暴力を受けたときの相談相手としては、男女とも「友人・知人」が最も高く、女性28.3%、男性14.3%である。次いで「家族や親族」が女性22.4%、男性8.8%となっている。一方で、「相談しようと思わなかった」が女性36.2%、男性56.0%となっており、男性の過半数を占めている。また、「相談したかったが、しなかった」は男女とも約15%と高い。また、「警察」「保健所・保健センター」「市役所や府などの相談窓口、電話相談など」への相談は1%前後と低く、「子ども家庭センター・配偶者暴力相談支援センター」「法務局、人権擁護委員」「医療機関」は利用者がいない。

表 8-8 性・年代別 暴力を受けた後の相談状況

		全体	家族や親族	友人・知人	警察	保健所・保健センター	市役所や府などの相談窓口、電話相談など	子ども家庭センター・配偶者暴力相談支援センター	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど）	いずみさの女性センター	法務局、人権擁護委員	医療機関	その他	相談したかったが、しなかった	相談しようと思わなかった	無回答
全体	上段/実数	243	42	56	3	1	2	-	5	5	-	-	2	31	106	28
	下段/%	100.0	17.3	23.0	1.2	0.4	0.8	-	2.1	2.1	-	-	0.8	12.8	43.6	11.5
女性	20 歳代	13	4	7	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2	2
		100.0	30.8	53.8	7.7	-	-	-	-	7.7	-	-	-	7.7	15.4	15.4
	30 歳代	26	7	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	10	5
		100.0	26.9	26.9	-	-	-	-	3.8	-	-	-	-	7.7	38.5	19.2
	40 歳代	47	8	16	-	-	-	-	1	1	-	-	1	6	19	4
	100.0	17.0	34.0	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	2.1	12.8	40.4	8.5	
50 歳代	44	10	9	-	-	-	-	1	1	-	-	1	7	16	4	
	100.0	22.7	20.5	-	-	-	-	2.3	2.3	-	-	2.3	15.9	36.4	9.1	
60 歳代	21	4	4	1	-	1	-	-	2	-	-	-	3	8	1	
	100.0	19.0	19.0	4.8	-	4.8	-	-	9.5	-	-	-	14.3	38.1	4.8	
男性	20 歳代	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2
		100.0	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	33.3	33.3
	30 歳代	19	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	12	1
		100.0	5.3	15.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.5	63.2	5.3
	40 歳代	33	3	5	1	1	-	-	1	-	-	-	-	3	20	5
	100.0	9.1	15.2	3.0	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-	9.1	60.6	15.2	
50 歳代	22	2	4	-	-	1	-	1	-	-	-	-	3	10	4	
	100.0	9.1	18.2	-	-	4.5	-	4.5	-	-	-	-	13.6	45.5	18.2	
60 歳代	11	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7	-	
	100.0	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27.3	63.6	-	

【性・年代別】

女性の場合は、20 歳代では「友人・知人」が 53.8%、「家族や親族」が 30.8%と高く、「相談しようと思わなかった」が 15.4%と低い。

50 歳代では「相談したかったが、しなかった」が 15.9%で年代中最も高い。

男性の場合は、30～40 歳代では「相談しようと思わなかった」が 6 割を超えて高くなっている。30～60 歳代では「家族や親族」が 1 割未満と低い。

【性・経験のあった暴力別】

男女とも「⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる」と「⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」という暴力の認識が高い項目においても「相談したかったが、しなかった」と「相談しようと思わなかった」がそれぞれで 1 割を超えている。

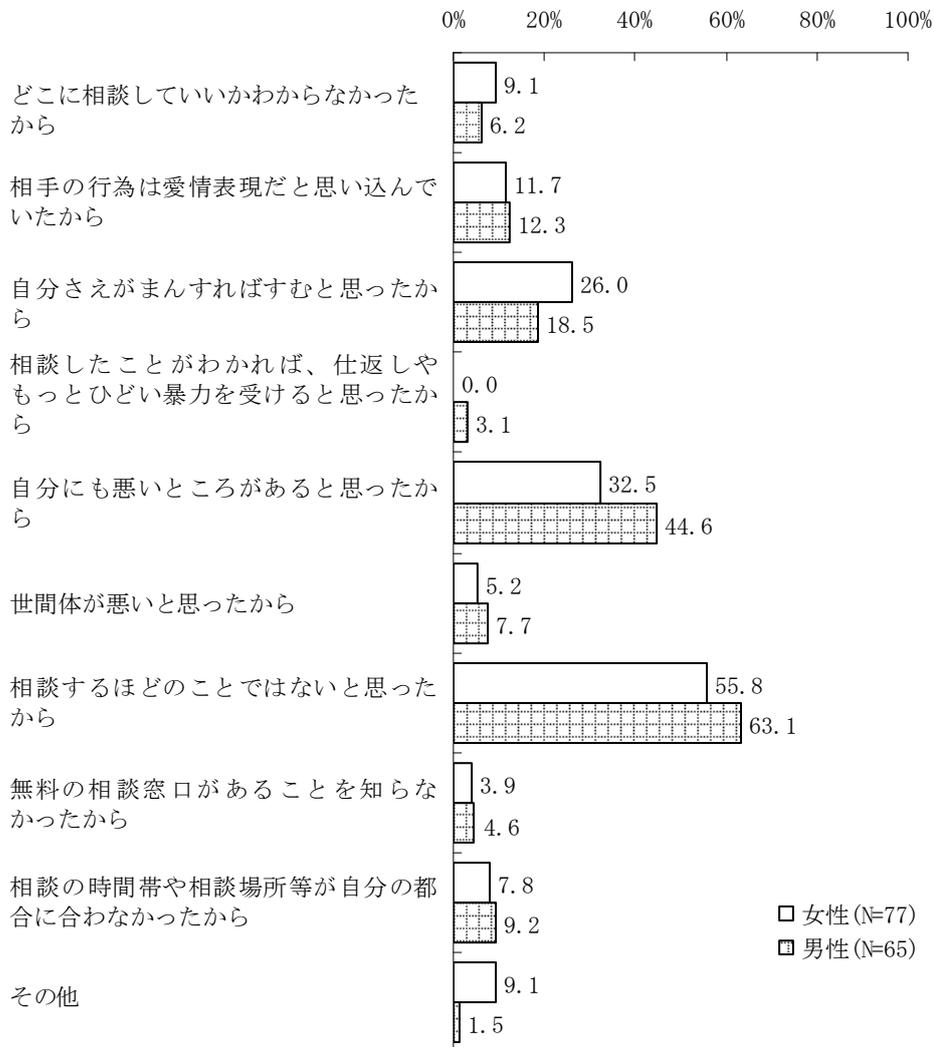
表8-9 性・経験した暴力別 暴力を受けた後の相談状況

		全体	家族や親族	友人・知人	警察	保健所・保健センター	市役所や府などの相談窓口、電話相談など	暴力相談支援センター・配偶者子ども家庭支援センター	民間シェルターなど	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど）	いずみさの女性センター	法務局、人権擁護委員	医療機関	その他	相談したかったが、しなかった	相談しようと思わなかった	無回答
全体	上段/実数	243	42	56	3	1	2	-	5	5	-	-	-	2	31	106	28
	下段/%	100.0	17.3	23.0	1.2	0.4	0.8	-	2.1	2.1	-	-	-	0.8	12.8	43.6	11.5
女性	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	63	14	21	2	-	1	-	1	4	-	-	-	1	11	15	7
		100.0	22.2	33.3	3.2	-	1.6	-	1.6	6.3	-	-	-	1.6	17.5	23.8	11.1
	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	23	4	7	1	-	1	-	1	1	-	-	-	1	5	5	2
		100.0	17.4	30.4	4.3	-	4.3	-	4.3	4.3	-	-	-	4.3	21.7	21.7	8.7
	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	114	29	29	2	-	1	-	2	5	-	-	-	2	15	42	11
		100.0	25.4	25.4	1.8	-	0.9	-	1.8	4.4	-	-	-	1.8	13.2	36.8	9.6
	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	45	11	13	2	-	1	-	1	4	-	-	-	1	7	13	6
		100.0	24.4	28.9	4.4	-	2.2	-	2.2	8.9	-	-	-	2.2	15.6	28.9	13.3
	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	43	14	12	2	-	1	-	-	3	-	-	-	1	6	11	6
	100.0	32.6	27.9	4.7	-	2.3	-	-	7.0	-	-	-	2.3	14.0	25.6	14.0	
⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	43	10	11	2	-	1	-	-	3	-	-	-	2	8	12	5	
	100.0	23.3	25.6	4.7	-	2.3	-	-	7.0	-	-	-	4.7	18.6	27.9	11.6	
⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる	16	4	6	2	-	1	-	-	2	-	-	-	-	3	3	2	
	100.0	25.0	37.5	12.5	-	6.3	-	-	12.5	-	-	-	-	18.8	18.8	12.5	
⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	24	6	9	1	-	1	-	1	1	-	-	-	-	2	4	4	
	100.0	25.0	37.5	4.2	-	4.2	-	4.2	4.2	-	-	-	-	8.3	16.7	16.7	
⑨望まない性行為を強要される	53	10	13	2	-	1	-	1	5	-	-	-	1	9	18	4	
	100.0	18.9	24.5	3.8	-	1.9	-	1.9	9.4	-	-	-	1.9	17.0	34.0	7.5	
男性	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	52	4	8	-	-	1	-	1	-	-	-	-	8	32	3	
		100.0	7.7	15.4	-	-	1.9	-	1.9	-	-	-	-	15.4	61.5	5.8	
	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	24	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	12	1	
		100.0	16.7	20.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.8	50.0	4.2	
	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	65	8	11	1	1	1	-	2	-	-	-	-	9	32	10	
		100.0	12.3	16.9	1.5	1.5	1.5	-	3.1	-	-	-	-	13.8	49.2	15.4	
	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	27	4	6	1	1	-	-	1	-	-	-	-	4	13	3	
		100.0	14.8	22.2	3.7	3.7	-	-	3.7	-	-	-	-	14.8	48.1	11.1	
	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	17	3	3	1	1	1	-	2	-	-	-	-	2	7	3	
	100.0	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	-	11.8	-	-	-	-	11.8	41.2	17.6		
⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	19	5	5	1	1	1	-	2	-	-	-	-	2	9	1		
	100.0	26.3	26.3	5.3	5.3	5.3	-	10.5	-	-	-	-	10.5	47.4	5.3		
⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる	12	5	4	1	1	1	-	2	-	-	-	-	3	2	1		
	100.0	41.7	33.3	8.3	8.3	8.3	-	16.7	-	-	-	-	25.0	16.7	8.3		
⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	8	2	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	4	-	
	100.0	25.0	12.5	12.5	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	25.0	50.0	-	
⑨望まない性行為を強要される	9	3	2	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	3	1	
	100.0	33.3	22.2	11.1	11.1	-	-	11.1	-	-	-	-	-	22.2	33.3	11.1	

【問27で「12. 相談したかったが、しなかった」または「13. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします】

問28 そのとき、あなたが、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。
(〇はいくつでも)

図8-9 相談しなかった理由



■「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高い

相談しなかった理由としては、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、女性 55.8%、男性 63.1%である。次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が女性 32.5%、男性 44.6%と高い。

表8-10 性・年代別 相談しなかった理由

		全体	どこに相談していいかわからなかったから	相手の行為は愛情表現だと思いついたから	自分さえがまんすればすむと思ったから	相談したことがわかれば、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	世間体が悪いと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	無料の相談窓口があることを知らなかったから	相談の時間帯や相談場所等が自分の都合に合わなかったから	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	142 100.0	11 7.7	17 12.0	32 22.5	2 1.4	54 38.0	9 6.3	84 59.2	6 4.2	12 8.5	8 5.6	1 0.7
女性	20歳代	4 100.0	1 25.0	- -	1 25.0	- -	1 25.0	- -	2 50.0	1 25.0	2 50.0	- -	- -
	30歳代	12 100.0	- -	- -	2 16.7	- -	6 50.0	- -	8 66.7	- -	1 8.3	- -	- -
	40歳代	26 100.0	5 19.2	5 19.2	5 19.2	- -	5 19.2	1 3.8	14 53.8	1 3.8	2 7.7	2 7.7	- -
	50歳代	24 100.0	1 4.2	4 16.7	9 37.5	- -	9 37.5	2 8.3	14 58.3	1 4.2	1 4.2	3 12.5	- -
	60歳代	11 100.0	- -	- -	3 27.3	- -	4 36.4	1 9.1	5 45.5	- -	- -	2 18.2	1 9.1
男性	20歳代	3 100.0	1 33.3	2 66.7	2 66.7	1 33.3	2 66.7	2 66.7	2 66.7	1 33.3	1 33.3	- -	- -
	30歳代	16 100.0	1 6.3	2 12.5	- -	- -	6 37.5	1 6.3	11 68.8	2 12.5	3 18.8	- -	- -
	40歳代	23 100.0	1 4.3	1 4.3	5 21.7	- -	11 47.8	1 4.3	15 65.2	- -	1 4.3	- -	- -
	50歳代	13 100.0	1 7.7	2 15.4	3 23.1	1 7.7	4 30.8	1 7.7	8 61.5	- -	- -	1 7.7	- -
	60歳代	10 100.0	- -	1 10.0	2 20.0	- -	6 60.0	- -	5 50.0	- -	1 10.0	- -	- -

【性・年代別】

男女とも30歳代は「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が年代中最も高い。
女性の50歳代では、「自分さえがまんすればすむと思ったから」が年代中最も高い。

【性・経験のあった暴力別】

女性は「⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる」と「⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる」において、「どこに相談していいかわからなかったから」「自分さえがまんすればすむと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」と回答している人が少なからずいる。また、女性は「⑨望まない性行為を強要される」で「自分さえがまんすればすむと思ったから」が51.7%と高い。

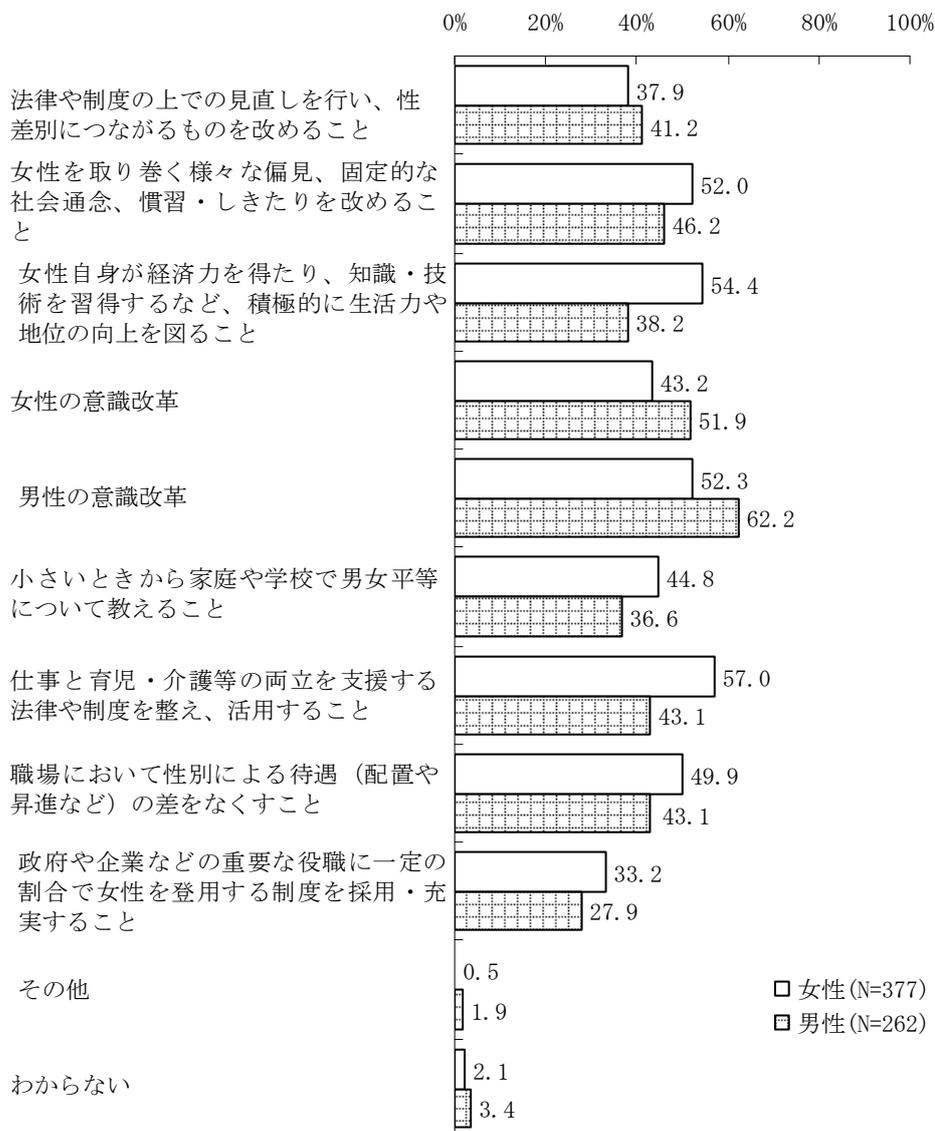
表8-11 性・経験した暴力別 相談しなかった理由

	全体	どこに相談していいかわからなかったから	相手の行為は愛情表現だと思込んでいたから	自分さえがまんすればすむと思つたから	自分も悪いところがあると思つたから	相談したことがわかれば、仕返しやもつとひどい暴力を受けると思つたから	世間体が悪いと思つたから	相談するほどのことではないと思つたから	無料の相談窓口があることを知らなかったから	相談の時間帯や相談場所等が自分の都合に合わなかったから	その他	無回答	
全体 上段/実数	142	11	17	32	2	54	9	84	6	12	8	1	
下段/%	100.0	7.7	12.0	22.5	1.4	38.0	6.3	59.2	4.2	8.5	5.6	0.7	
女性	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	29	5	3	12	-	10	3	10	5	3	1	
	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	13	4	2	6	-	6	1	5	1	3	-	
	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	59	7	7	15	-	20	4	32	3	3	4	1
	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	21	4	4	8	-	6	2	9	3	3	3	-
	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	19	5	1	7	-	5	4	9	2	1	3	1
	⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	21	6	1	8	-	7	1	11	2	1	3	-
	⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる	7	5	1	3	-	4	-	3	2	1	1	-
	⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	8	2	-	5	-	3	1	2	1	2	1	-
	⑨望まない性行為を強要される	29	6	5	15	-	8	3	14	2	1	2	-
男性	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	40	2	5	9	2	20	2	28	2	2	1	-
	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	18	2	2	6	-	8	1	11	2	2	1	-
	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	42	4	3	12	2	21	4	26	1	2	1	-
	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	17	2	3	4	-	9	-	9	-	1	-	-
	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	9	-	2	4	1	7	1	7	-	-	-	-
	⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	11	-	3	4	1	8	2	10	-	-	-	-
	⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる	5	-	1	2	-	3	-	3	-	1	-	-
	⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	6	-	2	3	1	3	1	3	-	1	1	-
	⑨望まない性行為を強要される	5	-	2	2	-	2	-	3	-	1	-	-

9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

問29 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

図9-1 男女があらゆる分野で平等になるために重要と思うこと



■男性で「男性の意識改革」が最も重要と思う人が6割を超える

女性は「仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること」が57.0%で最も高く、男性と13.9ポイントの差が開いている。男性は「男性の意識改革」が62.2%で最も高く、女性よりも9.9ポイント高い。

表9-1 性・年代別 男女があらゆる分野で平等になるために重要と思うこと

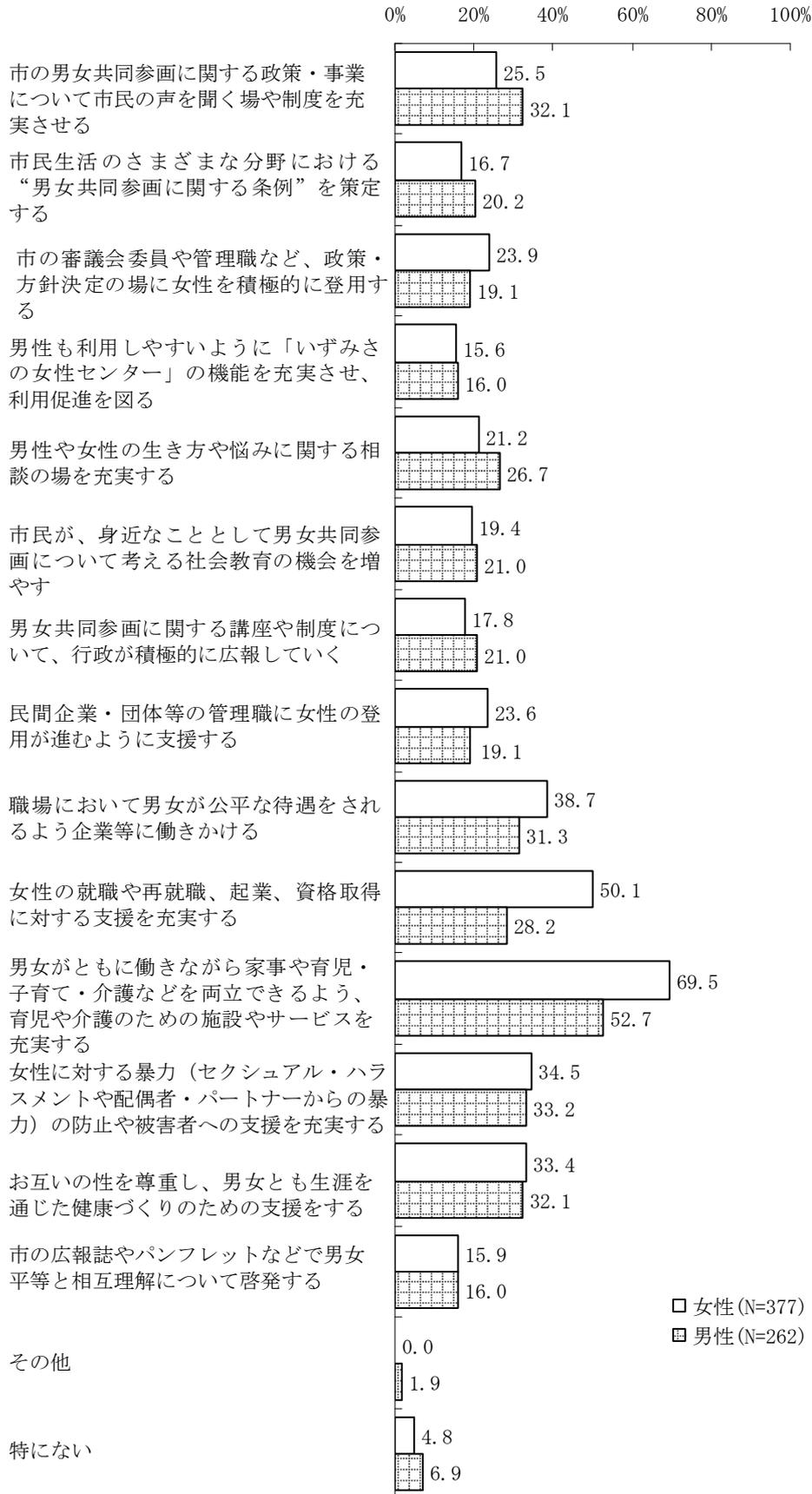
		全体	法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること	慣習・しきたりを改めること	女性自身を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、女性自身が経済力を得たり、知識・技術を習得するなど、積極的に生活力や地位の向上を図ること	女性の意識改革	男性の意識改革	小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること	仕事を育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること	職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと	政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	その他	わからない	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	252 39.4	318 49.7	306 47.8	300 46.9	361 56.4	266 41.6	329 51.4	302 47.2	199 31.1	7 1.1	17 2.7	13 2.0
女性	20歳代	51 100.0	20 39.2	27 52.9	24 47.1	14 27.5	22 43.1	24 47.1	33 64.7	32 62.7	18 35.3	- -	- -	1 2.0
	30歳代	83 100.0	32 38.6	39 47.0	45 54.2	32 38.6	45 54.2	41 49.4	48 57.8	41 49.4	22 26.5	1 1.2	2 2.4	- -
	40歳代	97 100.0	35 36.1	56 57.7	51 52.6	38 39.2	48 49.5	39 40.2	53 54.6	49 50.5	33 34.0	- -	3 3.1	2 2.1
	50歳代	104 100.0	42 40.4	54 51.9	60 57.7	52 50.0	54 51.9	46 44.2	60 57.7	47 45.2	39 37.5	- -	1 1.0	3 2.9
	60歳代	40 100.0	13 32.5	19 47.5	24 60.0	26 65.0	26 65.0	18 45.0	21 52.5	18 45.0	13 32.5	1 2.5	2 5.0	1 2.5
男性	20歳代	34 100.0	17 50.0	21 61.8	12 35.3	19 55.9	20 58.8	16 47.1	17 50.0	15 44.1	10 29.4	1 2.9	1 2.9	1 2.9
	30歳代	56 100.0	21 37.5	24 42.9	17 30.4	26 46.4	35 62.5	20 35.7	23 41.1	23 41.1	15 26.8	1 1.8	3 5.4	1 1.8
	40歳代	70 100.0	25 35.7	27 38.6	23 32.9	40 57.1	43 61.4	18 25.7	26 37.1	27 38.6	18 25.7	2 2.9	3 4.3	2 2.9
	50歳代	65 100.0	30 46.2	34 52.3	29 44.6	28 43.1	41 63.1	27 41.5	31 47.7	30 46.2	17 26.2	1 1.5	1 1.5	1 1.5
	60歳代	37 100.0	15 40.5	15 40.5	19 51.4	23 62.2	24 64.9	15 40.5	16 43.2	18 48.6	13 35.1	- -	1 2.7	1 2.7

【性・年代別】

性・年代別にみると、男女とも60歳代で「女性の意識改革」と「男性の意識改革」がそれぞれ6割強と高い。女性の20歳代では「仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること」「職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと」がそれぞれ64.7%、62.7%と高い。

問30 今後、泉佐野市で男女共同参画を推進するために、特にどのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

図9-2 泉佐野市で男女共同参画を推進するために力を入れて取り組むべきこと



■男女とも「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」がトップ

男女ともに「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」が女性 69.5%、52.7%で最も高い。次いで女性は「女性の就職や再就職、起業、資格取得に対する支援を充実する」が 50.1%、男性は「女性に対する暴力（セクシュアル・ハラスメントや配偶者・パートナーからの暴力）の防止や被害者への支援を充実する」が 33.2%で続く。「女性の就職や再就職、起業、資格取得に対する支援を充実する」は女性 50.1%で男性よりも 21.9 ポイント高い。

【性・年代別】

女性の場合は、20～30 歳代では「職場において男女が公平な待遇をされるよう企業等に働きかける」の割合が他の年代よりも高い。

30 歳代と 50 歳代では「男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する」の割合が 7 割強と高い。

男性の場合は、40 歳代以下は、「職場において男女が公平な待遇をされるよう企業等に働きかける」の割合が 50 歳代以上に比べて高い。

表9-2 性・年代別 泉佐野市で男女共同参画を推進するために力を入れて取り組むべきこと

		全体	市の男女共同参画に関する政策・事業について市民の声を聞く場や制度を充実させる	市の男女共同参画に関する条例”を策定する	市民生活のさまざまな分野における“男女共同参画に関する”を策定する	市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	男性も利用しやすいように「いずみさの女性センター」の機能を充実させ、利用促進を図る	男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす	男女共同参画に関する講座や制度について、行政が積極的に広報していく	民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する	職場において男女が公平な待遇をされるよう企業等に働きかける
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	181 28.3	117 18.3	141 22.0	102 15.9	151 23.6	129 20.2	123 19.2	140 21.9	229 35.8	
女性	20歳代	51 100.0	13 25.5	7 13.7	14 27.5	9 17.6	12 23.5	10 19.6	10 19.6	14 27.5	27 52.9	
	30歳代	83 100.0	14 16.9	9 10.8	18 21.7	12 14.5	16 19.3	11 13.3	9 10.8	19 22.9	37 44.6	
	40歳代	97 100.0	24 24.7	18 18.6	20 20.6	15 15.5	20 20.6	17 17.5	17 17.5	22 22.7	33 34.0	
	50歳代	104 100.0	28 26.9	19 18.3	26 25.0	18 17.3	23 22.1	21 20.2	20 19.2	25 24.0	35 33.7	
	60歳代	40 100.0	15 37.5	9 22.5	12 30.0	5 12.5	8 20.0	14 35.0	10 25.0	8 20.0	13 32.5	
男性	20歳代	34 100.0	9 26.5	5 14.7	7 20.6	6 17.6	6 17.6	6 17.6	5 14.7	8 23.5	11 32.4	
	30歳代	56 100.0	16 28.6	12 21.4	6 10.7	9 16.1	17 30.4	12 21.4	6 10.7	7 12.5	20 35.7	
	40歳代	70 100.0	26 37.1	16 22.9	10 14.3	12 17.1	18 25.7	18 25.7	17 24.3	17 24.3	25 35.7	
	50歳代	65 100.0	22 33.8	10 15.4	15 23.1	11 16.9	17 26.2	11 16.9	16 24.6	10 15.4	18 27.7	
	60歳代	37 100.0	11 29.7	10 27.0	12 32.4	4 10.8	12 32.4	8 21.6	11 29.7	8 21.6	8 21.6	

		全体	女性の就職や再就職、起業、資格取得に対する支援を充実する	男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるように、育児や介護のための施設やサービスを充実する	男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるように、育児や介護のための施設やサービスを充実する	被害者への支援を充実する	女性に対する暴力（セクシュアル・ハラスメントや配偶者・パートナーからの暴力）の防止や	お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする	市の広報誌やパンフレットなどで男女平等と相互理解について啓発する	その他	特になし	無回答
全体	上段/実数 下段/%	640 100.0	264 41.3	401 62.7	218 34.1	211 33.0	103 16.1	5 0.8	36 5.6	35 5.5		
女性	20歳代	51 100.0	33 64.7	33 64.7	21 41.2	15 29.4	9 17.6	-	1 2.0	3 5.9		
	30歳代	83 100.0	44 53.0	60 72.3	27 32.5	29 34.9	9 10.8	-	5 6.0	2 2.4		
	40歳代	97 100.0	50 51.5	66 68.0	37 38.1	26 26.8	13 13.4	-	8 8.2	4 4.1		
	50歳代	104 100.0	47 45.2	77 74.0	33 31.7	43 41.3	19 18.3	-	3 2.9	3 2.9		
	60歳代	40 100.0	14 35.0	25 62.5	11 27.5	13 32.5	10 25.0	-	1 2.5	7 17.5		
男性	20歳代	34 100.0	10 29.4	15 44.1	13 38.2	9 26.5	6 17.6	-	3 8.8	3 8.8		
	30歳代	56 100.0	19 33.9	31 55.4	18 32.1	20 35.7	6 10.7	1 1.8	4 7.1	2 3.6		
	40歳代	70 100.0	14 20.0	33 47.1	22 31.4	27 38.6	11 15.7	3 4.3	7 10.0	2 2.9		
	50歳代	65 100.0	21 32.3	37 56.9	21 32.3	16 24.6	11 16.9	1 1.5	4 6.2	6 9.2		
	60歳代	37 100.0	10 27.0	22 59.5	13 35.1	12 32.4	8 21.6	-	-	3 8.1		

第4章

1. 自由意見（抜粋・要約）

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述（73人）の主な意見を抜粋し要約する。

（1）仕事について

- ◆ 男女関係なく、仕事（家事を含む）の評価を平等にする。
つらい仕事、大変な仕事の評価があまりにも低すぎる。（そのことが男女平等につながると思う。）
このままでは、つらい大変な仕事をする人がいなくなり、社会が成り立たなくなると思う。（男性60歳以上）
- ◆ 女性リーダーに対する職場全体の意識を変える。（女性40歳代）
- ◆ 一部上場企業で働いていた時はコンプライアンス教育がしっかりしていたので、社員全員意識しながら働いていた。30人規模ぐらいの会社で働いた時、コンプライアンス教育もなく、セクハラと思われるようなことが多数あった。年月がたっても思い出すと気分が悪い。個人のモラルもあると思うが、社員教育することによって少しはマシになるのではないかと思う。（女性30歳代）
- ◆ 男女平等にと言われても現実では男性は朝から晩まで仕事と言えば通用するが、女性は子どもがいればごはんを食べさせ、学校に行かせ、習い事をさせ、そして家事に、仕事に行く時間の制限がある。子どもに関してもちゃんと見てもらえる所も少なく、学童に預けていてもあんまり安心できない。このサイクルがすごく不公平だと思うし、毎日疲れる。（女性30歳代）
- ◆ 男女の給料の差をなくすべきだと思う。男だから高収入はおかしい。仕事ができる男性ばかりじゃない。上司も平等かつ冷静に評価できる人を選び、個々の能力を給料（時給）で評価してほしい。（女性30歳代）

（2）日常生活や子育てについて

- ◆ 病児保育がもっと充実していればもっと仕事ができる女性が増えると思う。保育所を休んだ時に預ける所がないばかりに能力のある女性の人材でもそれを活かせる仕事につけていない。（女性30歳代）
- ◆ 私は、女性が社会で男性と平等に活躍できることは望ましいと思っていますが、反面、家族の中で家を守り、子どもを育てていく主体者は女性であると思います。そしてそれが差別だとは思いません。もちろん子育てを女性が一人で責任を持つてするというものではありませんが・・・。女性が社会（職場）で男性と平等に・・・となると時間的な部分で家庭・子育ての方への負担やしわよせがくるのでは・・・。基本、私は子どもの成長発達において母親の関わり・愛情は父親以上に与える影響が大きいと思っています。（女性40歳代）
- ◆ 女性だけでなく、男性も参加しやすい、育児や介護について学べる場を提供してほしいです。（女性30歳代）
- ◆ 小さい頃にもっと男女は平等だと認識させるべきだと思います。仕事の大変さは、男女平等と解っているのに、家事等の大変さっていうのは、女性や家庭にいる人にしか解らず、「家にいる＝楽」みたいに思われるので、そのへんの認識をもっと男性の方に持って頂きたい。（女性30歳代）
- ◆ 夫婦共働きでどちらも正規雇用、家事育児は2人で協力しあってやっています。私自身は何がつらいかというと、晩ご飯が簡単すぎたり、子どもの保育園のお迎えが遅くなったりすると、罪悪

感を感じます。夫が不満を言うことはなく、支え合ってやっていますが、パートで夕方くらいに帰って子どもの世話をしながら料理をしている友達を見ると、子どもにとっては(夫にとっても)豊かな生活なのではと悩むことが多くあります。女が家庭を守らねばという自分の意識が根底にあるからかも知れません。うちの場合は、男より女の意識改革が必要ない。でも、それで豊かな生活がおくれるかどうか、私自身もよく解りません。子ども達にしわよせだけはいかないようにしたいです。(女性30歳代)

- ◆ どんなに制度が整っても、子どもを産むのは女性である以上、キャリアを継続できるのは本人の能力というよりは、置かれた環境によると思っています。今後、男性も介護で経験していくでしょうが、「常に右上がりにステップするのが普通」ではなく、上がった、下がったしながらも、ステップアップできる社会認識が必要と思います。男女共同参画＝キャリアウーマンを作るのではなく、真の意味のワーク・ライフ・バランスを皆が理解すること、地域もサービスというより、高齢者と若者が補いあえる社会を使うことが必要では？仮に預かってもらえる所が増えても、安心して預けられなければ働けないし、子どもにさせたい経験を働いているからできないのであれば、多くの親はどちらを優先するでしょうか。学童保育の充実(時間延長/内容の改良や習い事の導入)など期待しています。(女性30歳代)
- ◆ 社会の一番小さな単位である家庭、家族の力を大切にしていけば良いのでは？結婚して子育て、仕事との両立でとてもしんどかったけど、主人に助けってもらったり、近所の方々に保育園の送迎を助けってもらったり、サポートする人が居て、続けてこれたと思います。子ども達には、「お父さん助かったよありがとう」と感謝の言葉を伝える等、社会は助け合い感謝することの大切さを自然な形で教育できたらと思います。(女性50歳代)
- ◆ 男女共働きができるような社会づくり(結婚、出産後の就職先の確保、年金確保の確立)、安心して子育てができる支援がほしい。(女性60歳以上)
- ◆ 私くらいの年齢になると始末が悪いことに“無意識”に差別している人が多いと思います。例えば、男性であればリーダーとして育てていきたいと考えますが、女性は助けてあげなければと考えてしまいます。この無意識は一朝一夕には改善できないと思います。そこで思い切って“家事労働(育事、介護等)”に経済的価値を付ければどうでしょうか。例えば、行政が雇用主から拠出金を徴収し、時間給で支援金を払う。そうすれば、男性女性どちらでも家事労働することができるようになり、結果的に男女共同参画社会になるかも知れません。(男性60歳以上)
- ◆ 子育て、育児支援のシステムを充実させてもらえると、もっと女性が社会に進出しやすいと思う。(幼稚園での延長保育や学童の充実など)(女性40歳代)
- ◆ 父、母、子ども2人の家庭で、父も仕事で頑張っている。母は子どもが中学校を卒業しないと、女性が社会に出て仕事は無理だと思う。子どもも大事な年に両親が社会で活動することによって、家族がバラバラになるおそれがあると思う。お金は入ってくると思うけど、心のつながりが少し欠けてくると思う。やっぱり父には頑張ること、母は子育てがほぼ終わると経験を活かして自分のため、家族のため、老後のため生きること。(女性50歳代)

(3) 男女の地位に関する意識について

- ◆ 本来男女の体のつくりや機能が違うので同じくくりで社会生活を平等に行うには、支障があると思う。だが男女の性別に関係がないのに社会的立場の枠組みに問題がある場合は、積極的に改善した方がいいと思う。
世界的に見ても、女性を男性が守るとするのは、一般的な考えのようで「男らしい、女らしい」

というのはお互いの長所を活かし合ってこそその表現で数千年かかって今の世の中になった訳なので戦後数十年の今の日本が考え直す前に家庭で話し合う方が先決だと思う。(男性40歳代)

- ◆ 男女の違いによる機会の不平等は是正されるべき。しかし、何でも同じにするのではなく性の違いそのものを知り、認め合うことが重要。(男性30歳代)
- ◆ 男には男の持分、女には女の持分が解るように教育すべき。それぞれの権利主張が強すぎてはダメ。義務を教えるべき。(女性60歳以上)
- ◆ 男女平等という意味を取り違えて、むやみに女性をあまやかせると日本の男子が家事や育児に追われ日本の将来が危ない。今の若い人達は男性の方がかわいそうな場合が多い。(女性50歳代)
- ◆ 難しいテーマなので、答えはないと思います。男女は、基本的に、同じ人間ではあるものの、生理的には違いがあるので、男女という区別ではなく、個人としての適材適所で活躍できる社会の枠組を作るのが行政の役目だと思います。また私は東京に11年住んだのち、こちらに移住しましたが、男女の格差は、(大阪市はわかりませんが)大阪の方が少し大きいように思います。(男性30歳代)
- ◆ 男女平等については、もともと体質が異なり、それぞれの特性がある訳だから、何もかも平等にする必要はない。それぞれの長所を活かせる職場や社会の環境づくりが大切である。(男性40歳代)
- ◆ 男女という区別なく、個人として対応してもらえる社会作りを。女性にのみフォローする(優遇する)というのは逆差別。(男性30歳代)
- ◆ 男だから女だからじゃなく、人として正しく生きていれば、自然と平等に近い社会ができるのでは。平等はあり得ないことだと思う。体のしくみが全く違うので、不可能だと思うが、お互いに思いやりを持って努力をすることが大切なような気がします。(女性50歳代)
- ◆ 人間にも動物にもオス・メス(男性・女性)が自然に存在するのはどうしてでしょうか?(中にはない動物もありますが)男性・女性それぞれが本来の役割を持って生まれてきているからではないでしょうか。この先、人類が存続し続けるには、子孫を絶えず残していかなければなりません。これは男女の協力あつてのことで、どちらかが欠けては成立しません。この最も尊い出産と育児(特に母乳を与える時期)は女性にしかできません。これをギセイにして、仕事がしたいから結婚しない・子どもを産まないのは本末転倒で、これを助長するような男女平等といった風潮が感じられます。男女がお互いを尊重するのはもちろん大切なことですが、それぞれの“性”が違うことを理解し合い、お互いの得意なところで協力し合うことが大事なことはないでしょうか。成熟社会の産物なのか何かスッキリしませんね。(男性40歳代)
- ◆ 古い考え方も知れませんが、職場上でお茶を入れるのは女性の役割だと考えています。お茶くみと表現することに違和感がありますが、おいしいお茶をもてなすという意味、男性がそのように感じるのが大事なことだと思います。何もかもが男女共同という考えでいくとうまくいかないと思います。男であれ女であれ相方が男の人しかできないこと・女の人しかできないことを認めることが大切だと思います。(女性50歳代)

(4) 健康や地域生活、老後の暮らしについて

- ◆ 私たちは共働きです。互いに子どもがほしいと思っていますが、十分な施設がなく、不安です。共働きの者が安心して、自由な時間に子どもを預けられる施設があればと思います。また、介護したくても、なかなか仕事と介護の両立は難しいと思います。介護に関しての相談できる場が少ないように思います。高齢者が相談できる場も少ないと思います。暮らしやすい町づくり頑張っ

てください！(女性20歳代)

- ◆ 女性特有の疾患に対する検診の情報及び費用負担の軽減、無料化(国や市の補助の充実)をお願いしたいです。よろしくお願いします。(女性30歳代)

(5) 人権の尊重について

- ◆ 相手を認めることから。(男性20歳代)
- ◆ 男女ともに自分自身を見つめ直し互いを尊重しあうことができれば一歩さがった考え方ができると思われます。自分の主張ばかり通そうとすることにゆがみができると思う。(女性60歳以上)
- ◆ いろいろな差別があります。いけないことだと思います。その考えにあうよう、自分自身が行動しなければならぬと感じます。しかし情けない話ですが、もっともそういった行動を私がとれていないのが「男女差別」についてだと日々感じます。意識する・しないに関わらず、実際には差別しているのだらうと思います。意識しない・できていないことに気付く感性を持たなければいけません。反省します。頑張ります。みなさんも頑張ってください。(男性40歳代)

(6) 男女共同参画社会の形成に関する意識について

- ◆ 性差は尊重して。何でも平等とか、やりすぎではいけないと思っています。従ってジェンダーフリーという考え方には同意できません。(男性40歳代)
- ◆ 私は福祉課で障害を持つ子どもの相談に行き、大変不愉快な目にあい、不信感を持っています。担当者によって同じ内容でも扱いが変わる。人づてにその同じ人が背景のある(顔が広い)人が同伴すると態度が変わったと聞こえ、益々「福祉」課にいる意味をその人に聞きたいと思いつけています。大変、評判悪いのを聞き私としては納得しきりです。このようなアンケートを型どおりにとり、一つ仕事をしましたというスタンダプレーにならないよう、頑張って頂きたいと切に願います。アンケートで終わりにならず本当に推進して下さいますよう。(女性50歳代)
- ◆ 制度や条例を定めても、現実的なものでなければ、ただの目標程度にしかならないように思います。女性が社会貢献する、仕事をする為には、子育て支援が何より必要だし、男女ともに個性を活かして、性別差ではなく個別の能力で働くには、雇う側の意識改革が必要だと思います。大きな目標ではなく、まずできること(どんな小さなことでもいいので)を提示して、それを実現してもらえれば、市政に対し信頼感も生まれるのではないのでしょうか。達成できないなら、「どうせできない」という思いがぬぐえません。(女性30歳代)
- ◆ それぞれがしっかりした意識を持ち向上心を生活の場で持ち続けること。外からでなく自身で改革するのも大切だと思う。(女性60歳以上)
- ◆ 男女共同参画社会という具体的な定義があいまいであるように思う。肉体的能力の違いがあるかぎりまったく同じということはありませんし、それを目ざす意義もない。違いがあるからこそ補えることも多い。また共同参画社会の実現のためといい女性優遇を過度にすべきではない。過度に行えば男女差別を助長することになる可能性がある。(男性40歳代)
- ◆ 男女ともに、意識改革が一番だと思う。明日の市民のために、国のためにご尽力ください。(男性50歳代)
- ◆ 女性センター、女性相談センター、その他(女性と名のつく機関など)。女性に限らず、男性も苦悩していることだと思っていますので、男性も利用できるような名前など変え、共に意識改革できるようにしていけばよい。(女性50歳代)
- ◆ このアンケートで色々考えることもありましたが、法案等で改善されるものではないかと思いま

した。泉佐野市も様々な問題のある中で大変だとは思いますが（借金等）古い風習をこわすのではなく丸くゆったりと考え方を示せるようになればいいですね。ただ、パンフレットを作ると見ないし、お金がかかるので反対です。（女性40歳代）

- ◆ 21世紀が夢と希望、世界の1人1人が幸福をもたらす時代とどんどんかけ離れて行くと大きさに書き始めましたが、「男女共同参画社会を実現」することと日本の現状孤立孤独の無縁社会、老若男女が子育て、就職、進学、結婚、老後の生活に不安を抱えた社会などなどと深く関わっていく、全てが改善されていい方向でないと「男女共同参画社会」の実現にも個人や家庭レベルで努めても前進していかないと考える。（男性50歳代）
- ◆ とにかく、個々の意識改革が必要。（男性30歳代）
- ◆ 男女共同参画社会の実現には、男性と女性の垣根を越えていくシステム作りが一番必要と思います。その為には、男性の優位性、女性の優位性をお互い認め、それを否定するのではなく、個々の優位性を尊重し、優位性を活用した社会システムの構築が大事だと思います。その男性または女性の優位性として認められたもの以外は、男女ではなく人間として一体で男女区別なく社会進出を促すべきだと考えてます。そのような社会実現に向けたシステム作りを期待しています。（男性40歳代）
- ◆ 「男女共同参画」どちらかと言えば、反対です。「女は損」から始まっているように思います。（男性50歳代）
- ◆ 平等論を超えた優遇論も散見されますので、「やりすぎ」「思い込み」の是非も必要です。また、「性差」を超えた、「個々」に関するものも「性的」と扱われている例も見られますので、共同参画、平等、機会均等、ジェンダー等、「枠組み」や「定義」の曖昧さを改善（意識改革）する必要もあるでしょう。ただ、長期的な目で問題点を洗い出し、行政として改善すべきところは随時、情報として提供して頂けることは良いことと思います。（男性30歳代）
- ◆ 机上の空論ではなく、現実問題として取り組み少しずつでも行動して行ってください。市報にアンケートを載せる等、期間限定、人選等をせず、毎月、毎回目に止まるようにして頂けたら助かります。（アンケート結果も）（男性40歳代）
- ◆ 個人の意識が変わらないと進まないと思います。人の気持ちと考えを変えるには手段、方法って、個人生活主体になっている世の中には難しいですね。推進する立場も、これという方法が浮かばない状態の中、手探り状態で一步一步行うしかないかも知れませんが、頑張ってください。（男性40歳代）
- ◆ 男性、特に高齢者の意識改革が必要、学校での教育。（男性30歳代）
- ◆ 男女共同参画社会に対して、多くの男性は無関心であると思う。まずは男性をいろいろな場にひっぱり出し、関心を持たせることから始めるべきではないか。また、父親同士の交流の場が少なく、例えば、育児や家事に非協力的だとしても気づいておらず、自分はやってる方だと勘違いしている話をよく聞く。「ママ同士の交流」を意識していると思われる企画はよくあるが、「パパ同士の交流」を意識し、その場に問題提起を投げかける方が、男女共同参画社会に近づけるのではないだろうか。（女性40歳代）
- ◆ 「男女共同参画」という言葉自体を一般家庭の人はよく知らない。広報や啓発では解らないので、結果として解るような形で表してほしい。（男性40歳代）
- ◆ 今以上に泉佐野が暮らしやすくなることを願っています。（50歳代）
- ◆ 大人になって、しみついた考え方はなかなか直らない。子どもの時からの教育が大事！（男性40歳代）

- ◆ 泉佐野だけでは取り組めないこともあると思うので南泉州地域で男女共同参画について広域に取り組んではどうか。(女性40歳代)
- ◆ 「いずみさの女性センター」という名前で男性が利用しやすいとは思わない。(女性20歳代)
- ◆ 泉佐野市の職員数(保育所や病院等を除く)からして、男女差をなくす。管理職に女性が少ないのではないか?行政が率先して男女共同参画を実現してほしい!!(女性60歳以上)

2. 調査結果からみた課題

市民意識調査を読んで

ジャーナリスト 細見 三英子

平成 11 年に「男女共同参画社会基本法」が制定されて、12 年がたちました。一人ひとりの個性や思いを大切にしながら豊かな共同参画社会を実現するという基本法の趣旨が、どれくらい身近なものになっているのか、調査結果を興味深く拝見しました。30 項目に及ぶ質問にたいねいに答えてくださった市民に敬意を表するとともに、貴重な調査結果を施策に生かしていただくようお願いしたいと思います。

泉佐野市の男性は…

調査の数字を見る際、ひとつの物差しにしたのが、10 ポイント以上の差があるか、ということです。ある社会調査の研究者が「標本数の多少にかかわらず、10 ポイント以上の差があれば、その数値には意味が含まれている」と言われました。この調査でも、その物差しで読んでみました。

「男は仕事、女は家庭」と性別役割を固定的に考える意識について、女性は「そうは思わない」が 62.9%、男性が 52.3%。男女差は 10.6 ポイントあり、性別役割に縛られたくないという思いは女性のほうに強いことがわかります。ただ、男性の 52.3% という数字もかなり注目すべき結果でした。というのも最近の他の調査では、固定的な性別役割に「賛成」と答える男性が増えている傾向があるのです、しかも若い層に。

性別役割を固定的に考えることがパートナーを悲しませたり苦しませることもあるという事実を、次世代にしっかりと伝える啓発・教育活動は継続して繰り返していくことが大切です。と同時に、泉佐野市の男性 52.3% の数字は多くの女性たちに希望を与えてくれるものではないでしょうか。もっとも自由記述欄にあるように「男は仕事、女は家庭といていたら食べていけない」という厳しい現実もあることは事実ですが、ともかく、固定的な性別役割分担意識に「ノー」が半数を超えたというのはちょっとうれしい驚きでした。

泉佐野市の女性は…

性別役割に縛られたくない、自由に生きたいという、俗に“翔んでる女”の意識は問 9 の「結婚や家庭生活についての考え方」にもかなりくっきりと表れています。女性では「結婚はしてもしなくてもどちらでもいい」(50.9%)、「結婚しても必ずしも子をもつ必要はない」(37.4%)、「うまくいかないときは離婚もやむなし」(42.7%) という“キッパリ派”が最も多くなっています。

同じ質問に対する男性の答えは、いずれにおいてもキッパリ派が 10 ポイントほど下がり、その分「どちらかといえば賛成（あるいは反対）」が増えていきます。

なぜ、女性にキッパリ派が多くて、男性に“どちらかといえば派”が多いのか。その原因は、妊娠・出産といった「生む機能」に対する当事者意識の違いではないでしょうか。

結婚の目的の一つに子どもをもつということがあげられますが、この意識は比較的男性に強い。「結婚しても子どもをもつ必要はない」という考えに「反対」の男性は15.3%（女性は6.1%）あります。しかし例えば不妊治療などにおいて、生む機能を担当する女性に対する視線はきびしいものがあります。自分一人で不妊を悩んだり、自分を責めてしまう女性も珍しくありません。もちろん最近では、不妊治療をカップルで一緒に始めるといった例も増えてきているようですが、まだまだ、妊娠・出産イコール女性の責任、といった決めつけ意識が残っているのも事実です。

女性にキッパリ派が多いのは、このような先入観を捨てて結婚や家庭生活も共同参画で、という強い願いを示しているのではないのでしょうか。

仕事と生活、地域活動の両立は…

「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」という3つの要素は、人生において大切なものです。「三つとも大切」と答えたのは女性36.1%、男性37.4%といずれもトップです。ところがそのように実践しているのは女性7.7%、男性6.7%と実に8割減！。特に40代男性（44.3%）は仕事に追われる日々です。

この現実を改善し、男性が家事・子育て・介護などに積極的に参画する方策としては①「男の子にも家事・育児の体験の機会を」（女性55.7%、男性34.4%）②「パートナー間で分担の話し合いを」（女性53.1%、男性43.9%）③「役割分担の慣習や意識を変える」（女性53.1%、男性41.2%）などが上がっています。男女ともに意識改革が大切というのは共通しているのですが、男性が「パートナーとの話し合い」を挙げたのに対し、女性が「男の子の教育」を挙げているのは面白い現象です。この女性たちの本音を代弁すれば、「話し合うのもいいけれど、その前に気を利かして動いてよ」といったところでしょうか。

このほか、男性からの提案では「男性自身が考え方を改める」（41.2%）、「労働時間の短縮などの啓発」（37.4%）がありました。

子どもの育て方について

未成年の子どもがいると仮定して、どのような生き方をしてほしいかという問16で、おもしろい結果を見つけました。女の子も男の子も「経済的自立を」（78.4%）、「社会的貢献を」（83.9%）、「本人の能力や個性を生かして」（90.6%）などが高く、もったもだと思ったのですが、「社会的な地位を得てほしい」という願いは48.0%で、反対に、女子にも男子にも「社会的地位を望まない」という答えが平均24.1%あり、中でも40代男性（31.4%）、60代男性（35.1%）が高かった。男はつらいよ、の反映なのでありましょうか。

もう一つ、女の子にも男の子にも「家事ができる」ことを望むのは女性82.8%、男性72.1%と高いのですが、「特に男の子に家事能力を望む」と答えたのは女性1.3%に対して、男性4.2%と、ここだけ逆転していました。どんな男性が…と詳しく見ますと、驚いたことに20代から60代まで数は少ないものの、しっかりと表れていました。男性（父親）が「特に男の子に家事ができるように望む」なんて、ちょっと素敵なことではありませんか。しかもその数が女性より多いなんて…。

「男はつらい」に一言…

問18では男性に「つらいと思ったとき」を聞いています。6割近くが「つらいと思った経

験があると答えており、そうだろうなあと思いました。この質問は従来なかった項目であり、男女共同参画をすすめるには男性たちの生の声を聞くことはとても大切なことです。

どんな時につらかったかについては、「家族を養うのは男の責任といわれる」(45.3%)、「仕事ができる当たり前といわれる」(41.3%)、「男だから頑張れといわれる」(29.3%)と続きます。

ちょっと意地悪して、これらの答えの「男」を「女」に入れ替えて読んでみました。「女だから(でも)頑張れ」「仕事ができる当たり前(陰の声なら、女だからと甘えるな)」などとなりましょうか。そう言われながら女性たちはずっと頑張ってきて、それでも全体として現代は「男性優遇の社会と思う」が女性67.4%、男性65.3%。家族を養う責任を持つ母子家庭も増えています(父子家庭の6.7倍。その平均年収は171万円)。

男と女とどちらがより一層つらいかということではなく、「男はつらいよ」という発見が、誰もが生きやすい共同参画の社会の実現につながることを期待します。

さらに見ますと、「つらくても相談する相手がない」(20.0%)、「自分の居場所がない」(12.7%)、「家事的自立ができず、生活が不便」(10.7%)といった男性たちの声。これらにどう応えてくのかという共同参画の課題が浮かび上がってきます。

女性の受けたDVと、男性の受けたDVは一寸違う

問26では、暴力に相当する9つの項目が挙げられ、すべてにおいて「暴力にあたる」という認識が高いのは、これまでのDVに対する啓発活動の成果だと思えますが、中で三点ばかり興味深い違いが見受けられました。

ひとつは「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる」ことを「暴力と思う」は女性50.9%、男性37.8%で、男女差は13.1ポイントあります。また、「家にお金を入れない」を暴力と思う女性は65.3%に対し、男性は51.1%で14.2ポイント差。同様に「望まない性行為を強要される」を「暴力と思う」が女性70.8%、男性59.9%で、10.9ポイント差。この三項目は最も男女差があったものです。

実際に受けた暴力の種類にも男女差がうかがえます。男性の受けるDVは「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる(65人)」「長時間無視される(52人)」「大切なものを壊される(24人)」「交友関係や携帯をチェックされる(27人)」などで、女性に比べると直接的、身体的暴力は少ない。また、そのようなDVを受けて「相談するほどのことではない」(63.1%)、「自分にも悪いところがある」(44.6%)などと答えています。女性のDV被害者が恐怖にとらわれてしまい、「自分さえ我慢すればすむ」(26.0%)とあきらめてしまうのとは、少し違うようです。

もちろんこう書いたからといって、男性へのDVを軽視していいということではありません。要は、DVへの関心と理解をもっと深めたいということです。

夫婦間だけでなく、恋人や国際結婚のカップルではどうなのでしょう。あるいはDVが子どもたちに後々まで深刻な影響を与えることも徐々に明らかになっています。また、地域や関係者が関わる重要性も指摘され始めました。

DVに相当するとされる具体的な行為を各自が知り、自分のこととして理解を深めることが大切です。加えて、啓発・教育活動、相談体制、ネットワーク作りなど、きめ細かく具体的な、総合的な施策を継続することが求められます。

《執筆者略歴》

細見三英子（ほそみ みえこ）

※泉佐野市との関係：いずみさの女性センター「裁判員制度」講座等の講師ほか

京都府生まれ。1973年京都大学教育学部卒業、産経新聞大阪本社入社。

社会部、京都支局、文化部などで様々な企画報道を担当。1985年ナイロビの国連婦人会議、1986年統一後初のベトナムを民間人として初めて取材。以後、北京女性会議、バングラデシュ、アメリカなどを取材。

2003年春からフリーに。

■主な役職

大阪市男女共同参画審議会会長、大阪市政改革本部専門委員、京都公立大学法人理事、長岡京市男女共同参画審議委員等

■主な著書

中国・湖南省に幻の女文字の故郷をたどる『中国「女書」探訪』

さまざまな家族の姿をオムニバスに紹介する『家族とは』

歴史上の人物を親子関係からたどる『親と子の日本史』（共著）

マーガレット・サンガーと加藤シヅエの友情を描く『20世紀特派員③』

食の安全を求めた『食生活のガイドブック』（共著）など。

■主な講演テーマ

1. メディアと共同参画～30年の取材ノートから
2. 高齢期にも共同参画が大切（ワークライフバランス）
3. 読ませる文章講座
4. 子育て、楽しんでいますか
5. 人物でたどる女性の歴史
6. 事例から学ぶDV（パートナーからの暴力）
7. 女性の人権講座

1. 固定的な性別役割分担意識を変えよう

本調査において、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識に反対の意見が女性では6割を超えている。男性も反対の意見が過半数を超えているが、女性と比べると10ポイントほど低い。しかしながら、男性は半分近く、女性においても3分の1が、固定的な性別役割分担意識に賛成の意見を持っていることから、いかに、この意識が根強いかがわかる。

家庭における役割についても「考え方」では、「生活費を稼ぐのは男性」というのが男女とも6割以上で、「男女で同じくらい分担」というのは、3割を割っている。これに対し、「日常の家計の管理や家事」については、主に女性が負うという意見が多く、「育児や子どもの教育としつけ」に関しては、男女で同じくらい分担という一番意見が多い。

「現実」の家庭における役割はどうかというと、上記「考え方」以上に、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担が根付いている。

「仕事」「家庭・地域活動」「個人の生活」の優先度においては、全てについてともに優先したいと希望している人が男女とも一番多いが、現実はそうになっておらず、理想と現実のギャップが大きい。

共働き世帯における、夫と妻の仕事時間の割合が4:3であるのに対し、夫の家事・育児・介護等の時間は1日30分であり、妻は夫の8.5倍である。専業主婦のいる世帯における夫の家事時間は39分であり、共働き世帯の夫より長い。

これでは、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担が「男は仕事、女は家庭と仕事」になっただけであり、そんなしんどいことは嫌だから、専業主婦になりたいという若い世代の女性が多いのも頷ける。

でも現実はその甘くない。全国的に、共働き世帯が増加しており、平成9年以降、専業主婦のいる片働き世帯を超えている。今後は、男性片働きを前提とした世帯単位の制度・慣行から個人単位の制度・慣行へ移行していくことになるだろう。

男女の地位の平等感を見ると、学校教育、法律・制度、地域の場合を除くほぼ全ての場面において、平等になっていると思う人が少なく、どちらかと言えば「男性が優遇」されていると考えている人が男女を問わず、多数をしめていることがわかる。これに対し、どの場面においても「女性が優遇」されていると考えている人は極少数である。特に、「社会通念・慣習・しきたりなどで」男性優遇と思っている人が、男女とも7割を超える。

この結果からも、男女の平等を達成するために、男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革が必要であることがわかる。

固定的な性別役割分担意識が根強い中で子どもに望む生き方については、女子・男子の両方に、本人の個性や才能を生かした生活をするを90%の男女が望んでいる。また、小・中学校で進めてほしい男女平等への取り組みも、「男女にかかわらず、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」という意見が一番多い。男女問わず、子どもたちには、

本人の個性や才能を生かした生活をしてほしいと願っているのである。

以上より、将来を見据えた場合には、固定的な性別役割分担を解消していこうという方向性が見いだせるのではないだろうか。

2. 男性にとっての男女共同参画

女性も男性もともに働くようになるためには、男性の家事・子育て・介護などへの積極的な参加が欠かせない。これまで男性の多くは、男女共同参画を「女性の問題」「それぞれの家庭の問題」と捉えてきたが、そうではなく、「男性の問題」でもあり、「社会的な問題」として捉える必要がある。

男性の自殺者数は、女性より2倍以上多いが、特に50代男性の自殺率は、女性の3倍以上にのぼる。本調査でも、6割弱の男性が、「男はつらい」と感じており、特に50歳代の男性は7割強と一番多い。

つらいと感じる内容で多いのは、「家族を養うのは男の責任」「仕事の責任が大きく、仕事ができたり前」といわれることである。まさに、男性も固定的な性別役割分担意識によって追い詰められていることがわかる。「男だから頑張れ」といわれ、常にリードすることを求められ、その結果、つらいことがあっても、相談する相手がいない、という男性像が浮かび上がってくる。

このように、女性だけでなく男性も固定的な性別役割分担意識に囚われない方が楽に生きられるし、自分一人で家族を養っているという肩の荷を下ろすことができれば自殺にまで追い込まれない。

今後は、このような男性のしんどさを分かち合うことのできる場（交流の場）を企画・提供することや、悩みを聞く相談先としての機能も求められるのではないだろうか。

そうすることが、自殺予防にもつながり、なかなか自分の気持ちをうまく伝えることができず、そのために暴力をふるってしまう男性の歯止めにもなる可能性がある。

男女共同参画を推進するための施策として、男性からは、男女共同参画に関する政策・事業について市民の声を聞く制度を充実させてほしいとか、生き方や悩みに関する相談の場を充実させてほしい等の意見が、女性より多かった。今後は男女共同参画に男性も参加できるよう、市としても、その方法を考えていく必要があるだろう。

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこととして、「男性の意識改革」が最も重要だと思う人が男性では一番多かったが、男性の意識改革のためにも、男性の育児や家庭への参画を推進するため、情報や学習機会の提供、家庭や地域において生き生きと活躍する男性のロールモデルの発掘、発信が求められる。

3. 女性リーダーの育成

女性リーダーを増やすための方策としては「女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う」ことを求める意見が女性からは一番多く、これに「家族で家事を分担する」が続く。その次は、「女性リーダーに対する男性の意識を変える」というもので、男性の回答としては一番多い。

男女とも2人に1人の割合で、現在はどんな活動にも参加していないが、今後も参加したくない女性の割合は2割を割っている。これは、活動に参加したいができていない人がいるということである。

今後、女性の高齢単身世帯が増えていくのであるから、調査結果を生かした活動を支援していくことが必要であろう。特に、女性は「公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動」に参加したい人の割合が高いので、そのような活動グループが増えるよう、一時保育や場の提供などの支援を行うことにより、女性リーダーを増やしていくこと、女性リーダーを増やすことによって、男性の意識を変えていくことが求められる。

なお、市職員の女性管理職は少し宛増えてはいるが、微増であり、職員割合からすると、少なすぎる。地域で活躍する女性リーダーを増やすことや、事業所に対する啓発の意味からも、今後市としても女性管理職を増やすための努力が必要である。市ができないことを事業所や地域に進めて行くことはできないのであるから、まず市が率先して見本を見せることが求められる。

そのためには、女性職員の意識啓発も必要であるが、市全体として積極的に女性が管理職になるよう背中を押し、かつ育成する等の環境整備が大事である。また女性が働き続けていく上での悩みや心配事について相談に乗り、助言するメンター制度の検討や、身近なロールモデルの発掘や活躍事例の情報提供などにも取り組むべきであろう。

4. 最後に

これまで「女性問題」とされ、女性が中心になって進めてきた男女共同参画であるが、これからは男性自身の問題として、ともに考えて行かなければならない社会問題と認識する必要がある。

今後、少子高齢化はますます進んでいく。企業も、女性や高齢者を積極的に活用していかなければ事業の継続ができない時代に入っている。少子化を防ぐためには、行政や企業が再生産費用（子育てにかかる費用）を負担しなければならない。子育てを家庭の責任、個人の責任として放置しておける状況ではない。

家事・育児は女性だけでなく、男女の家庭責任であり、子育て中の人は男女問わず、高度成長時代の企業戦士のような働き方はできないこと、それを求めているは、社会は持続していかないことを認識すべきである。

男女問わず、これまでの固定的な性別役割分担意識にとらわれず、それぞれの個性にあったやり方で、人生をいきいきと過ごしていきたいと望む人は増えている。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉はまだまだ浸透していないが、右肩上がりに収入の増えない時代である。

1人が働いて稼ぐより、2人で同じ額を稼げばいいなら、1人の労働時間は短くて済む。そうすれば、家事・育児も同じく負担できる。どちらかが病気で倒れたり、リストラにあったとしても、何とか食べていける。仕事が男だけの肩にかかってこないから、男性も楽になる。育児は大変だけれど、手をかけた分だけ子どもはなついてくれる。家庭での会話がはずむ。育児に手が掛からなくなったら、趣味の時間や地域社会と関わる時間を持つことができる。定年退職しても、濡れ落ち葉といわれない。熟年離婚にならない・・・etc。

ワーク・ライフ・バランスを考えた人生設計は悪くない。

そういう人生が歩めるよう、できる限りのバックアップ体制が取れるような市であってほしいと思う。

《執筆者略歴》

矢倉昌子（やくら あきこ）

アスカ法律事務所パートナー弁護士

1987年4月 大阪弁護士会にて弁護士登録

女性のための法律相談担当（茨木市ローズワム，豊中市すてっぷ，東大阪市イコーラム，大阪府立女性相談センター等）

※泉佐野市との関係：平成20年～いずみさの女性センター及び泉南3市3町実施の女性のための法律相談や法律セミナーを担当

■主な役職

大阪弁護士会において

男女共同参画推進本部副本部長

医療問題特別委員会副委員長

人権擁護委員会委員その他

行政において

吹田市男女共同参画苦情等処理委員

豊中市男女共同参画審議会委員

大阪市精神保健福祉審議会委員

大阪市医療事故調査委員会委員その他

■主な著書

「医療過誤事件マニュアル」（共著・大阪弁護士会 医療過誤事件マニュアルプロジェクトチーム編）大阪弁護士協同組合

■主な業務分野

医療事件、離婚・遺言・相続などの家事事件、事業承継，事業再生，個人及び会社の破産・民事再生等申立、中小企業の顧問・法律相談、一般民事事件

企業におけるセクシュアルハラスメント・パワーハラスメント対策やメンタルヘルス、ワーク・ライフ・バランスに関する講演等

資料（調査票）

はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

1. 女性 (58.9%) 2. 男性 (40.9%)

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 20歳代 (13.3%) 2. 30歳代 (21.7%) 3. 40歳代 (26.1%)
4. 50歳代 (26.6%) 5. 60歳代以上 (12.0%)

問3 あなたが現在、お住まいの校区はどちらですか。(○は1つ)

1. 佐野中学校区 (18.1%) 2. 新池中学校区 (19.8%) 3. 第三中学校区 (20.3%)
4. 日根野中学校区 (19.5%) 5. 長南中学校区 (17.5%) 6. 不明 (町) (3.8%)

中学校区が不明な場合は、町名をご記入ください

問4 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

1. 未婚 (18.9%)
2. 結婚している、または結婚していないが、パートナーと暮らしている (72.0%)
3. 結婚したが、離別または死別した (9.1%)

問5 あなたの家族構成は、次のどれですか。(○は1つ)

1. 一人世帯 (10.9%)
2. 夫婦だけの世帯 (16.9%)
3. 夫婦と子どもの世帯 (人家族) (49.2%)
4. 父親と子ども、または、母親と子どもの世帯 (人家族) (8.4%)
5. 三世代(親と子と孫)の世帯 (人家族) (11.4%)
6. その他(具体的に): (人家族) (2.8%)

問6 あなたはお子さんがありますか。(○は1つ)

1. 子どもはいない (29.4%)

2. 子どもがいる (69.7%)

【問6で「2. 子どもがいる」に○をつけられた方におたずねします】

問6-1 一番下のお子さんの年代はどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 3歳未満 (13.9%) 2. 3歳以上就学前 (8.3%) 3. 小学生 (20.2%)
4. 中学生 (5.6%) 5. 高校生 (8.5%) 6. 大学生以上 (43.3%)

問7 あなたの就労の状況について一番近いのはどれですか。(○は1つ)

1. 会社・団体・官公庁などの正社員・正職員 (39.5%) 2. 契約社員や派遣社員 (6.9%)
3. パート・アルバイト(学生バイトを除く) (18.1%) 4. 自営業主または家族従業員 (7.8%)
5. 学生 (2.3%) 6. 専業主婦・主夫 (14.8%)
7. 無職(専業主婦・主夫を除く) (8.0%) 8. その他 () (1.1%)

続いて、質問にはいります。

問8 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. そう思う (5.0%) | 2. どちらかといえばそう思う (34.1%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない(20.3%) | 4. そうは思わない (38.3%) |
| 5. その他(具体的に) | (2.0%) |

問9 結婚、家庭生活について、あなたのご意見をおうかがいします。あなたのお考えに近いものはどれですか。(〇はそれぞれ1つ)

	賛成	どちらかといえば	反対	どちらかといえば	反対	わからない
① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	45.9%	26.3%	17.7%	4.8%	5.0%	
② 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	33.4%	24.4%	23.4%	9.8%	8.1%	
③ 結婚してもうまくいかないときは離婚することもやむを得ない	39.1%	37.2%	14.1%	3.4%	5.9%	

問10 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。また、実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。(〇はそれぞれ1つ)

全員が お答えください					配偶者・パートナーのいる方のみ お答えください					
理 想					現 実					
夫婦・カップルで同じくらい分担	主に夫・パートナー(男性)	主に妻・パートナー(女性)	わからない		夫婦・カップルで同じくらい分担	主に夫・パートナー(男性)	主に妻・パートナー(女性)	その他の人	該当しない	
25.8%	63.9%	1.1%	5.0%	①生活費をかせぐ	19.1%	75.5%	2.4%	0.0%	1.1%	
27.7%	4.7%	58.6%	4.2%	②日常の家計の管理	9.8%	9.3%	78.3%	0.2%	0.4%	
39.8%	0.9%	50.6%	3.9%	③日常の家事	14.8%	1.7%	80.3%	0.7%	0.4%	
63.8%	0.9%	20.8%	9.5%	④家族の介護や看護	24.1%	1.5%	43.4%	1.1%	27.3%	
70.6%	0.8%	19.7%	4.4%	⑤育児や子どもの教育としつけ	36.2%	1.5%	47.3%	0.0%	11.9%	
59.1%	14.5%	11.6%	9.8%	⑥町内会や自治会など地域活動	29.1%	19.5%	32.8%	2.2%	13.7%	

問1 1 あなたの生活の中で、「仕事」と「家庭・地域活動」、「個人の生活」の優先度についておうかがいします。あなたの現実と希望に最も近いのは、次のどれですか。
(○はそれぞれ1つ)

	「仕事」を優先	「家庭や地域活動」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先	「仕事」と「個人の生活」をともに優先	「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先	わからない
①現実（現状）としては	28.1%	7.3%	10.6%	12.3%	21.9%	7.3%	7.2%	4.5%
②希望としては	2.3%	4.1%	14.4%	8.6%	17.2%	10.6%	36.7%	4.5%

問1 2 今後、男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○はいくつでも)

1. 男性自身が仕事中心の生き方、考え方を改めること (34.2%)
2. 男性も女性も一人ひとりが男女の役割分担についての慣習やしきたりの認識を改めること (48.3%)
3. 男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの評価を高めること (43.0%)
4. 夫婦・パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと (49.4%)
5. 男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと (47.0%)
6. 男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること (24.7%)
7. 行政が労働時間の短縮など、企業に向けて啓発をすすめること (39.5%)
8. 行政が男性に向けて広報・啓発をすすめること (17.5%)
9. その他（具体的に) (4.2%)
10. 特に必要ない (3.3%)

問1 3 現在、地域や職場で活躍する女性リーダーが育っていないことが課題になっています。女性リーダーを増やすためにはどうすればよいと思えますか。(○はいくつでも)

1. 女性自身が意識を変える (33.8%)
2. 女性リーダーに対する男性の意識を変える (47.3%)
3. リーダーの役に女性を割り当てる (18.0%)
4. 女性リーダーの養成をする (25.2%)
5. 女性が活動できるように、家族で家事を分担する (46.7%)
6. 女性リーダー同士の交流の場や相談できる窓口を作る (20.3%)
7. 女性が活動しやすいグループが増えるように、一時保育や場の提供などの支援を行う (56.4%)
8. その他（具体的に) (3.0%)

問14 現在、どんな活動に参加していますか。また、今後はどんな活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)

現在 参加している		今後 参加したい
2.2%	1. 保育サポーターやファミリーサポートなどの子育て支援活動	8.9%
9.4%	2. 子どもの健全育成・PTAの活動	8.6%
3.4%	3. 高齢者・障がい者等の生活支援や介護ボランティア	10.6%
16.3%	4. 自治会活動	9.4%
4.1%	5. 防犯・防災活動（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）	8.0%
7.5%	6. 清掃、緑化などまちの美化や景観、自然環境を守る活動	17.7%
1.9%	7. 国際交流活動	13.4%
1.1%	8. 行政の審議会等の活動	4.1%
1.7%	9. 自立支援や人権擁護などの活動	4.4%
7.0%	10. 公民館や体育館のクラブなどの生きがい作りの活動	24.2%
1.9%	11. その他（具体的に）	1.4%
48.6%	12. どれにも参加していない・参加したくない	19.4%

問15 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
① 家庭生活で	15.6%	41.3%	25.8%	8.1%	0.8%	6.9%
② 職場の中で	22.7%	37.8%	20.3%	7.2%	0.8%	9.5%
③ 地域活動の場で	10.3%	24.2%	28.6%	5.8%	0.8%	28.3%
④ 学校教育の場で	4.1%	13.0%	45.9%	5.6%	0.6%	28.8%
⑤ 政治の場で	28.1%	42.3%	12.0%	2.8%	0.3%	13.1%
⑥ 法律や制度の上で	13.4%	30.9%	26.1%	8.1%	1.3%	19.1%
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで	26.6%	47.8%	9.4%	2.2%	0.8%	12.0%
⑧ 全体として	17.8%	48.8%	14.2%	2.3%	0.9%	15.0%

問16 あなたに未成年の子どもがいると仮定して、あなたは、将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。(〇は各項目にそれぞれ1つ)

	特に女子に	女子・男子の両方に	特に男子に	女子・男子の両方に望まない
① 社会的な地位を得る	1.6%	48.0%	20.3%	24.1%
② 経済的に自立した生活をする	3.1%	78.4%	15.3%	1.4%
③ 炊事、掃除、洗濯などの家事ができる	15.6%	78.4%	2.5%	0.8%
④ 社会に貢献する	1.4%	83.9%	6.1%	5.5%
⑤ 本人の個性や才能を生かした生活をする	2.7%	90.6%	2.3%	2.2%
⑥ 本人の意思に任せる	2.8%	87.3%	3.4%	3.6%
⑦ その他(具体的に)	0.2%	8.1%	0.3%	

問17 あなたが小・中学校ですすめてほしい男女平等への取組みは、どれですか。

(〇はいくつでも)

1. 男女で協力して家事や育児ができるように教える (55.0%)
2. 人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるようすすめる (40.6%)
3. 男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする (73.8%)
4. こころとからだを大切にする、年齢に応じた性教育を行う (46.1%)
5. 性暴力やセクシュアル・ハラスメントなどについて学習する機会をもつ (34.7%)
6. 男女にかかわりなく、働くことの意義を教える (67.2%)
7. 男女にかかわりなく、校長・教頭に登用するよう努める (16.3%)
8. 保護者と教職員がともに男女平等教育について学習する機会をもつ (24.4%)
9. その他(具体的に) (2.5%)
10. 現状のままでよい (1.3%)

【男性の方におたずねします】 問1で「2. 男性」と答えられた方におたずねします。

問18 あなたは「男はつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

1. ある (57.3%) 2. ない (40.8%)



【問18で「1. ある」と答えられた方におたずねします】

問18-1 それはどんなことですか。(○はいくつでも)

1. 男だから頑張れと言われる (29.3%)
2. 家族を養うのは男の責任だと言われる (45.3%)
3. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある (27.3%)
4. 常にリードすることが求められる (26.7%)
5. 仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる (41.3%)
6. つらいことがあっても、相談する相手がいない (20.0%)
7. 家族とのコミュニケーションが少ない (11.3%)
8. 衣食住に関わる家事が自立できず、生活が不便である (10.7%)
9. 自分の時間や居場所がないこと (12.7%)
10. その他 (具体的に) (2.0%)

【全員におたずねします】

問19 女性の心とからだの健康を保つために、泉佐野市はどのような取り組みをする必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 検診や健康づくりに関する情報を提供する (63.8%)
2. 年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する (43.6%)
3. 安心して出産できるよう医療体制を充実する (63.8%)
4. 女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する (57.8%)
5. 悩みや不安を相談できる体制を充実する (44.5%)
6. 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる (30.2%)
7. その他 (具体的に) (2.3%)
8. 特にない (1.9%)

問20 あなたが、日ごろ、困り事や悩み事などを話すことができるのは誰ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 家族 (74.8%) | 2. 親戚 (12.7%) |
| 3. 近隣の人 (4.1%) | 4. パートナー・恋人 (21.9%) |
| 5. 友人 (54.5%) | 6. 職場の上司 (5.2%) |
| 7. 職場の同僚 (21.7%) | 8. インターネットのサイト (2.2%) |
| 9. その他 (具体的に) (1.1%) | 10. 誰もいない (7.0%) |

問21 下欄の市や府の主な相談機関や相談窓口のうち、あなたが知っているものはどれですか。また、利用したことはありますか。(〇はそれぞれに1つ)

	知っている		知らない	
	がある 利用した こと	はない 利用した こと		
泉佐野市内	①女性のための相談（面接相談）（電話相談） ：人権推進課・いずみさの女性センター	1.9%	42.8%	52.5%
	②無料法律相談：市民生活課	8.0%	53.9%	36.3%
	③労働相談：商工労働観光課	1.7%	42.7%	52.5%
	④教育相談：学校教育課 さわやかルーム シャイン	1.6%	33.4%	61.6%
	⑤発達相談、育児相談：泉佐野市保健センター	12.3%	50.3%	34.8%
	⑥乳幼児育児相談：（地域子育て支援センター）つくしんぼ	3.1%	38.4%	55.6%
	⑦家庭児童相談、母子家庭相談：児童福祉課	3.9%	59.2%	34.5%
	⑧高齢者の虐待などの相談：地域包括支援センター	0.8%	38.0%	58.4%
	⑨総合生活相談等（就労支援や人権侵害など）：人権推進課 人権擁護委員 泉佐野人権文化センター 下瓦屋人権文化センター 樫井人権文化センター（社）泉佐野市人権協会	3.6%	49.1%	44.7%
大阪府内	⑩大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター） サポート・カウンセリングルーム、女性の悩み電話相談	1.4%	34.5%	60.8%
	⑪大阪府女性相談センター	0.3%	32.3%	63.6%
	⑫大阪府岸和田子ども家庭センター	1.7%	34.4%	60.2%
	⑬大阪府こころの健康総合センターこころの電話相談	0.5%	30.0%	65.9%
	⑭関西いのちの電話	0.2%	34.2%	61.9%
	⑮大阪自殺防止センター	0.2%	34.4%	61.9%
大阪府警	⑯ストーカー110番（大阪府警本部）	0.0%	37.3%	59.1%
	⑰性犯罪被害者相談（ウーマンライン）	0.2%	26.9%	69.2%
その他	⑱その他、上記以外で利用したことのある相談窓口 （具体的に			）（0.6%）

問22 あなたが、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------------|------------------------|
| 1. ドメスティック・バイオレンス (DV) (90.8%) | 2. デートDV (27.5%) |
| 3. 育児・介護休業法 (64.1%) | 4. 男女共同参画社会基本法 (31.7%) |
| 5. 女子差別撤廃条約 (24.1%) | |
| 6. ポジティブ・アクション (12.7%) | |
| 7. ジェンダー (29.4%) | |
| 8. 男女雇用機会均等法 (78.9%) | |
| 9. ワーク・ライフ・バランス (21.7%) | |
| 10. いずみさの男女共同参画つうしん Fine (10.3%) | |
| 11. 人ひとプラン (泉佐野市男女共同参画すいしん計画) (6.7%) | |
| 12. <u>いずみさの女性センター</u> (23.3%) | |



【問22で「12. いずみさの女性センター」に〇をつけられた方におたずねします】

問23 センターのどんな事業を知っていますか。また、利用したことがありますか。(〇はそれぞれ1つ)

	利用した ことがある	利用した ことはない
①講座やセミナー	23.5%	66.4%
②仲間づくりや団体とのネットワーク活動	9.4%	77.9%
③悩みの相談 (電話相談・面接相談)	5.4%	83.9%
④情報収集や図書の利用	12.8%	73.8%
⑤その他 (具体的に)	1.3%	45.0%
⑥どれも知らない	22.1%	

【全員におたずねします】

問24 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 性犯罪 (62.7%) | 2. 売買春 (援助交際を含む) (30.9%) |
| 3. 痴漢行為 (54.1%) | 4. 女性に対するストーカー (35.9%) |
| 5. DV (配偶者やパートナーからの暴力)・デートDV (交際相手からの暴力) に女性の被害者が多いこと※暴力には、身体的な暴力に限らず、強い束縛や行動の制限なども含む (56.9%) | |
| 6. 職場や学校等におけるセクシュアル・ハラスメント (39.7%) | |
| 7. 女性のヌード写真等を掲載した雑誌、ポルノ映画、アダルトビデオなど (20.3%) | |
| 8. 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など (17.3%) | |
| 9. 男女の固定的な役割分担意識を押しつけること (40.2%) | |
| 10. 女性の社会進出のための支援制度の不備 (28.3%) | |
| 11. 職場での男女の待遇の違い (39.2%) | |
| 12. 「女のくせに」「女だから」などという言葉 (50.0%) | |
| 13. その他 (具体的に) (0.3%) | |
| 14. 特にない (5.3%) | |

問25 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメントにあたると思いますか。
 また、あなたは、自分の意思に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうか （〇はいくつでも）	セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうか		職場でされた ことがある	学校でされた ことがある	地域活動等 のなかでされた ことがある
	←	→			
35.2%	1. 容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる		12.0%	6.6%	2.2%
46.1%	2. からだをじろじろ見られる		6.3%	1.9%	1.7%
33.0%	3. 不必要に携帯電話の番号やメールアドレスなどの個人情報をきかれる		4.2%	0.6%	1.6%
31.3%	4. 「男のくせに根性がない」や「女には仕事を任せられない」など、能力と関係のない評価を受ける		8.3%	2.7%	1.7%
12.2%	5. 「女の子、おばさん」「男の子、おじさん」など名前とは異なる呼ばれ方をする		11.1%	2.3%	3.8%
25.0%	6. 男性は力仕事や残業、女性はお茶くみなどの役割分担を強要される		15.3%	0.5%	1.7%
50.9%	7. 忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される		12.0%	0.3%	1.6%
51.7%	8. 性的な冗談やひわいなことを話題にされる		12.0%	1.1%	2.0%
75.6%	9. わざと身体に触れられる		9.7%	0.3%	0.9%
82.2%	10. キスなどの性的な行為を強要される		1.9%	0.0%	0.2%
59.1%	11. しつこく交際を求められる		2.2%	0.6%	0.5%
40.9%	12. ヌードポスター・ヌードカレンダーなどを貼られる		0.5%	0.3%	0.3%
77.3%	13. 昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる		0.6%	0.2%	0.2%
0.9%	14. その他（具体的に)		0.2%	0.0%	0.3%
4.7%	15. どれもあたらない		/		

問26 あなたは、配偶者やパートナーから次の行為をされることは、「暴力」にあたると思いますか。また、結婚している・したことがある方は、実際にされた経験はありますか。(○は各項目それぞれに1つ)

①全員がお答えください。			②配偶者やパートナーのいる方のみお答えください。			
暴力にあたると思いますか。			相手からされたことがありますか。			
もどんな場合で ると思 う	合 そう が ある で ない 場 合	暴 力 の 場 合 と は 思 わ な い 暴 力 に あ た る	た び た び あ っ た (あ る)	た ま に あ っ た (あ る)	ま っ た く い	
23.0%	51.1%	18.9%	①何をやっても、何を言っても長期間無視される	2.3%	15.6%	57.7%
46.6%	35.6%	10.5%	②あなたが大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりする	0.2%	7.2%	68.3%
45.6%	38.0%	9.8%	③ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われる	4.1%	23.9%	48.1%
27.2%	46.1%	19.5%	④交友関係や携帯電話をチェックされたり、行動を制限される	1.4%	9.8%	64.5%
63.4%	25.6%	4.8%	⑤げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされる	2.0%	7.3%	66.6%
81.4%	10.6%	2.5%	⑥平手で打たれたり、殴られたり、かまれたり、げんこつで殴られる	1.4%	8.3%	66.4%
85.0%	6.3%	2.8%	⑦身体を傷つける可能性のあるものでたたかれる	0.6%	3.8%	71.1%
59.5%	21.7%	11.7%	⑧あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	1.4%	3.6%	70.6%
66.4%	21.9%	4.5%	⑨望まない性行為を強要される	2.7%	7.0%	65.8%

1、2に1つでも○をつけた方は問27へ
すべて3に○をつけた方は問29へ

【問26の②で「たびたびあった(ある)」、「たまにあった(ある)」と答えた方におたずねします】

問27 あなたは、そのことをだれかに相談しましたか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|---------|------------------|---------|
| 1. 家族や親族 | (17.3%) | 2. 友人・知人 | (23.0%) |
| 3. 警察 | (1.2%) | 4. 保健所・保健センター | (0.4%) |
| 5. 市役所や府などの相談窓口、電話相談など | | | (0.8%) |
| 6. 子ども家庭センター・配偶者暴力相談支援センター | | | (0.0%) |
| 7. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど) | | | (2.1%) |
| 8. いずみさの女性センター | (2.1%) | 9. 法務局、人権擁護委員 | (0.0%) |
| 10. 医療機関 | (0.0%) | 11. その他(具体的に) | (0.8%) |
| 12. 相談しなかったが、しなかった | (14.8%) | 13. 相談しようと思わなかった | (43.6%) |

【問27で「12. 相談したかったが、しなかった」または「13. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします】

問28 そのとき、あなたが、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. どこに相談していいかわからなかったから (7.7%)
2. 相手の行為は愛情表現だと思い込んでいたから (12.0%)
3. 自分さえがまんすればすむと思ったから (22.5%)
4. 相談したことがわかれば、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから (1.4%)
5. 自分にも悪いところがあると思ったから (38.0%)
6. 世間体が悪いと思ったから (6.3%)
7. 相談するほどのことではないと思ったから (59.2%)
8. 無料の相談窓口があることを知らなかったから (4.2%)
9. 相談の時間帯や相談場所等が自分の都合に合わなかったから (8.5%)
10. その他 (具体的に) (5.6%)

【全員におたずねします】

問29 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること (39.4%)
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること (49.7%)
3. 女性自身が経済力を得たり、知識・技術を習得するなど、積極的に生活力や地位の向上を図ること (47.8%)
4. 女性の意識改革 (46.9%)
5. 男性の意識改革 (56.4%)
6. 小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること (41.6%)
7. 仕事と育児・介護等の両立を支援する法律や制度を整え、活用すること (51.4%)
8. 職場において性別による待遇 (配置や昇進など) の差をなくすこと (47.2%)
9. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること (31.1%)
10. その他 (具体的に) (1.1%)
11. わからない (2.7%)

問30 今後、泉佐野市で男女共同参画を推進するために、特にどのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 市の男女共同参画に関する政策・事業について市民の声を聞く場や制度を充実させる (28.3%)
2. 市民生活のさまざまな分野における“男女共同参画に関する条例”を策定する (18.3%)
3. 市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する (22.0%)
4. 男性も利用しやすいように「いずみさの女性センター」の機能を充実させ、利用促進を図る (15.9%)
5. 男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する (23.6%)
6. 市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす (20.2%)
7. 男女共同参画に関する講座や制度について、行政が積極的に広報していく (19.2%)
8. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する (19.2%)
9. 職場において男女が公平な待遇をされるよう企業等に働きかける (35.8%)
10. 女性の就職や再就職、起業、資格取得に対する支援を充実する (41.3%)
11. 男女がともに働きながら家事や育児・子育て・介護などを両立できるよう、育児や介護のための施設やサービスを充実する (62.7%)
12. 女性に対する暴力(セクシュアル・ハラスメントや配偶者・パートナーからの暴力)の防止や被害者への支援を充実する (34.1%)
13. お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする (33.0%)
14. 市の広報誌やパンフレットなどで男女平等と相互理解について啓発する (16.1%)
15. その他(具体的に) (0.8%)
16. 特にない (5.6%)

問31 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。
ご多忙の中、誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて
3月14日(月)までにお近くの郵便ポストにご投函くださいますようお願いいたします。
(切手を貼る必要はありません。)

「泉佐野市男女共同参画市民意識調査」
結果報告書

平成 23 年 3 月

(発行) 泉佐野市人権推進課

〒598-8550 泉佐野市市場東 1 丁目 295 番地の 3

TEL 072-463-1212

FAX 072-464-9314
